

柏崎市埋蔵文化財調査報告書 第86集

# 長 嶺 前 田

—新潟県柏崎市 長嶺前田遺跡発掘調査報告書—

2017

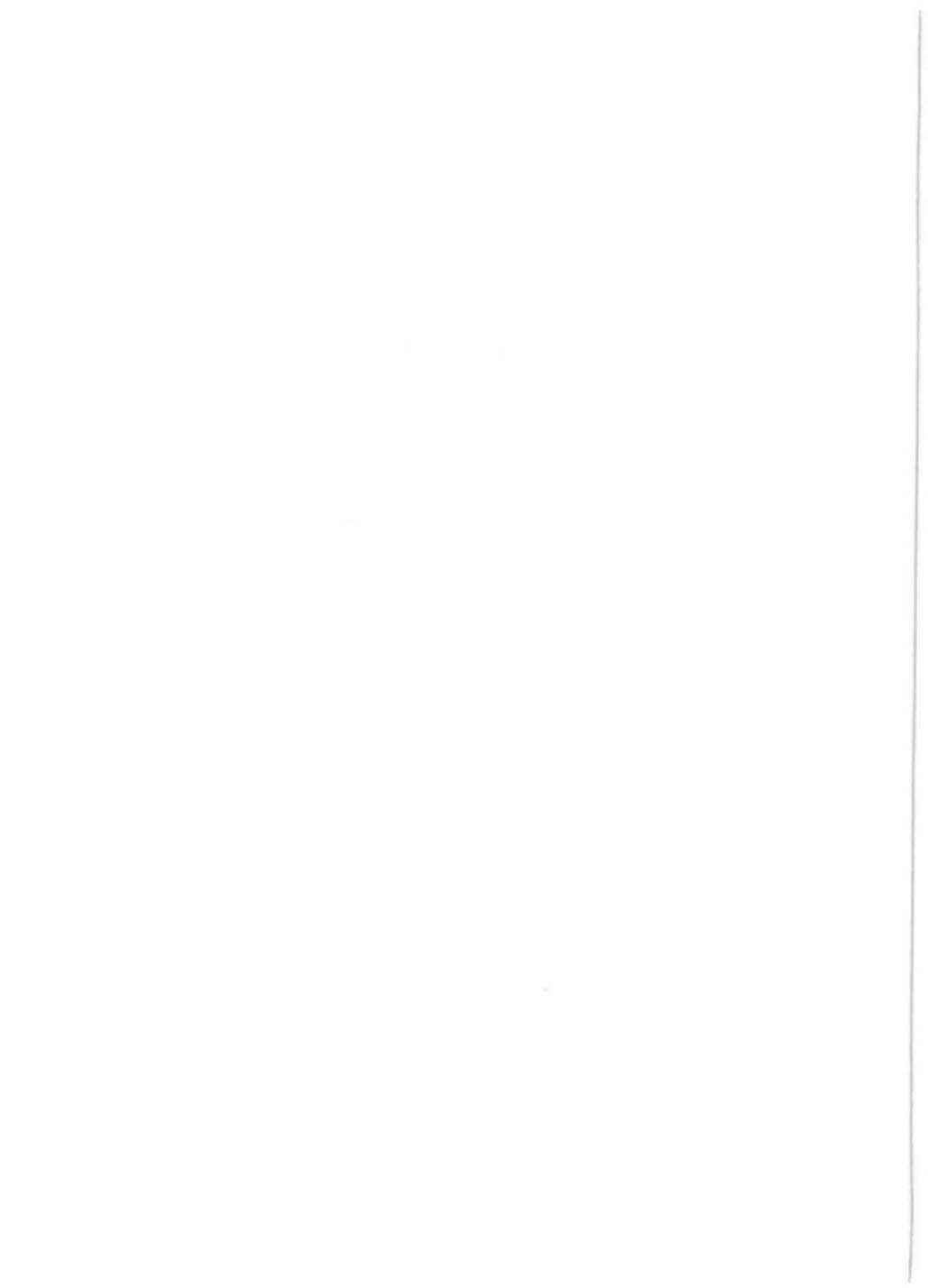
柏崎市教育委員会

# 長 嶺 前 田

—新潟県柏崎市 長嶺前田遺跡発掘調査報告書—

2017

柏崎市教育委員会



# 序

柏崎市の北部に位置する西山町地域では、内陸部と海岸部のアクセスを良好にする一般県道向山西山停車場線長嶺バイパス事業が実施されています。柏崎市教育委員会では、この事業に伴い長嶺前田遺跡と黒部古屋敷遺跡の発掘調査を行ってきました。本書は、そのうちの長嶺前田遺跡の調査成果を報告するものです。

発掘調査では、古墳時代前期から近世にかけての遺構や遺物が出土しました。断続的ではありますが、この土地で幾度も人々が集落を営んできたことがわかりました。近年、別山川流域で多くの遺跡が見つかっており、この地域における歴史が少しずつですが明らかになってきています。本書もまた、皆様にも活用いただき、地域の歴史を理解するための一助としていただければ幸いです。

最後になりましたが、このたびの発掘調査が無事に終了できたことは、ひとえに地域の皆様と事業主体者であります新潟県、また事業を担当されました柏崎地域振興局地域整備部のご理解とご協力の賜であります。また、ご指導くださった新潟県教育委員会、発掘調査に参加された皆様に対し、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成29年2月

柏崎市教育委員会

教育長 本間敏博

# 例 言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市西山町長嶺字前田・五百地・江添・札ノ木地内に所在する長嶺前田遺跡で行われた発掘調査の記録である。
2. 本調査事業は、新潟県（担当：柏崎地域振興局地域整備部道路課）を事業主体とする一般県道向山西山停車場線長嶺バイパス事業に伴う事前調査であり、柏崎市教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施したものである。
3. 発掘調査における現場業務は3地区に分け複数年にかけて実施した。調査期間は平成23年10月12日から平成26年12月19日までである。詳細は第1章に記した。整理業務は、現場業務終了後から本格的に着手し、平成29年2月まで報告書を作成した。
4. 現場業務は、柏崎市教育委員会博物館（平成26年3月31日まで教育総務課）埋蔵文化財係の職員等を調査担当・調査員・調査補助員として実施した。整理・報告書作成作業は、調査担当を中心に同系のスタッフで行った。
5. 出土した遺物には、遺跡名の略号として「ナガマエ」と註記し、地区名・遺構名・グリッド及び層序等を併記した。
6. 本報告書の執筆及び編集は中島が行った。
7. 本事業で出土した遺物並びに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会（埋蔵文化財事務所）が保管・管理している。
8. 本書掲載の図面類の方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
9. 次の業務は、関連業者への委託により実施した。

基本測量・遺構測量	……………	株式会社榮技術
空中写真撮影	……………	株式会社オリス
図版作成	……………	藤村ヒューム管株式会社本社営業部
10. 発掘調査の準備段階から本書作成に至るまで、事業主体者をはじめとする関係者等から様々な御協力と御理解を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。

長嶺町内会・新潟県教育委員会（順不同・敬称略）

# 目 次

I 序説	1
1 調査に至る経緯	1
1) 事業の概要/1	
2) 長嶺前田遺跡の発見/1	
3) 取扱いの協議と試掘・確認調査/1	
2 発掘調査	3
3 調査の方法	4
4 整理作業	5
5 調査業務の体制	5
II 遺跡をとりまく環境	7
1 長嶺前田遺跡の位置と地理的環境	7
1) 柏崎平野概観/7	
2) 別山川流域/8	
3) 遺跡周辺の地形/8	
2 歴史的環境と周辺の遺跡	9
III 調査	13
1 調査の概要	13
1) グリッドの設定/13	
2) 発掘調査区/13	
2 基本土層	13
3 各時代の概要	15
IV 遺構	16
1 遺構の概要	16
2 遺構各説	16
V 遺物	22
1 遺物の概要	22
2 古代以降の遺物	22
3 古墳時代後期の遺物	22
4 古墳時代前期の遺物	23
1) 器種分類/23	
2) 各説/25	
VI 総括	29
1 古墳時代後期	29
2 古墳時代前期	30
1) 土器/30	
2) 遺構/30	
3 長嶺前田遺跡発掘調査の成果	31
〈引用・参考文献〉	32
〈報告書抄録〉	巻末

## 挿図目次

第1図	長嶺BP事業に伴う試掘・確認調査トレンチ位置図	2
第2図	長嶺前田遺跡発掘調査区分図	4
第3図	柏崎平野の地形と長嶺前田遺跡の位置	7
第4図	別山川の旧流路と長嶺前田遺跡	8
第5図	別山川流域の遺跡	10
第6図	長嶺前田遺跡と周辺の地形・遺跡	12
第7図	長嶺前田遺跡発掘調査区とグリッド	13
第8図	長嶺前田遺跡発掘調査基本土層図	14
第9図	Ⅷ層土器集中区出土位置図	18
第10図	B-SX118炭化材出土状況	20
第11図	B-SX118遺物出土位置図	20
第12図	B-SX119遺物出土位置図	21
第13図	古墳時代前期の土器分類	24
第14図	281出土状況	27

## 表目次

表1	長嶺BP事業に伴う試掘・確認調査履歴	1
表2	長嶺前田遺跡本発掘調査の経過	3
表3	長嶺前田遺跡発掘調査の体制	6

## 別表目次

別表1	長嶺前田遺跡	遺構観察表
別表2	長嶺前田遺跡	遺物観察表

## 図版目次

図版1	上層全体図	図版14	上層個別図6
図版2	上層分割図1	図版15	中層全体図1
図版3	上層分割図2	図版16	中層全体図2
図版4	上層分割図3	図版17	中層土層図
図版5	上層分割図4	図版18	下層全体図
図版6	上層分割図5	図版19	下層分割図1
図版7	上層分割図6	図版20	下層分割図2
図版8	上層分割図7	図版21	下層分割図3
図版9	上層個別図1	図版22	下層分割図4
図版10	上層個別図2	図版23	下層分割図5
図版11	上層個別図3	図版24	下層分割図6
図版12	上層個別図4	図版25	下層個別図1
図版13	上層個別図5	図版26	下層個別図2

图版27 下層個別図3  
图版28 下層個別図4  
图版29 下層個別図5  
图版30 下層個別図6  
图版31 遺物実測図1  
图版32 遺物実測図2  
图版33 遺物実測図3  
图版34 遺物実測図4  
图版35 遺物実測図5  
图版36 遺物実測図6  
图版37 遺物実測図7  
图版38 遺物実測図8  
图版39 遺物実測図9  
图版40 遺物実測図10  
图版41 遺物実測図11  
图版42 遺物実測図12  
图版43 遺物実測図13  
图版44 遺物実測図14  
图版45 遺物実測図15  
图版46 遺物実測図16  
图版47 遺物実測図17  
图版48 遺物実測図18  
图版49 遺物実測図19  
图版50 遺物実測図20  
图版51 遺物実測図21  
图版52 遺物実測図22  
图版53 遺物実測図23  
图版54 調査区近景  
图版55 土層写真  
图版56 完掘空中写真  
图版57 遺構写真1  
图版58 遺構写真2

图版59 遺構写真3  
图版60 遺構写真4  
图版61 遺構写真5  
图版62 遺構写真6  
图版63 遺構写真7  
图版64 遺構写真8  
图版65 遺構写真9  
图版66 遺構写真10  
图版67 遺構写真11  
图版68 遺構写真12  
图版69 遺構写真13  
图版70 遺構写真14  
图版71 遺構写真15  
图版72 遺構写真16  
图版73 遺構写真17  
图版74 遺構写真18  
图版75 遺構写真19  
图版76 遺物写真1  
图版77 遺物写真2  
图版78 遺物写真3  
图版79 遺物写真4  
图版80 遺物写真5  
图版81 遺物写真6  
图版82 遺物写真7  
图版83 遺物写真8  
图版84 遺物写真9  
图版85 遺物写真10  
图版86 遺物写真11  
图版87 遺物写真12  
图版88 遺物写真13  
图版89 遺物写真14



# I 序 説

## 1 調査に至る経緯

### 1) 事業の概要

長嶺前田遺跡が所在する柏崎市は、新潟県のほぼ中央の海岸部に位置する。広ほうは東西27.40km、南北40.20km、面積は442.70km<sup>2</sup>である。海岸線の延長は約42kmと長く、米山福浦八景といった景勝地や15か所の海水浴場もあり、重要な観光資源となっている。

柏崎市北部に位置する西山町地域では、内陸部に北陸自動車道と国道116号が、海岸線沿いには国道352号が通っている。新潟県は、これらの幹線道路につながる主要地方道柏崎・高浜・堀之内線と一般県道向山西山停車場線の間を、延長約600m、幅員約11mのバイパスを新設して接続することを計画した。これにより、内陸部と海岸部のアクセスが容易になり、県内外からの観光交流人口が増加することが期待される。また、緊急時の輸送道路間が直結されるとともに、複合災害等時には避難代替路線とするなど、防災対策の強化も図れるものである。当事業は、一般県道向山西山停車場線長嶺バイパス事業（以下、長嶺BP事業）として、新潟県が事業主体となって実施されることとなった。なお、事業を担当するのは新潟県柏崎地域振興局地域整備部である。

### 2) 長嶺前田遺跡の発見

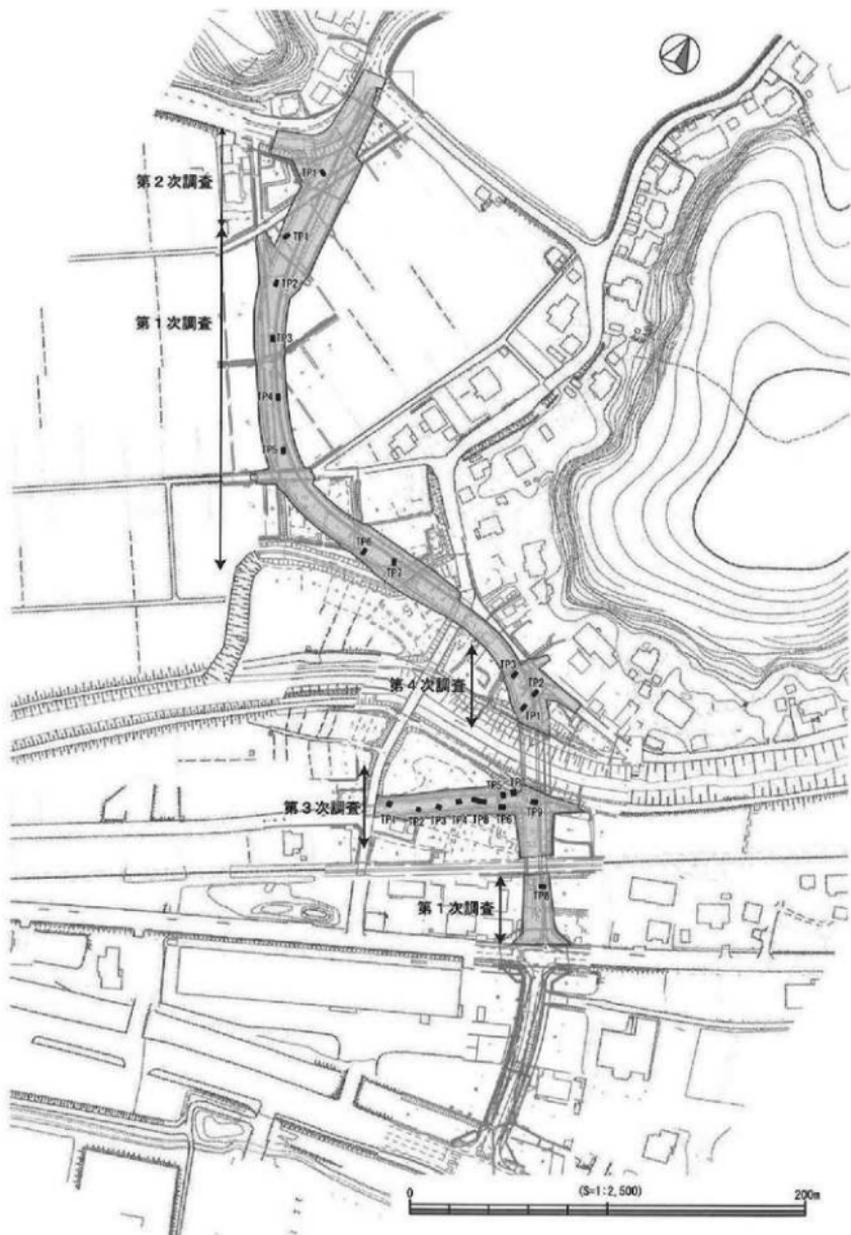
柏崎市教育委員会（以下、市教委）はこの事業が採択される以前に計画を把握したが、事業予定地の周辺では周知の埋蔵文化財包蔵地は見つかっていなかった。しかし、平成19年4月3日に現地踏査を行った際に土師器・須恵器・珠洲等が採集されたため、新発見の長嶺前田遺跡として新潟県教育委員会教育長へ報告することとなった〔柏崎市教育委員会2008〕。

### 3) 取扱いの協議と試掘・確認調査（表1・第1図）

平成19年4月12日に事業を担当する地域整備部へ長嶺BPの法線内で長嶺前田遺跡を発見したことを伝え、事業の実施に当たってはその取扱いについて協議するよう依頼した。この段階では事業採択はされていなかったが、法線の変更は当事業の趣旨や、地形的な制約から困難とのことであった。

表1 長嶺BP事業に伴う試掘・確認調査履歴

No.	種別	期間	法99条通知	終了報告	調査面積	成果
1	確認調査	H22. 11. 16～ H22. 11. 18	H22. 11. 15 教総第579号	H22. 11. 22 教総第591号	34.5㎡ 8カ所	長嶺前田遺跡の概要確認
2	確認調査	H23. 10. 20	H23. 10. 19 教総第578号	H23. 11. 1 教総第582号	4.5㎡ 1カ所	遺構・遺物なし
3	試掘調査	H23. 11. 17～ H23. 11. 18	H23. 11. 10 教総第584号	H24. 3. 22 教総第584号の2	54㎡ 9カ所	黒部古屋敷遺跡を発見
4	試掘調査	H24. 11. 14	H24. 11. 12 教総第608号	H24. 11. 19 教総第608号の2	18.81㎡ 3カ所	遺構・遺物なし



第1図 長瀬BP事業に伴う試掘・確認調査トレンチ位置図

事業が正式に採択された後の平成21年7月15日、市教委は地域整備部より事業の詳細やスケジュールなどについて説明を受けた。用地取得は平成22年度以降に開始される予定であり、これに合わせて試掘・確認調査を行い、本発掘調査の要否や実施計画について協議することとした。

第1次調査は平成22年11月16日から18日に、長嶺地区と黒部地区の3,300㎡を対象に行った。試掘トレンチは長嶺地区に7カ所、黒部地区に1カ所を設定した。長嶺地区では、遺構や遺物が分布する範囲と、腐植物層が堆積する湿地帯痕跡の範囲を確認した。翌年度も耕作を控えた水田のため、下層の遺構面の検出は行わなかった。黒部地区では遺構や遺物は出土しなかった。この調査の結果を地域整備部に報告し、翌平成23年度の本発掘調査の計画について協議を行った。

第2次調査は、平成23年10月20日に行った。分布調査で多くの須恵器が採集された地点の西山丘陵の裾付近を対象とした。調査の結果、上部には厚い客土が盛られ、その下位に腐植物層が堆積していた。採集された遺物は客土に伴うものと判断し、本発掘調査は不要とした。

第3次調査は、黒部・鬼王地区の1,300㎡が対象で、9カ所のトレンチで調査した。遺物は1点だけであったが、複数のトレンチで遺構を検出した。新発見の黒部古屋敷遺跡として、新潟県教育委員会教育長へ報告した。黒部古屋敷遺跡は平成24年度に記録保存のための本発掘調査を行い、平成25年度に発掘調査報告書を刊行した〔柏崎市教育委員会2014〕。

第4次調査は別山川に隣接する宅地を対象に平成24年11月14日に実施した。宅地の整地層の下に灰色粘土層が厚く堆積しており、さらに掘り下げると青灰色粘土層を検出した。遺構や遺物は確認できず、遺跡は存在しないと判断した。

これまでの試掘調査により、当事業予定地内における本発掘調査が必要な範囲を確定した。

前述したとおり当事業の法線の変更は困難であり、事業予定地内の埋蔵文化財は記録保存のための本発掘調査を行うこととなった。本発掘調査は平成23年度の稲刈り後から、用地取得が完了した範囲で開始した。その後は、試掘調査の結果や用地の取得状況により順次計画を変更した。また、平成23年度の本発掘調査中に、遺構面が複数存在することが判明し、このことも計画変更の要因となった。

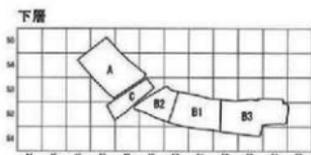
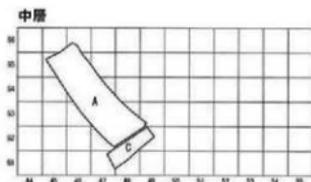
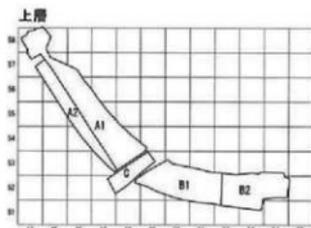
結果として、当事業にかかる本発掘調査は平成23年度から平成26年度の4か年にかけて行った。各年度の文化財保護法に係る手続、調査期間は表2のとおりである。

## 2 発掘調査

発掘調査は、用地取得の進捗状況に合わせ、調査対象範囲を分割して行った（第2図）。

表2 長嶺前田遺跡本発掘調査の経過

No.	法第94条の通知	県教委指示文	法99条通知	終了報告	発掘調査期間	備考
1	H23. 8. 4 柏振地第240号	H23. 8. 18 教文第571号の2	H23. 10. 5 教総第575号	H23. 12. 28 教総第575号の2	H23. 10. 12～ H23. 12. 10	長嶺前田遺跡 710㎡
2	H24. 3. 30 柏振地第637号	H24. 4. 13 教文第73号の2	H24. 4. 26 教総第517号	H24. 12. 15 教総第517号の2	H24. 5. 18～ H24. 7. 30	長嶺前田遺跡 960㎡
3	H24. 5. 31 柏振地第126号	H24. 6. 8 教文第293号の2	H24. 7. 12 教総第560号	H24. 12. 5 教総第560号の2	H24. 8. 6～ H24. 11. 19	黒部古屋敷遺跡 750㎡
4	H25. 4. 3 柏振地第30号	H25. 4. 10 教文第64号の2	H25. 6. 18 教総第558号	H25. 2. 12 教総第678号	H25. 6. 21～ H25. 12. 12	長嶺前田遺跡 1,100㎡
5	H26. 3. 26 柏振地第689号	H26. 4. 16 教文第91号の2	H26 博第588号	H26 博第618号	H26. 10. 29～ H26. 12. 19	長嶺前田遺跡 270㎡



第2図 長嶺前田遺跡発掘調査区分図

#### 平成 23 年度

調査期間は、10月12日から12月10日である。A地区全体を調査する予定であったが、一部で用地取得が間に合わず、A1地区のみを調査することとなった。土坑の調査中に下位の包含層が存在することが判明した。そのため、当年度中の調査完了は困難となり、調査中の遺構面の調査を完了させ、平成23年度の発掘作業を終了した。

#### 平成 24 年度

5月18日から調査を行った。A2地区上層の調査から開始したが、過去のほ場整備に伴う攪乱が調査区の約半分を占めていた。5月31日に上層の調査を完了し、A地区全体で下位層の調査に着手した。この層の遺構の調査中に、さらに下位の遺構面が存在することが判明し、継続して調査することとなった。7月11日にこの層の調査を完了し、最下層の調査を開始した。遺構、遺物ともにそれほど多くなく、分布範囲も狭かったため、7月31日にA地区の調査を完了することができた。当年度は引き続き黒部古屋敷遺跡の発掘調査を行った。

#### 平成 25 年度

B地区の調査を6月21日から行った。掘削土の搬出ができなかったため、調査区を東西に分割し、西側の上層B1地区から調査を開始した。この面の調査は7月25日に完了した。下位層への掘削を開始したが、中層の遺構面は検出されず、最下層の遺構面に達した。調査区の壁面を精査したが中層の遺構面は確認できなかった。掘削土の処理が困難となり、西端部の一部を掘り残さざるを得なくなり、さらに調査区を分割することとなった。下層B1地区の調査を9月24日まで行い、引き続き下層B2地区の調査を10月4日まで行った。その後、上層B2地区の調査を行った。上層B1地区の東端部で、上層と最下層が近接して検出されたが、上層B2地区では同一面で上下層の遺構が検出された。この地区の調査は12月12日に完了し、当年度の調査を終了した。

#### 平成 26 年度

現市道部分のC地区の調査を行った。農作業等で頻繁に往来がある道路のため、稲刈り後の10月29日から開始した。調査区が狭小なうえ、軟弱地盤であることから軽量鋼矢板で土留めを行ったが、中層以下では安全を確保するため調査区を縮小せざるを得なくなった。12月19日調査を完了し、当事業に係る現場作業を完了した。

### 3 調査の方法

#### 表土掘削と遺構検出

表土の掘削は法面バケットを装着したバックホウを用い、遺物包含層の発掘は人力で行った。遺構検出面まで掘り下げた後に、鋤鏟などを用いて遺構検出を行った。検出した遺構はマーキングし、遺構概略図

を作成して種別を問わず連番を付した。

#### 遺構発掘

遺構の掘削は、大型の遺構以外は半截を基本とし、大型の土坑等は土層観察用の畦を残して掘り下げた。その後、必要な記録を作成するとともに、遺構台帳に記載して完掘した。出土遺物は、遺構外のは小グリッドと出土層位などを、遺構内のは遺構番号と出土層位を記録した。一括遺物などは、状況に応じて詳細図を作成したもの、トータルステーションで出土地点を記録したものなどがある。遺構完掘状況の平面図の作成は、業務委託による電子平板測量で行った。他の遺構の調査などで事前に破壊する必要がある遺構は、調査員がトータルステーションにより観測し、後に業務委託によるデータと合成した。

#### 写真

遺構個別や遺物出土状況の写真撮影は、調査担当が行った。使用したフィルムは35mmリバーサルと35mmモノクロネガである。フィルムの感度はISO100を基本としたが、10月以降はISO400を使用した。また、1200万画素一眼レフデジタルカメラ、コンパクトタイプのデジタルカメラも記録用に随時用いた。

全体完掘後にRCヘリコプターによる空中写真の撮影を業務委託により実施した。この撮影では、35mmカラーリバーサルフィルム、67判カラーネガとカラーリバーサル、2100万画素一眼レフデジタルカメラを使用した。

## 4 整理作業

発掘調査と並行して出土遺物の洗浄と注記作業を行った。遺跡名の略号は「ナガマエ」を用い、他に調査区名、出土遺構やグリッド、層位等を併記した。その後、接合作業、実測図の作成を行った。図化する遺物は、器種や部位が把握できるものを主に選択した。合わせて、発掘作業で作成した記録類の整理を行った。

基礎整理作業に引き続いて発掘調査報告書の作成を開始した。図面図版および写真図版の作成は、業務委託によるデジタル編集で行った。原稿の執筆は全て調査担当が行った。

## 5 調査業務の体制

平成23年度から平成26年度の現場業務から整理作業を経て、平成28年度の報告書刊行に至るまでの体制は表3の通りである。

表3 長嶺前田遺跡発掘調査の体制

調査主体 柏崎市教育委員会  
 教育長 小林和徳（平成23年10月まで）  
 大倉政洋（平成23年10月から平成27年10月）  
 本間敏博（平成27年10月から）

## 平成23年度

担当：教育総務課遺跡考古館埋蔵文化財係  
 総括 本間敏博（教育部長）  
 猪俣哲夫（教育総務課長）  
 監理 品田高志（埋蔵文化財係長）  
 庶務 田中裕美子（非常勤職員）  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員  
 社団法人柏崎市シルバー人材センター会員

## 平成24年度

担当：教育総務課遺跡考古館埋蔵文化財係  
 総括 本間敏博（教育部長）  
 猪俣哲夫（教育総務課長）  
 監理・庶務 小池繁生（課長代理兼埋蔵文化財係長）  
 高橋真美（非常勤職員）～9月  
 重住千夏（非常勤職員）10月～  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員  
 社団法人柏崎市シルバー人材センター会員

## 平成25年度

担当：教育総務課遺跡考古館埋蔵文化財係  
 総括 本間敏博（教育部長）  
 力石宗一（教育総務課長）  
 監理・庶務 小池繁生（課長代理兼埋蔵文化財係長）  
 庶務 重住千夏（非常勤職員）  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 調査支援 藤村ヒューム管(株)本社営業部柏崎営業所  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員  
 (株)藤村ヒューム管

## 平成26年度

担当：博物館埋蔵文化財係  
 総括 本間敏博（教育部長）  
 力石宗一（博物館長）  
 監理・庶務 小池繁生（館長代理兼埋蔵文化財係長）  
 庶務 重住千夏（非常勤職員）  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 調査員 池田朝子（非常勤職員）  
 調査支援 藤村ヒューム管(株)本社営業部柏崎営業所  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員  
 公益社団法人新潟県シルバー人材センター連合会

## 平成27年度

担当：博物館埋蔵文化財係  
 総括 猪俣哲夫（教育部長）  
 力石宗一（博物館長）  
 監理・庶務 小池繁生（館長代理兼埋蔵文化財係長）  
 庶務 重住千夏（非常勤職員）  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 調査員 池田朝子（非常勤職員）  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員

## 平成28年度

担当：博物館埋蔵文化財係  
 総括 猪俣哲夫（教育部長）  
 田村光一（博物館長）  
 監理・庶務 多田利行（館長代理兼埋蔵文化財係長）  
 庶務 重住千夏（非常勤職員）  
 調査担当 中島義人（主査・学芸員）  
 調査員 池田朝子（非常勤職員）  
 作業員 埋蔵文化財係非常勤職員

## II 遺跡をとりまく環境

### 1 長嶺前田遺跡の位置と地理的環境

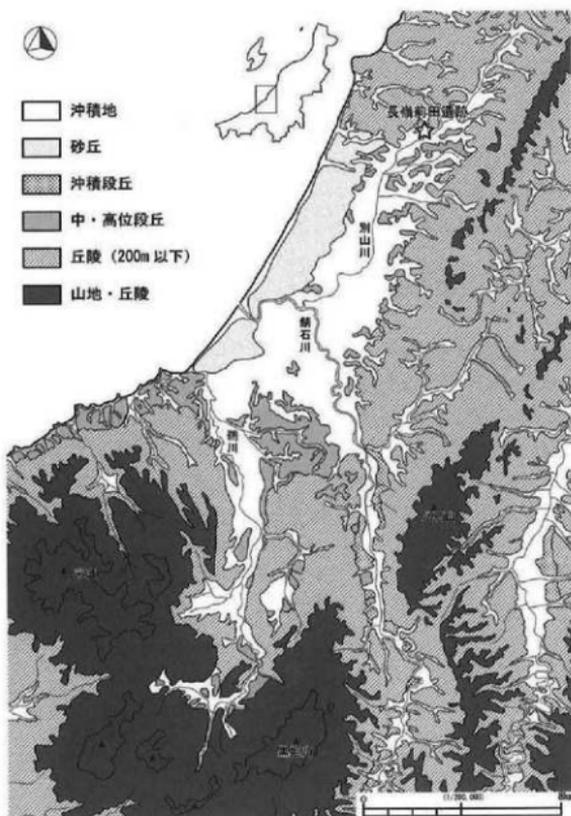
#### 1) 柏崎平野概観

柏崎市は新潟県のほぼ中央の日本海沿いに位置する。市域の中心となる柏崎平野は、鯖石川と鶉川を主要河川とする臨海沖積平野で、周囲は東頸城丘陵の一部の丘陵や山塊に囲まれ、信濃川水系の越後平野や関川水系による頸城平野と隔てられる。

この丘陵地形は、刈羽三山と呼ばれる米山・黒姫山・八石山を頂点に西部、中央部、北東部に分けられる。

西部は、米山を頂点とした傾斜の強い山塊で、この山塊・丘陵地形の広がりには低位・中位・高位の段丘による断崖として海岸部まで続き、沿岸部には沖積地や砂浜は少ない。中央部は、頂点となる黒姫山の北側で緩やかに高度が下がり、湿地性の強い沖積地に接する一帯に広い中位段丘を形成する。北東部は、北東方向の背斜軸に沿って、丘陵や山地が規則的に並び、向斜軸に沿って別山川・長鳥川といった鯖石川の支流が南西方向に流れ出て、その流域に谷底状の沖積地を形成する。

平野の地形は、中・上部更新統～完新統からなる段丘、多くが地下に埋没した上部更新統からなる古(旧期)砂丘のほかに、更新統の最上部～完新統からなる河道・旧河道・自然堤防・後背湿地・新砂丘などに区分される[柏崎平野団体研究グループ1979]。日本海に面する北西部は海岸に沿って荒浜砂丘・柏崎砂丘が横たわり、現在では柏崎



第3図 柏崎平野の地形と長嶺前田遺跡の位置

の市街地がこれを覆っている。平野部をなす沖積地は、砂丘後背地として湿地性が強く、鶴川・鯖石川の蛇行により、各所に自然堤防が形成される。

## 2) 別山川流域

別山川は延長17.4kmの2級河川で、鯖石川の最大の支流である。出雲崎町との境界に近い柏崎市西山町別山字甲戸地内からおおむね南南西へ向かって流れだし、鎌田川や坂田川、妙法寺川等の支流を合わせて、柏崎市上原付近で鯖石川に合流する。流域には氾濫原堆積物からなる沖積層が広がり、随所に独立した小丘陵が点在する。流域の区分は定まっておらず、ここでは便宜的に旧西山町域を上流域、刈羽村域を中流域、鯖石川との合流点からの旧柏崎市域を下流域とする。別山川の両岸には背斜軸を描る二筋の丘陵が並んで南南西から北北東へ伸びている。ここでは、西側の丘陵を西山丘陵とし、東側は曾地丘陵とする。上流域では東西の丘陵から伸びる支尾根が別山川の両岸に迫り、平地部は谷底状に狭まる。中流域では、西山丘陵は高度を減じて荒浜砂丘に続いて、東西の山裾が狭まるため、別山川沿いの沖積地が大きく広がっていき、下流域に続いていく。

西山丘陵は荒浜砂丘に端を発するもので、海岸線沿いを北北東方向に延び、国上山・弥彦山・角田山へと続いている。西山地内での標高は140m前後で、頂部は不明瞭でなだらかな丘陵である。西麓は海岸部付近まで続く。ここから日本海に流れ出る川には、仁位殿川、大津川、尾町川等があり、これらの河口付近では砂浜が形成される。東麓は幾筋もの支尾根があり、この間から別山川へ向かって小河川が流れ出す。曾地丘陵は、東頸城丘陵の北端から連なり、信濃川左岸の大河津分水路付近まで北北東へ続く。標高は350m前後で、尾根筋が明瞭な丘陵である。曾地丘陵の西麓も別山川付近まで伸び、樹枝状の小谷からは別山川の小支流が流れ出す。この二筋の丘陵は出雲崎町との境界付近で麓の境が不明瞭となり、南南西へ向かって流れる別山川と、北北東へ向かう鳥崎川の分水嶺となる。

## 3) 遺跡周辺の地形

長嶺前田遺跡は、別山川右岸の柏崎市西山町長嶺字前田・五百地・江添・札ノ木地内に所在する。

北側には西山丘陵から伸びる支尾根が二股に分かれて迫り、この間を塞ぐように農業用のため池が設けられている。長嶺地区の諏訪神社の由緒書によると、元禄13年(1700)頃の干ばつの被害が甚大だったため、その後ため池を作ったと記されている。

長嶺前田遺跡の南を別山川が東北東から西南西に向かって流れている。現在はほぼ直線的な流路となっているが、河川改修前は遺跡の南東部で北へ大きく蛇行していた(第4図)。このため、大雨の際には幾度も浸水の被害が出たとのことである。遺跡の西側、別山川の右岸側には支尾根に囲まれたやや広い沖積地が広がり、大部分は水田として利用されている。長嶺前田遺跡は、別山川と西山丘陵から伸びる支尾根に囲まれた、長さ1km、幅500mほどの沖積地の東端部、後背に支尾根の先端が迫る部分に位置することとなる。



第4図 別山川の旧流路と長嶺前田遺跡

## 2 歴史的環境と周辺の遺跡

### 弥生時代

弥生時代前期末から中期前半の遺跡は、小丸山遺跡と高塩B遺跡がある。いずれも海浜部の砂丘に立地する。小丸山遺跡では、発掘調査により土坑群が検出され、まとまった量の土器も出土した。しかし、住居はみられず、土坑の性格も不明であり、集落が形成されたかは明らかでない。高塩B遺跡では土器片が採集されたとされるが、詳細は不明である。県内他市の状況からは、この時期に稲作を生業の基盤としたとは認められない。

中期後半になると、別山川下流域の下谷地遺跡で稲作が本格化する状況を見て取ることができる。国指定史跡となった下谷地遺跡は、別山川下流域の沖積地のほぼ中央に位置する。北陸自動車道の建設に伴い1978～1979年に発掘調査が行われた。当期の遺構では、住居跡6棟、掘立柱建物11棟、方形周溝墓4基、土壌墓、貯蔵穴等が見つかり、当期の集落の様相が明らかとなった。また、管玉などの玉作が行われていたことも判明した。この時期の土器は北陸系の小松式土器が主体で、信州栗林系や両者の折衷型の土器も用いられた。箕輪遺跡は、南北を鶴川支流の源太川と横山川に挟まれた丘陵先端付近の沖積地に立地し、周囲は低湿地の様相を呈する。建物は未確認であるが、下谷地遺跡と同様に北陸系の土器に信州系の土器、玉作り関連資料が出土した。下谷地遺跡や岩野遺跡、萱場遺跡では東北南部系の土器も出土している。

後期になると遺跡数が増加するとともに、立地に変化が見られる。別山川中流域の西谷遺跡は、後期中頃から古墳時代前期初頭までの長期間継続することが特徴的である。出土土器には他地域のものがまとめて搬入されていることから、広域的な交流を行った中核的な集落と考えられる。また、背後の丘陵では環濠も見つかっている。別山川下流域の吉井遺跡群では曾地丘陵の裾付近に位置する戸口遺跡が中心的な集落となる。

後期後半になると確認できる遺跡数が増加し、西岩野遺跡や内越遺跡、坪之内遺跡、野崎遺跡、田塚山遺跡A地区、江ノ下遺跡、関野遺跡などが成立する。これらの多くは低位丘陵上に立地し、西谷遺跡をとりまくように位置するものが多く、防御的な集落も多く形成されていたとみられる。別山川上流域の遺跡では、曾地丘陵から伸びる尾根先端の平坦部に立地する内越遺跡や坪之内遺跡、沖積地内の独立した小丘陵上の野崎遺跡がある。内越遺跡では、平面隅丸方形の堅穴住居や土坑が見つかり、住居内などから多数の北陸系の土器とともに、後北C1式の縄縄文土器が出土した。坪之内遺跡では、当期の遺構は確認できなかったが、当期の土器の他に大型の翡翠製勾玉が出土している。野崎遺跡の試掘調査では、環濠とみられる断面V字形の掘り込みが検出されており、その覆土から当期の土器が少量だが出土している。

### 古墳時代

古墳時代前期の遺跡の分布も、弥生時代後期の状況と似たような状況であるが、確認できる遺跡は増加する。海岸地域の砂丘上には高塩B遺跡と刈羽大平遺跡がある。いずれも土器はまとめて出土しているが、住居等の遺構は確認できず、集落の様相は明確ではない。別山川流域では、町口遺跡・北田遺跡・行塚遺跡で発掘調査が行われた。町口遺跡は、堅穴住居や土坑からまとまって土器が出土しており、集落を囲むとみられる溝も検出された。行塚遺跡は管玉を生産した玉作集落で、前方後円墳1基を含む吉井行塚古墳群に隣接していることから、古墳の造営集団と関係することが想定される。別山川と鱈石川の合流店の近くに位置する下境井遺跡では、建物や住居は確認できなかったが、自然流路内や土坑からまとまって



- 1 高道B 2 清水尻 3 内越 4 二田沖 5 町口 6 坂田沖沢 7 坪ノ内 8 野崎 9 高田 10 刈羽大平 11 小丸山 12 西谷  
 13 枯木A 14 下谷地 15 荒場 16 行塚 17 戸口 18 礼坊 19 江ノ下 20 下境井 21 西岩野 22 上原 23 吉井行塚古墳群  
 24 天津 25 二位殿B 26 井ノ町 27 興福地 28 尾野内 29 ワゴ 30 黒部古屋敷 31 上沢田 32 坂田 33 外前田 34 榎山B  
 35 宮ノ前 36 上沖 37 弘川 38 山ノ脇 39 刈羽野跡 40 金塚 41 北田 42 杉ノ木田B 43 西草薙 44 種田町 45 木村  
 46 青山稲荷西 47 荒浜庚申塚 48 旧荒浜小学校A 49 旧荒浜小学校B 50 宮之浦 51 下才見 62 角田 53 剣下川原 64 坂田原  
 55 東原町 56 甲田城 57 大輪城 58 高内城 59 尾羽館跡 60 二田城 61 物見山岩 62 亀岡城 63 鎌田城 64 角城 65 坂田金山城  
 66 妙法寺袖浦城 67 大坪桑 68 蔵谷城 69 赤田城 70 赤田古城 71 吉井岩 72 矢田城 73 上合殿遺敷 74 岩野城  
 75 甲戸 76 宝童寺A 77 宝童寺B 78 宝童寺C 79 宝童寺D 80 根谷木落の製鉄跡  
 A 石井神社 B 御崎石部神社 C 多岐神社 D 二田物部神社

第5図 別山川流域の遺跡

土器が出土した。鯖石川中流域の亀ノ倉遺跡でも、集落を囲む可能性がある溝が検出されている。ここでは、北陸系の土器に混じり、東北地方の天王山系土器が一定量出土していることが注目される。この他、鶴川下流域の琵琶島城跡でも当期の土器が一定量出土している。

古墳は、前方後円墳1基と前方後円墳の可能性を持つ円墳1基からなる吉井行塚古墳群がある。周囲を吉井遺跡群に囲まれており、この一帯が柏崎平野の当期の中心的な地域であったことが想定できる。

吉井行塚古墳群の後に続く古墳は確認できず、地域の首長的な存在となる遺跡はみえなくなる。これは、県内の他地域でも同様の様相が見られるようである。しかし、集落遺跡は中期から後期にかけて継続的に成立しており、その多くは別山川の左岸域で確認されることがこの地域の特徴といえる。中期では、別山川上流域の坂田仲沢遺跡、中流域の枯木A遺跡と山ノ脇遺跡、下流域では礼坊遺跡や戸口遺跡B地点等で発掘調査が行われているが、いずれも調査区が狭く集落の様相は不明瞭である。後期の遺跡は別山川上流域で比較的多く見つかっており、町口遺跡、二田沖遺跡、坪之内遺跡、畠田遺跡、高塚B遺跡で発掘調査が行われている。

## 古代

越国が3分割された際、柏崎市域を含む古志郡は越中国に属し、大宝2年(702)に蒲原・魚沼・頸城郡とともに越後国に割譲された。その後の9世紀前半に、柏崎平野を中心とした一帯が三嶋郡として古志郡から分地したとされる〔米沢1980〕。

古志郡の郡衙などの中枢部は、鳥崎川流域の八幡林遺跡(長岡市・旧三島郡和島村)周辺に所在したことが同遺跡などの調査成果から想定される。三嶋郡の中心は、駅家に関する木簡や「上殿」と記された墨書土器が出土した箕輪遺跡(枇杷島)の付近と考えられる〔新潟県教育委員会・他2015〕。

承平年間(931～938)に成立した『倭名類聚抄』には、三嶋郡内の郷として「三嶋」・「高家」・「多岐」の3郷が記されている。のちの荘園分布などを参考に、三嶋郷が鶴川流域に、高家郷が鯖石川中流域から長島川流域に、多岐郷が別山川流域をそれぞれの郷域に推定されている。延長5年(927)に完成した『延喜式』の兵部省諸国駅伝馬に越後国の駅として「三嶋」と「多太」がある。三嶋駅は箕輪遺跡周辺と想定されることから三嶋郷に、多太駅は多々神社周辺などの多岐郷内に推定される。

柏崎平野で見つかる古代の遺跡の多くは平安時代のもので、飛鳥・奈良時代の遺跡は少ないが、箕輪遺跡、音無瀬遺跡、堂場遺跡、戸口遺跡、刈羽大平遺跡で奈良時代の遺構や遺物が確認されている。別山川上流域では、井ノ町遺跡で遺物がまとまって出土しているほか、宮ノ前遺跡や町口遺跡でもごく少量だが当期の須恵器が出土した。また、軽井川南遺跡群・藤橋東遺跡群の製鉄遺跡では、奈良時代から操業が開始されている。平安時代の特に9世紀中葉から後半にかけて遺跡数が急増しており、これは全国的な傾向と同様のものである。

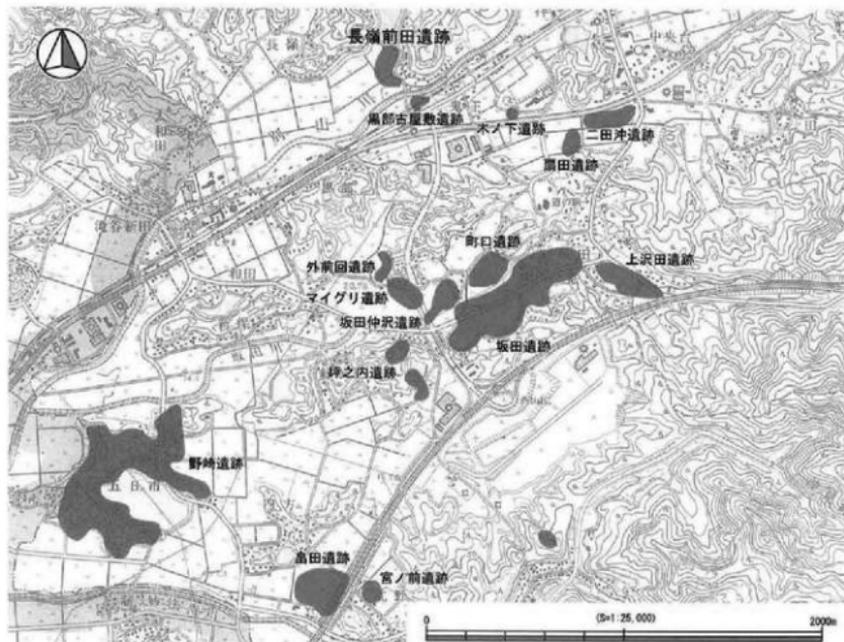
## 中世

柏崎平野に比定される荘園として、『吾妻鏡』文治2年(1186)3月12日条の「三箇国庄々未進注文」に宇河荘・佐橋荘・比角荘の3荘園が記され、これらは11世紀末～12世紀中葉頃に寄進地系荘園として成立したと考えられる〔荻野1986〕。これらの荘域は明確ではないが、宇河荘は鶴川河口付近を除く鶴川流域一帯と鯖石川左岸域の一部など、佐橋荘は鯖石川中流域と長島川流域付近、比角荘は現在の柏崎市街地域周辺が荘域と考えられる。そして、鯖石川最大の支流である別山川流域には、荘域の拡大や別の荘園が

成立した様子はみられず、郷や保があったとみられる [村山1990]。別山川流域は弥生時代中期以降の遺跡が集中し、後には古代官道の北陸道が通ることから、交通や流通の要地であったと考えられる。このため、国衙領としての伝統が強く残存し、中世前期に荘園が成立せず鶴川や鯖石川流域とは異なる歴史的展開をしたと考えられている。

柏崎平野の中世後期における在地の勢力には、佐橋荘と鶴川荘安田条を本拠とした越後毛利氏、鶴川荘上条の上条城を館とした上条上杉氏、刈羽の赤田城を根拠地として別山川流域の大半を領する斎藤氏などがある。御館の乱(1578～79年)では、安田毛利氏・斎藤氏・上条上杉氏が景勝方に味方し、北条毛利氏は景虎方の主勢力として活躍した。しかし、北条毛利氏は景勝方に降り、佐橋荘を主とする領地のすべてが上杉景勝方の武将に細分して分け与えられた。

中世の遺跡は多く見つかっており、発掘調査が行われたものも多い。鯖石川と長島川合流点付近の馬場・天神腰遺跡は12世紀から16世紀初頭までの都市的な性格を帯びた集落とされる [品田1997]。鶴川下流域の下沖北遺跡では方形に巡る堀に囲まれた13世紀の館が確認されている。別山川上流域の町口遺跡では14世紀代と16世紀代の堀状の遺構が見ついている。この他に、鯖石川と別山川の合流点付近の角田遺跡、その対岸の鯖石川左岸の東原町遺跡や上原遺跡、鶴川下流域の琵琶島城跡、別山川上流域の宮ノ前遺跡などで発掘調査が行われている。その他の城館遺跡には、鯖石川流域周辺の越後毛利氏、別山川流域周辺の斎藤氏に関連する山城も多く知られている [鳴海2002]。そして、鶴川河口に近い右岸地の柏崎砂丘上の柏崎町遺跡では15世紀から現代へ至る遺構・遺物が出土した [柏崎市教委2001b]。



第6図 長嶺前田遺跡と周辺の地形・遺跡

### Ⅲ 調 査

#### 1 調査の概要

##### 1) グリッドの設定

グリッドの設定には平面直角座標系を用い、10m四方の大グリッドを設定した。グリッドの名称は、南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、座標値の百位と十位の2桁の整数で表した。小グリッドは大グリッドを2m四方の25区画に細分し、ア～ノのカナで表した(第7図)。なお、東日本大震災により座標値に変動が生じているが、震災前に作成された地形図と整合させるため、震災前の座標を用いている。

##### 2) 発掘調査区

長嶺前田遺跡は、県道の改築工事に先立って行った分布調査で発見され、その後の試掘・確認調査により本発掘調査が必要な範囲を順次確定していった。最終的に調査対象となったのは、延長約130mで幅約15mの約2,100m<sup>2</sup>である。調査対象地の現況は水田・畑地・宅地・市道である。調査は対象地を3地区に分割して実施した。各調査区は調査順にA地区、B地区、C地区とした。A地区の上層は、A1地区とA2地区に分けて調査を行った。

#### 2 基本土層

基本層序はA地区の北東側と南東側の壁面、B地区中央部の北側壁面で確認した。

長嶺前田遺跡で確認した基本層序は、0層からXII層に大別した。I層を現況の表土層等とし、この上位の盛土や攪乱を0層とした。

0層：道路の盛土、B地区を畑地化した際の盛土。

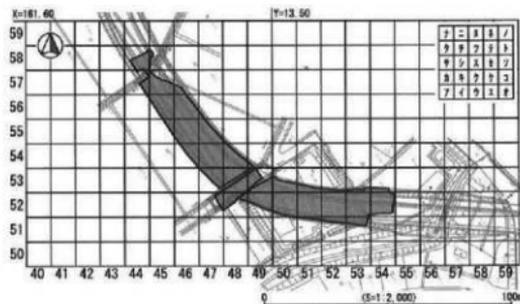
I層：水田耕作土の黄灰色(2.5Y5/1)粘土であるI-1層と、水田床土で褐灰色(10YR6/1)粘土の

I-2層に分ける。I-2層の下  
半は酸化した部分が多い。

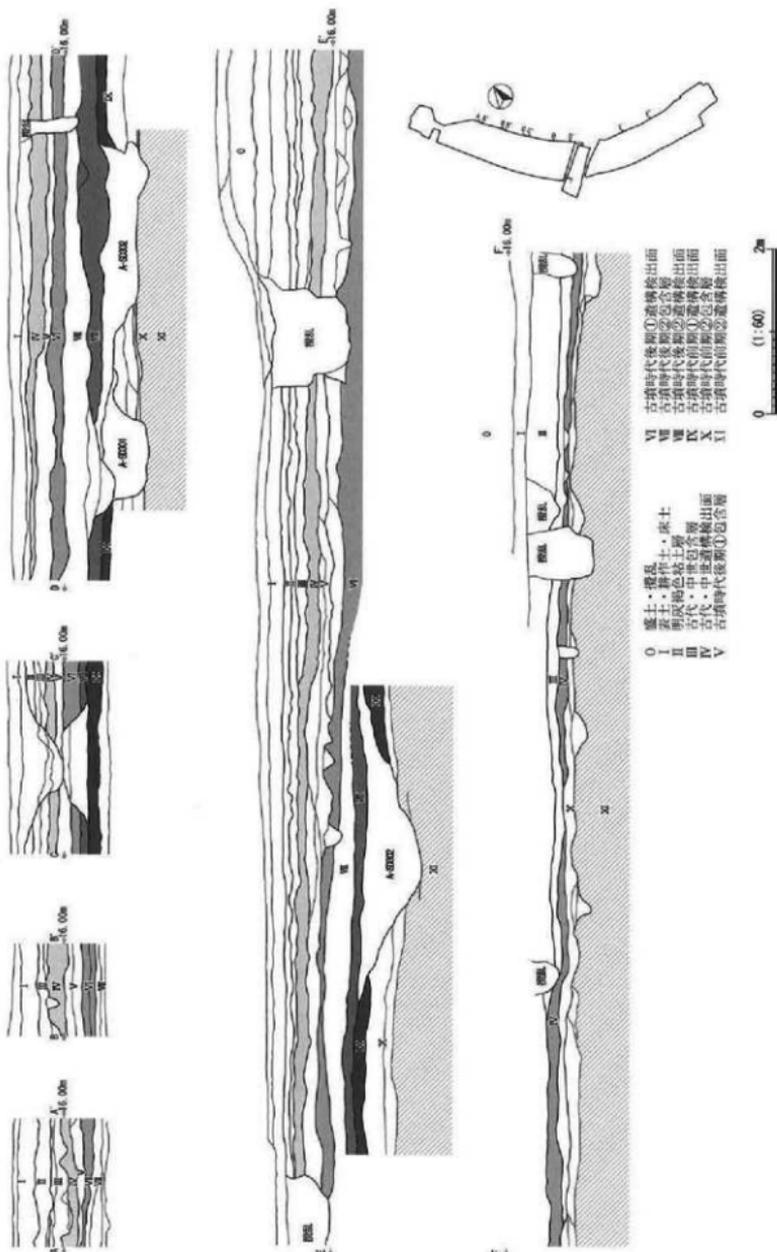
II層：は場整備以前の自然堆積  
層。明褐灰色(7.5YR7/1)  
を基本とする粘土層。

III層：古代から中世の包含層。  
褐灰色(10YR4/1)粘土層で  
炭化物を多く含むIII-1層と、  
黄灰色(2.5Y5/2)粘土のIII  
-2層に分かれる。

IV層：古代と中世の遺構検出面。  
灰白色(2.5Y7/1)や灰黄色



第7図 長嶺前田遺跡発掘調査区とグリッド



第8圖 長嶺前田理部先驅部基基本土層圖

(25Y7/2)の粘土層で、一部でごく少量の炭化物が混じる。

V層：古墳時代後期①の包含層。褐灰色(10YR6/1)を基本とし、炭化物が多く混じる。

VI層：古墳時代後期①の遺構検出面。A地区では炭が少量混じる灰黄色(25Y6/2)、B地区では灰オリブ色(7.5Y6/2)を呈する粘土。

VII層：古墳時代後期②の包含層。灰黄色(25Y6/2)の砂質シルトで炭化物はほとんど含まない。この下位の落ち込みで古墳時代後期の土器がまとまって出土した。

VIII層：古墳時代後期②の遺構面。濁りの混じる青灰色(5BG6/1)砂質シルト。古墳時代前期①の遺構検出面を覆っている。

IX層：古墳時代前期①の遺構検出面。緑灰色(10G5/1)砂質シルト層、微小な炭化物と植物遺体が混じる灰色(5Y5/1)粘土層、緑灰色(10G5/1)粘土層がある。

X層：古墳時代前期②の遺物包含層。炭化物が混じる褐灰色(10YR5/1)粘土が主体である。

XI層：古墳時代前期②の遺構検出面。緑灰色(7.5GY6/1)や明オリブ灰色(2.5GY7/1)粘土である。

### 3 各時代の概要

**古代・中世** 当期の包含層であるIII層、遺構検出面であるIV層はA地区北西部で確認でき、その他の範囲では以前のほ場整備により削平され消失している。A地区の北西側では、腐植土層の分布域へ向かって徐々に高度を下げていく。このことから、古代から中世において、東側の丘陵尾根からの緩斜面を含む微高地の縁辺にあたり、西側は湿地帯に面していたことが想定される。なお、B地区では近世遺物を伴う井戸を検出しており、上位に近世の遺構面や包含層があったと想定できる。

**古墳時代後期** 古墳時代後期の遺構面は2面を確認した。古墳時代後期①とした上位の層はA地区で確認したVI層が確認面である。C地区からB地区へ続き、B地区の中央部で標高が下がるとともに堆積が薄くなり、B地区東部では面として確認できなくなった。遺構はピット、土坑、堅穴状遺構等があり、出土遺物は土師器、黒色土器、須恵器がある。

古墳時代後期②とした下位の層はVIII層を確認面とした。A地区では包含層となるVII層中にほとんど炭化物が含まれず、包含層と認識できずIX層まで掘り下げる際に遺物がまとまって出土した。調査区壁の断面でわずかに色調が異なる面が確認でき、ここで幅1.5m、深さ0.4mの落ち込みを確認できた。一括遺物はこの落ち込みに連なるように列状にまとまっており、溝状の落ち込みがあったと考えられる。B地区とC地区ではVIII層は確認できなかった。

**古墳時代前期** 古墳時代前期の遺構面も2面を確認した。古墳時代前期①とした上位の層はA地区とC地区で確認した。遺構確認面はIX層である。IX層を覆うVIII層は古墳時代後期遺構確認面でもあるが、遺物は出土しなかった。IX層では2基の溝を確認した。古墳時代前期②とした下位の層はX層が遺物包含層、XI層が遺構確認面である。X層の堆積は全地区において最大でも10cm程度と薄い。XI層の頂部標高は、A地区で15.0m、B地区で15.1mであり、東に向かって高くなる。遺物はB地区西側で特に多く出土した。

## IV 遺 構

### 1 遺構の概要

**IV層遺構検出面** 古墳時代後期と古代以降の遺構を検出した。遺構検出面は異なるものであるが、古代以降の検出面の大部分は削平されており、同一面で検出することとなった。古代以降の遺構の覆土は黒褐色粘土が主体となり、古墳時代後期の遺構では灰褐色粘土が基本となる。古墳時代後期の遺構には、土坑や堅穴状遺構があり、遺物を含むものが多い。古代の遺構は溝が主であり、A地区北西部で複数検出したが、出土遺物は少ない。中世以降のものには、井戸や自然流路があり、B地区を中心に分布する。

**V層遺構検出面** 2筋の流路を検出した。1筋はA地区南東端から東へ伸び、もう1筋は同じくA地区南東端から南南西へ向かうものである。後者はB地区の西側へ続いている。この面では他に遺構は検出されなかった。

**Ⅹ層遺構検出面** 土坑、溝、ピット、土器集中区がある。土坑はA地区からB地区にかけて点在している。大型で浅いものが多い。溝は、弧を描くものがB地区の西部から中央部にある。ピットは主にB地区中央部に点在する。土器集中区はB地区の中央部に2カ所を確認した。

### 2 遺構各説

#### IV層検出遺構

##### 古代以降

##### 井戸

**B-SE2** 52-50-シに位置する。東側にピットや小型の土坑が点在するが関係は不明である。覆土上部で肥前陶器(17)が出土した。半截後、断面図を作成する前に覆土が崩落したため、記録は写真だけである。覆土は上位が褐灰色粘土で、下位は灰褐色粘土に微小な炭化物が少量混じる。底部付近では遺物は出土しなかった。井戸側や水溜などの施設は設けられていない素掘りのものである。

**B-SE205** 52-54-ナに位置する。B-SD201の底面で、しまりが弱い黒褐色粘土で埋まる円形の落ち込みを確認した。ここから遺物がまとまって出土したため、井戸の底部と判断した。このため、上部の形態や規模は確認できない。遺構検出面から底部までの深さは1.7mである。出土遺物は珠洲が多い。

**B-SE207** 52-54-シに位置する。B-SE205同様に検出面では確認できず、B-SD201の底面で落ち込みを確認したものである。落ち込み内から珠洲が出土した。

##### 溝

**A-SD67・A-SD75・A-SD87・A-SD101・A-SD109・A-SD130・A-SD156** (図版14) A地区北東部で調査区を横断する溝群である。調査区東壁で、Ⅲ層の下位に掘られていることを確認した。覆土はⅢ層に似る灰褐色粘土が主体である。うち5基は北東方向を向くが、軸は揃わない。断面形態はほぼ弧状で、底面に細かい凹凸がある。

**B-SD201** (図版10) B地区西部で北北西から南南東へ向かい、調査区外に続いている。自然流路とみら

れる。確認できた幅は1.0～1.3m、深さは0.9m前後である。断面はおおむねU字形であるが、壁面から底面に大小の凹凸が多い。覆土は、上層の大部分は褐灰色粘土で、中位は暗褐色粘土層で、底部付近は礫を多く含む。主に中世から近世の遺物が出土した。

#### 土坑

古代以降であると確認できる土坑は少ない。出土遺物により当期と判断した土坑はB-SK208とB-SK214である。いずれもB地区東部にある。B-SK208はB-SD213と切り合いを持つ中型の浅い土坑である。B-SD213との前後関係は確認できない。須恵器甕の体部破片が出土した。

**B-SK214** (図版9) 長軸2.7m、短軸1.0mの楕円形で、深さ1.0m。覆土は、灰色や黒褐色の粘土、ブロック状の粘土混じりの粗砂からなる。須恵器無台杯の口縁部破片が出土した。

**A-SK158** (図版14) 調査区西壁沿いに検出し、調査区外に続いている。平面形はおおむね方形になると見られる。長軸は6.0m、短軸は検出範囲で2.4mである。深度は0.1m程度と浅く底部は細かい凹凸が広がる。覆土は黄灰色粘土が主体で、細かい窪みににぶい黄色粘土が入る。

#### 古墳時代後期

##### 竪穴状遺構 (図版12)

A地区南東側壁面沿いでA-SK3とA-SK4を検出した。壁面沿いの用水路下は調査できず、全形を確認することはできなかった。両者は切りあいがあり、A-SK4が新しい。A-SK4は、楕円形の約半分を確認した。外縁にテラス状の平坦面が巡り、その内側は一段低くなる。覆土中から黒色土器杯、土器釜が出土した。A-SK3の平面形は不整形で、壁面は垂直に近く立ち上がり、底面はほぼ平坦である。中央付近の底面で土器片がまとまって出土した。出土遺物はA-SK4と同様で、黒色土器杯、土器釜がある。両遺構とも内部にピットがあるが、これらは上面から掘りこまれたものである。

#### 土坑

大型のものはA-SK30があり、その他に径1m以下の中型の土坑がある。遺物が出土したものは少ない。当期の土坑の覆土は黄灰色や灰色の粘土が主体である。

**A-SK30** (図版9) 直径1.8mの円形、深さ1.2mである。覆土は下位の地山層に似る緑灰色粘土で、炭化物が少量混じる。土師器が出土したが、下位の層の遺物と接合関係にあるものが多い。

**B-SK209** (図版9) B-SD213の上位に掘られる。断面U字形で、底部中央はわずかにくぼんでいる。覆土は4層に分かれ、おおむね水平に堆積する。1層と2層の境から板状の鉄製品(428)が出土した。

##### ピット・柱穴 (図版12)

ピット・柱穴はA地区南部、B地区中央やや西寄りの2カ所に分布のまとまりがある。A地区のピットには、柱根を残すものが8基ある。掘方は柱根よりやや広い程度のものが多い。A-SP121とA-SP123の柱根は掘方よりも深くまで埋まっているが、打込んだものか沈下したものかは判断できなかった。

#### 土坑状遺構

**A-SX1** (図版13) A地区南西部から北西へ伸びる大型で浅い落ち込みである。確認面からの深さは約0.2mで、底面は概ね平坦である。覆土は微小な炭化物を含む灰黄褐色粘土が主で、覆土内から多くの土器が出土した。土器は釜等があるが、細片ばかりである。

**B-SX215** (図版11) B地区中央東寄りにある大型の落ち込みで、調査区南壁の外へ続く。平面は、長楕円形に近い形状で、長軸6.9m、短軸5.4mとなる。確認面からの深さは最大で1.1mで、断面形はほぼ弧

状となるが、底面は凹凸が多い。覆土の上半は灰色粘土が主体で、褐色や青灰色の砂が混じる。下半は炭化物が混じる青灰色や灰オリーブ色の砂が主になる層と、腐植物が主体の黒褐色層が交互に堆積する。最下層付近では径1cm程度の礫がまとまる処もある。出土遺物は、細片となった土器が少量である。

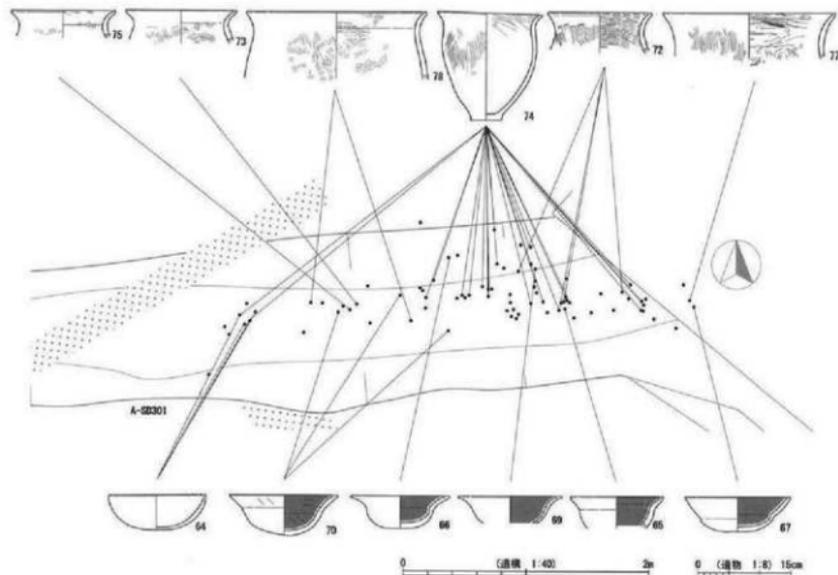
#### 溝

**B-SD202**(図版10) B地区西側の東西方向の溝である。断面形は弧状で、幅1.4m前後、深さは0.2mから0.4mである。覆土の上層は砂混じりの灰色粘土で、下層は灰色や廃オリーブ色の粘土に小礫が多く混じる。東端はB-SD201、西端はB-SX215で途切れる。底面は西へ向かって低くなる。遺物は古墳時代の土器が出土した。

#### Ⅶ層検出遺構

##### Ⅶ層土器集中区(第9図)

上層の遺構を完掘後、中層遺構面への掘り下げ中に古墳時代後期の遺物がまとまって出土した。周囲の土はわずかに炭化物が混じる灰黄褐色粘土で、遺構の掘り込みを面的に把握することができなかった。遺物の分布はⅦ層で検出したA-SD301の掘方にほぼ一致しており、これが埋没する過程の窪みにたまったものとみられる。遺物はほぼ同一レベルから出土している。器種は黒色土器杯と土器釜が主体で、杯には遺存状況が良好なものがある。



第9図 Ⅶ層土器集中区出土位置図

## Ⅷ層検出遺構

溝2基を検出した。両者は切りあい関係があり、A-SD302が新しいことを調査区壁面で確認した。

**A-SD301** (図版16・17) A地区を東西に横断する。検出面での幅は1.4mから1.9mで、深さ0.6m前後、断面はU字形に近い。底面の標高は東西ではほぼ同じで、明確な傾斜は認められない。覆土はオリブ灰色シルトが主体で、中位には砂が混じり、下位で礫が混じる。また、中位を中心に木片等が少量混じる。溝の底部付近で古墳時代前期の土師器が出土したが、X層包含層から出土したものと接合するものがあり、下位層を掘りこんだ際の混入品が多いとみられる。

**A-SD302** (図版16・17) A地区からC地区にかけてほぼ南北方向を通る。A地区では北側調査区壁から南南西へ向かい、南側調査区壁に至る。C地区では北側調査区壁からほぼ真南へ向かって南側調査区壁の外へ続いている。検出面での幅は1.7mから2.1mで、深さは0.5m前後である。断面形は、壁面が緩やかに立ち上がる弧状である。覆土は、上層はオリブ灰色シルトが主体で、下位は暗褐色や褐灰色の粘土が混じる暗オリブ灰色シルトが主体である。また、炭化物や腐植物が多く混じる。古墳時代前期の土師器が出土しているが、多くは小片である。

## Ⅹ層検出遺構

### 土坑

**A-SK401** (図版25) A地区の南側調査区壁沿いに位置し、調査区外に続いている。全形は楕円形になると想定する。西側はA-SK408に切られる。確認できた規模は、長軸4.7m、短軸1.8mである。覆土は、炭化物と黒色粘土粒が混じる灰色粘土である。覆土の上位から土器片が出土したが、細片のものが多く。

**A-SK402** (図版25) 不整形の浅い土坑で、西側はA-SK403に切られる。覆土中から出土した土器は、A-SD301から出土したものと接合する。

**A-SK403** (図版25) 平面不整形で、底部や壁面に凹凸が多い。覆土は灰色粘土が主体で、上位に炭化物、下位に黒色粘土粒を多く含む。倒木痕とみられる。

**B-SK138** (図版26) B地区中央の南側調査区壁沿いに位置し、南側に広がる。西側上面をB-SD137が切るため、遺構の全形は不明であるが、おおむね円形になると想定する。確認できた範囲は、東西2.1m、南北2.0mである。確認面からの深さは最大で0.3mで、底面は凹凸がある。覆土に炭化物が混じるが少ない。覆土中から多くの土器が出土したが、細片が多い。

**B-SK172** (図版27) B地区西側に位置する。東西3.1m、南北2.7mのおおむね方形の土坑である。底面は、壁面沿いに平坦部が巡り、中央は一段深く掘りこまれる。覆土は、地山層とほとんど変わらない緑灰色粘土が主体で、これに腐植物や炭化物が少量混じる。土器の出土量は少なく、いずれも小片である。

**B-SK131** (図版29) B地区のほぼ中央に位置する。調査区を東西に分けた際にこの遺構のほぼ中央部が境界となり、全体を合わせて調査することができなかった。北側の調査区壁の外に広がる。確認できた長軸は5.4m、短軸は2.0mで南北に長い方形となり、短軸の断面形は弧状である。覆土は炭化物を含む灰色粘土で、一部に砂粒が混じる。覆土中から多くの土器が出土したが、遺存状況は悪く、完形品は少ない。遺構のほぼ全面に分布し、床面から5cm程度浮いた位置で出土した。

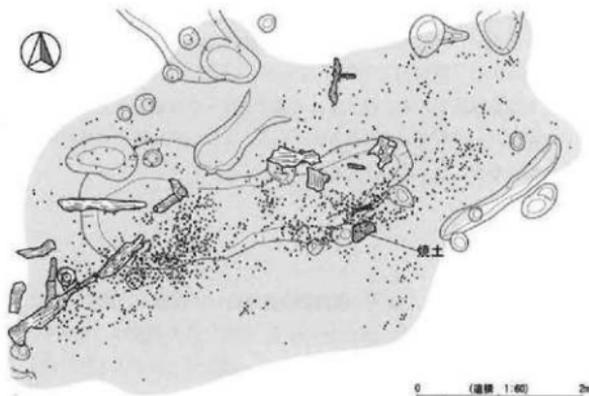
### 溝

**B-SD137** (図版26) B地区中央南寄りに位置し、南側調査区壁より北東へ伸びる。B-SK138の上面を掘

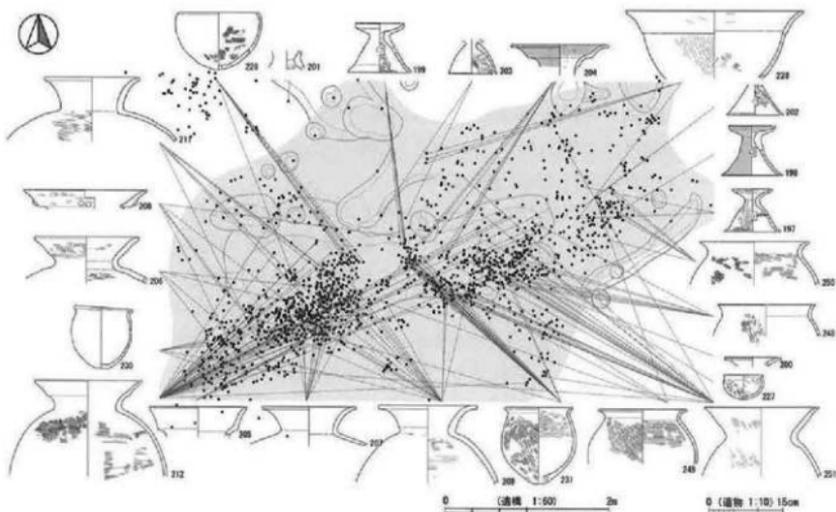
りこむ。最大幅10m、長さ38mを確認した。断面は弧状で、深さは最大で0.3mである。覆土は灰色粘土が主体で、下位に炭化物がやや多く混じる。覆土中から土器が出土したが、細片ばかりである。

**B-SD167** (図版27) B地区西側に位置する。南側調査区壁から弧状に延びる。幅0.6m前後、確認できた深さは0.1m以下で、弧の半径は約3.6mになる。この溝に囲まれた範囲で、溝に伴うとみられる遺構は確認できなかった。覆土から器台の受部の破片2点出土した。

**B-SD114** (図版28) B地区中央北側に位置する弧状に伸びる溝で、調査区外に続いている。溝の幅は0.8m前後で、深さは0.1m以下と浅い。覆土は黄灰色粘土が主体で、炭化物がやや多く混じる。溝の上面で多くの土器と炭化した木材が出土した。溝に囲まれた平坦部は東西の幅が4.3mで、隅丸方形に近い形状である。この平坦部には炭化物と焼土が散乱し、この上面からも土器が多く出土しており、B-SX104として取り上げた。ほとんどは細片である。また、この平坦部でピットを3基検出したが、溝に伴う建物を構成したかは確認できなかった。



第10図 B-SX118炭化材出土状況



第11図 B-SX118遺物出土状況

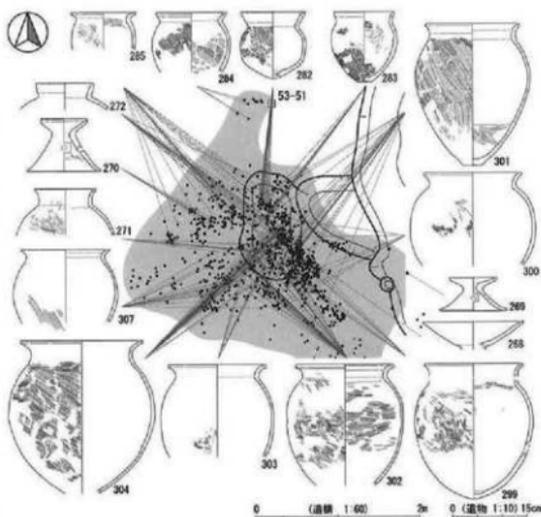
**B-SD116** (図版28) B地区中央北側に位置する。幅0.8m前後、延長5.7mで緩やかな弧を描く。深さは0.1m前後である。覆土は炭化物和砂が混じる褐灰色シルトである。覆土中からは土器の小破片が少量出土しただけだが、北側調査区壁付近の遺構上面では結合器台、鉢、壺がまとまって出土した。

#### 土器集中区

B地区西側の包含層を掘削時に大量の遺物がまとまって出土した。当初は竪穴住居の覆土ではないかと考えたが、掘方は確認できなかった。遺物の集中区は2か所に分けることができ、東側をB-SX118、西側をB-SX119とした。

**B-SX118** (図版30) 地山面は南へ向かって緩やかに下り、炭化物が混じる灰黄褐色や黄灰色を主体とした粘土が堆積する。遺物は地山面から10cm前後上までに分布する。地山面付近での土器の分布は東西6.6m、南北1.8mに密集し、その周辺にも破片は散らばる。地山面のほぼ直上に炭化材が分布しているが、いずれも脆く崩れやすいもので、形状をとどめて取り上げることはできなかった。遺物の接合関係を確認すると、大型品は同一個体が広範囲に分布していること、複数の個体が同一の範囲で混ざって出土していることが確認できる。また、特定の器種がまとまって出土する状況は見られない。炭化材とともに出土しているが、土器が火災などによる二次焼成を受けた様子は見受けられない。

**B-SX119** (図版30) B-SX118の北西側に土器がまとまって出土した。土器がまとまる範囲は東西2.4m、南北2.9mでB-SX118に比べて狭く、遺物量は少ない。そのため、個体ごとの破片が比較的まとまって出土している。特に、中型や大型の釜が1か所ずつぶれたような出土状況を示すものがある。器種別では釜が多く、中型の釜は分布範囲の中央付近に多く、小型の釜はその北側で多く出土している。



第12図 B-SX119遺物出土状況

## V 遺 物

### 1 遺物の概要

本遺跡で出土した遺物は、土器、陶磁器、鉄製品、石製品、柱根がある。土器、陶磁器は古墳時代前期から近世初頭までのものがあり、古墳時代前期のものが多い。

### 2 古代以降の遺物

古代以降の遺物の出土量は少なく、包含層から出土したものが多い。B-SD201では、肥前陶磁器、瀬戸美濃大窯、青磁、珠洲がある。6の陶器甕は内面に格子の当て具痕があり、17世紀後半に比定される。天目(3・4)はやや厚手で口縁部のくびれは不明瞭である。青磁碗は鎚連弁文を持つ。珠洲はIV期からVI期のものを確認できる。B-SE205の珠洲片口鉢はIV期、B-SE207の珠洲甕もIV期に比定できる。B-SE2の肥前陶器皿は内面に胎土目積みの痕が残り、外面はロクロ削りを行う。B-SK214の須恵器有台杯、B-SP226の須恵器無台杯はいずれも小治原産とみられる。

包含層からは肥前磁器、瀬戸美濃、珠洲、須恵器、土師器が出土した。珠洲はIV期からV期が主体となる。須恵器は9世紀代の小治原産ものが主体である。31の有台杯は8世紀後半頃の所産である。

### 3 古墳時代後期の遺物

土器、黒色土器、須恵器がある。A-SK3の黒色土器は口縁部が大きく外反し、底部は平底気味のものを確認できる。土器釜は、体部の影らみが小さく、頸部から口縁部が緩やかに外反する。A-SK4の黒色土器の口縁部には、わずかに外反するものと内湾しながら大きく開くものがある。A-SK33の黒色土器杯の口縁部は大きく外反し、体部との境に明瞭な段ができる。

包含層からは当期の須恵器が2点出土した。58の甕は、口縁端部に内傾する面があり、頸部と体部中位には波状文が巡る。中型甕の59の体部外面は、平行叩き目の上にカキメを巡らす。口縁端部は外側に肥厚する。石川県小松市二ツ梨東山古窯跡4号窯跡、静岡県衛文坂3号窯等に類似の口縁形態をもつものがあり、6世紀後半頃に比定されている。土師器釜の口縁部は、頸部で緩く湾曲して開くものが多い。

Ⅷ層土器集中区では、土器杯と釜、黒色土器の杯と高杯がまとめて出土した。土器杯は丸底で口縁部が内湾気味に取まる。内外面に横方向の丁寧な磨きを行う。黒色土器は杯6点、高杯1点がある。杯の口縁形態は一定でなく、内湾するもの、直線的に開くもの、外反するものがある。66～70の胎土は混入物が少ないのに対し、65の胎土は海綿骨針とやや大きめの赤色粒子を含んでおり、他のものと違いが明瞭である。66・67・70はほぼ全形が残る。高杯は脚柱部だけで、杯部と裾部の形態は不明である。脚柱部は中実で短脚であり、裾部は大きく開くとみられる。釜で全形を確認できるのは小型の74だけである。口縁部は緩く外湾し、体部はほとんど影らまずに底部にかけてすままる。底部は安定した平底である。外

面上半は煤が強く付き、中位以下は赤変や剥離している。内面中位にコゲが付着している。その他の釜は、頸部の湾曲が緩いものが多く、77～79のように口縁部がわずかに外傾するものもある。80の杯は、一括遺物とは離れて出土したもので、完形品である。安定した平底から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。

## 4 古墳時代前期の土器

### 1) 器種分類 (第13図)

当期の土器は出土量が多く、形態も様々なので、先に器種分類を行う。

**高杯** 全形を確認できる資料は少ない。杯部の形態と脚部の形態でそれぞれ分類した。

- A類 口縁部が内湾気味に立ち上がる東海系の高杯。
- B類 口縁部が外反気味に立ち上がるもの。
- C類 杯部が箱型のもの。
  - a類 脚部が大きく開くもの。
  - b類 脚注部の開きは小さく、裾が開くもの。
  - c類 脚部が内湾気味に下がるもの。

**器台** 受部の形態で分類した。脚部だけのものは高杯に準ずる。

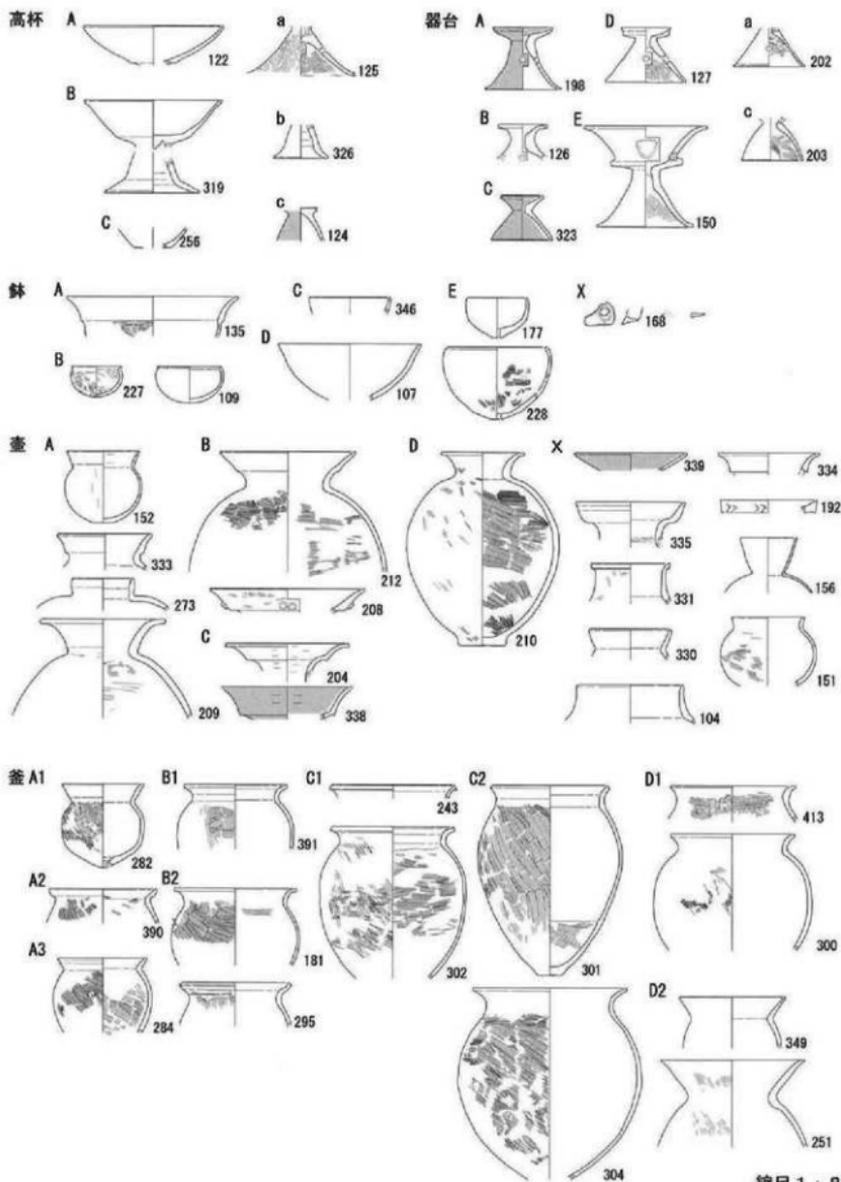
- A類 受部が内湾して立ち上がるもの。
- B類 受部が外反して開くもの。
- C類 受部が直線的に開くもの。
- D類 端部が屈曲して上を向くもの。
- E類 結合器台。

### 鉢

- A類 有段口縁のもの。
- B類 小型で口縁端部が短く外反するもの。
- C類 口縁部が内湾するもの。
- D類 口縁部が外反するもの。
- E類 有孔鉢。
- X類 上記以外のもの。

### 壺

- A類 有段口縁の頸部が短いもの。
- B類 有段口縁で頸部が長いもの。
- C類 直立する頸部に大きく外反する口縁部が付く畿内系二重口縁壺。
- D類 口縁部が外反するもの。



第13図 古墳時代前期の土器分類

縮尺 1 : 8

## 釜

- A類 有段口縁のもの。
- A1類 口縁部が長いもの。
- A2類 口縁部が短いもの。
- A3類 有段部がわずかな膨らみとして残るもの。
- B類 口縁端部が上に摘み上げられ、受け口状となるもの。
- B1類 内湾気味に口縁端部が上を向くもの。
- B2類 口縁部内面になでを行うことで端部が上に膨らむもの。端部外面は面取りされる。
- C類 口縁端部に面取りを行うもの。以下に細分する。
- C1類 口縁端部が上下に拡張するもの。
- C2類 C1類以外のもの。
- D類 口縁端部が丸、もしくはとがり気味のもの。以下に細分する。
- D1類 口縁部の長さが通常のもの。
- D2類 口縁部が長いもの。

## 2) 各説

**A-SD302** (図版35-84) 高杯脚部のb類である。胎土は粗く、厚手で粗製である。溝の底面付近から出土した。当遺構からは他にも古墳時代の土器が出土したが、いずれも細片である。

**A-SD301** (図版35-85～99) 85は器台脚部a類で、三方に透孔を持つ。内外面にハケメが残り、調整はやや雑である。86～98は口縁部が残る釜である。全形を把握できるものはない。D1類が主体である。B類やC2類の口縁端部を面取りするものもあるが、やや丸みを帯びている。

**A-SK402** (図版35-100～103) 100は高杯a類で四方に透孔を持つ。橙色で、外面に磨きを行うが、ハケメが残る。釜はB1類とC1類がある。103は口縁部から体部下位までを確認でき、体部中位に煤が強く付く。当遺構から出土したものは、包含層やA-SD301から出土したものと接合するものが多い。

**A-SK401** (図版36-104・105) 釜は広口の直口壺である。B1類の釜の胎土は砂質で、外面に薄く煤が付く。

**B-SX128** (図版36-106～120) 高杯の脚部はa類で四方に透孔を持つ。B-SX118とB-SK131から出土したものと接合する。B類の鉢2点の形態は似ているが、胎土や焼成、色調が異なる。釜はB1類、B2類、C2類、D1類があり、多くは端部が丸みを帯びる。また、釜は全体的に似た胎土を用いるものが多く、明確に異なるのは小破片の111だけである。

**B-SK131** (図版37-121～図版38-145) 遺構の床面よりやや浮いた位置から多くの遺物が出土した。高杯の122～124は赤彩を行う。122は大型のA類で、横方向のミガキと赤彩を行う。器台はいずれも赤色粒子を多く含む胎土で、橙色を呈する。126は5ないし6方向に透孔を持つ。129は小型の壺A類で、口縁部下端にわずかに段を有する。強く被熱したようで、内面の劣化が著しい。135は大型の鉢A類で、外反する口縁部下端に段を有する。大型釜の136は、外面体部中位の広い範囲に煤が強く付く。釜A2の140は、焼成が良好で、胎土も他と異なり緻密である。

**B-SD167** (図版38-146・147) 器台の受部が2点で、B類とD類である。146は受部全周が残る。いずれも焼成は良好である。当遺構やその周辺から脚部は出土しなかった。

**B-SP204** (図版38-148) 器台の脚部のa類である。焼成はやや軟質で、うすい橙色を呈する。

**B-SD116 上面一括** (図版38-150～153) B-SD116の上面周辺でまとまって出土した土器群である。比較的遺存状況が良好なものである。150は器台F類である。口縁部は大きく開き、隅丸逆三角形の透孔を六方に持つ。脚部に透孔は設けない。口縁部内外面、脚部外面に赤彩をする。151は小型の短頸壺、152は有段口縁の小型壺A類である。151は体部上半に横方向のヘラミガキ、下半にハケ調整を行う。外面は比熱により橙色に変色し、下半には煤が付く。152は内外面に丁寧に磨いている。体部外面の中位から下位に煤が付き、内面にはコケが残る。153は大型の壺である。

**B-SX104** (図版39-154～163) B-SD114に囲まれた範囲で出土したものである。小破片が多く、図化したものは少ない。器台はB類が2点である。154の受部はほぼ水平に開き、端部がわずかに上を向く。155は口径に比して器高が低い。156は長頸壺である。器表面は剝離しているが、元来から器壁がごく薄いものであったとみられる。157～159は鉢E類である。159の体部は破片が多くあるが、接合は確認できなかった。釜はB1類、B2類、D2類がある。

**B-SX104 上位一括** (図版39-165～167) B-SX104の上位でも多くの土器が出土したが、細片が多く、図化したのは3点である。165は器台B類で、脚部以外はほぼ完全に残る。166は高杯か器台脚部a類の裾部で、六方に透孔を持つ。167は釜C1類である。

**B-SD114** (図版39-168～171) 168は注口部で、鉢か壺に付くものと思われる。体部破片も多く出土しているが、器壁が薄いうえに摩耗が著しいため接合を確認できず、全体の形は不明である。釜はC2類とD1類である。171は壺D類で、全形を確認できた。最大径は体部中位にあり、平底の底部は大きい。口縁部は大きく外湾し、端部に面取りをする。器壁は5～7mmと薄いものである。

**B-SD202** (図版39-172・173) 172は釜底部、173は鉢B類である。

**B-SK52** (図版39-174) 釜D1類である。内面が黒化している。

**B-SX132** (図版40-175～188) 175は鉢B類で、ほぼ全形が残り、底部外面に煤が付く。177は鉢E類で、器高が低い小型品である。壺は底部しか確認できなかった。釜はB2類とC2類が多い。181は器面の残りが良く、被熱の痕跡は見られない。186は外面に煤が強く付く。187と188は同一個体とみられる。体部破片も多く出土しているが、接合を確認できなかった。

**B-SP231** (図版40-189・190) 釜A1類が2点である。189は頸部の段が浅いが、内面にも段が残る。口縁部外面に薄くハケメが残る。煤が強く付く。190は頸部の段がやや深く、端部は尖り気味である。

**B-SD137** (図版40-191) 釜C2類の口縁部の小片である。被熱の痕跡はみられない。

**B-SK138** (図版40-192～196) 192は東海系の壺の口縁部とみられる。端部は肥厚し、断面形は三角となる。外面に矢羽状の文様が付く。石がやや多く粗い灰白色の胎土で、他の土器とは異なる特徴であり、輸入品と思われる。193は鉢E類の底部で、厚手である。194～196は釜で、B2類の196は頸部が強く屈曲し、端部は鋭くとがり気味に上方を向く。

**B-SX118** (図版41～197～図版44-255) 器台は7点あり、うち3点は全形を確認できる。197～199はA類である。197は、受部は横方向、脚部外面は縦方向に丁寧なヘラミガキを行う。198は赤彩をおこなう。受部だけが残る200はB類である。201は厚手の粗製である。202は裾部の一部を欠損する。壺は多く出土している。口縁部はA類からD類まで確認できる。204は畿内系の二重口縁壺で、内外面に赤彩を行い、口縁端部は面取りされ上に積み上げられる。208は口縁部外面に円盤状の粘土を2個一組で四方に付けられる。209は長い口縁部の下端に浅い段を有する。210は唯一全形を確認できた。外面はハケメの後にヘラケズリを行っている。内面は幅広のハケメを横方向に施す。口縁部は緩く外反し、端部は丸く肥厚する。

212の口縁部は外面に明瞭な段を有するが、内面の段は不明瞭である。壺の底部は厚く、大きな平底のものが多い。224と225は内面にコゲが付着する。壺は、胎土や焼成を見ると、類似したものが多い。すなわち、205～209、221、212、220は同様の胎土や焼成であり、同様の体部破片が多いため、接合関係を把握することが困難であった。形態により胎土などが異なる状況は確認できない。鉢は大型のA類、小型のB類、中型のE類がある。B類の227はほぼ完形である。E類の229は口縁部の3分の2を欠く。外面に煤が薄く付く。228は大型のA類で、体部外面をヘラケズリし、口縁部は内外面にヘラミガキを行う。焼成は良好である。被熱や摩耗は見られない。釜は多く出土したが、全形を確認できたものは230と231の小型釜2点だけである。いずれもB1類である。230は器壁が薄く、被熱の痕跡や内面の汚れやコゲは見られない。231は内面に黒色の汚れがある。その他の釜はA類以外の全てを確認できるが、残存状況の良いものにはC1類が多い。

**B-SX118 上位出土遺物** (図版44-256～267) B-SX118 上部の堆積土中から出土したものの一部である。256は高杯の杯部とみられる。257の壺頸部の外面はハケ調整を行う。釜ではA1類を2点確認したが、いずれも被熱の痕跡は見られない。262はB2類で、口縁部は水平に引き出され、口縁部内面を強く横ナデする。

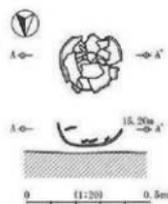
**B-SX119** (図版45-268～図版48-318) 高杯はA類の口縁部である。橙色が基本だが、外面は比熱で褐色に変色している。器台はA類が2点で、器高が高いものと低いものがある。壺はA類だが、口縁部の有段部はわずかな膨らみとなって残るものである。272は口縁部に被熱痕がある。D類の274の胎土は砂粒を多く含む。281は体部がほぼ完形で残り、正位でつづれた状態で出土した(第14図)。外面はハケメ調整で、内面には輪積み痕が明瞭に残る。外面体部下半に煤が強く付く。280は、有段口縁の鉢A類でほぼ全体が残る。底部に煤が付く。外面はハケメ調整である。釜は残存状況が良いものが多い。A類は小型(282～284)と大型(309)のものがある。282はほぼ完形である。口縁部がやや長く、段は浅い。283は短い口縁部の下端がわずかに膨らむ。内面にコゲが付く。284は口縁部上位と下位に横ナデがされ、中位が膨らむ。282～284は、いずれも外面に強く煤が付く。309は口径が30cm前後となる大型品である。外面に強く煤が付く。胎土は砂質で粗く、他のものと様相が異なる。中型の釜の口縁部形態は様々であるが、残存状況が良好なものにはB類とC1類が多く見られる。295は体部下半を欠くが、上位はほぼ完存する。口縁部は大きく内湾して受け口状となり、端部は強い横ナデにより上に尖るもので、他のB2類とは様相が異なる。また、他のものと比べて焼成が良好である。口縁部から体部下半までの形を確認できるものでは、体部の最大径は体部中位よりやや上にある。外面の煤は体部中位よりやや上に付き、内面にコゲは見られない。底部は平底のものも多く、丸底のものは小型では282、中型では299で確認できる。体部の調整は、外面は縦か斜めのハケメ、内面は横方向のハケメかヘラナデである。

**包含層出土遺物** (図版49-319～図版52-427)

**高杯** 出土量は少ない。319は一カ所からまとまって出土した。杯部と脚部の接合部は欠損している。杯部は口縁部がわずかに外反し、脚部は脚柱部が開き気味で、裾は大きく開く。

**器台** 受部ではC類とD類を確認できる。322は、受部に丁寧に磨きを行っており、焼成が良好である。

**壺** 口縁部破片を中心に図化した。D類が多い。331は広口長頸壺である。335は口縁部が内湾気味に立ち上がる。338は口縁部下端が突出し、内外面を赤彩する。339は内湾して大きく開き、端部を面取りする。



第14図 281出土状況

**鉢** B類に小型と中型のものがある。350はやや大型のA類である。347は口縁部を外側に折り返して肥厚させ、体部外面にハケメを施す。

**土製品** 351は小型の杯状で、底部4か所に径2mmほどの孔をあける。胎土は砂質で粗く、焼成はやや軟質である。

**釜** D1類が多く、特に小型のものはほぼD1類が大半を占める。A2類を2点としたが、同一個体の可能性がある。415は口縁端部を内側に巻き込んで収めている。C1・C2類はやや少ない。底部は径が小さい平底のものが多く、安定した平底の425、丸底の426もある。

## 5 その他の遺物

**金属製品** (428) 鉄製品が1点である。B-SK209の中位から出土した。錆により詳細は不明であるが、幅3cm前後、長さ22.2cm、折損部で見える厚さは2mm前後の板状である。用途は不明である。

**石製品** (429・430) 砥石が2点である。429は断面長方形の板状、430は断面正方形に近い棒状である。いずれも途中で折損している。石材はいずれも凝灰岩である。

**木製品** (431～440) 柱根が10点である。431～433はASP126からまとめて出土したものの、接合できないものである。木取りはみかん割が多い。断面形は不正台形などである。底面は平坦、もしくは斜めに切られる。

## VI 総括

### 1 古墳時代後期

古墳時代後期の遺物は、VI層の遺構やその包含層のV層から出土したものと、VII層の溝状の落ち込みからまとも出土したものがある。V層やVI層の遺構から出土したものは、細片となったものが多く、全体の器形をうかがい知れるものは少ない。これに対し、VII層からまとも出土したものには、杯を中心に遺存状況が良好なものが複数含まれていた。これは、廃棄に至る経緯が異なっていたことが影響していると考えられる。ここでは、これらの土器群の時代的な位置付けについて検討する。

VII層からまとも出土した土器群は、杯、高杯、釜からなる。杯は、口縁部が内湾して黒色処理を行わないものが1点、口縁部が外反して黒色処理を行うものが6点である。高杯は脚柱部の破片が1点で、黒色処理を行っている。釜は、小型、中型、大型に分けられ、中型のものが多く、中型の79の口縁部は、頸部で緩く湾曲して開きが小さい。体部の張りは弱く、長胴傾向である。その他の釜の口縁部は、やや大きく外反するものもあるが、頸部は緩やかに湾曲するものが占める。

V層から出土したのもほぼ同様で、杯はほとんどが黒色処理を行い、釜の口縁部は緩やかに湾曲するものである。

西山町地域でこれらの土器群と時代的に近いものとして、高塩B遺跡と富田遺跡から出土したものがある。高塩B遺跡は海岸部の砂丘上に立地する遺跡で、昭和48年の発掘調査で出土したものと、昭和52年に宇佐美篤美氏が採集した資料がある。遺構一括資料ではないが、時代的にある程度まとまったものとみられる。富田遺跡は、別山川左岸の沖積地に立地する遺跡で、平成10年に発掘調査を行った。Ⅲ地区SI-1でまとも出土した土器が出土した。

高塩B遺跡の当期の土器には、杯、高杯、釜、甕がある。杯は口縁部の外反が長いものが多い。黒色処理を行うものが多い。釜の胴部のふくらみは弱く、長胴化したものが多い。口縁部も緩く外反するものが多い。これに対して、富田遺跡Ⅲ地区SI-1出土の杯は、外反する口縁部はやや短く、黒色処理をしないものが多い。釜は、口縁部の屈曲は弱いが、胴部の張りが強い点が高塩B遺跡のものとは異なる。須恵器には蓋杯、高杯、甕がある。蓋杯は口縁部の立ち上がりが高く、端部内面に面取りが残る。底部外面にヘラ起こし痕が残り、調整が粗略化されている。MT15型式に比定できる。当遺構出土の土器群は、黒色土器の比率が低いこと、釜の長胴化が進んでいないことから、高塩B遺跡に先行するとみられる。長嶺前田遺跡で出土した土器群をこれらと比較すると、高塩B遺跡出土のものに近く、6世紀中頃～後半のものと考えられる。

当遺跡では、包含層から古墳時代後期の須恵器の甕と甕も出土した。甕の口縁部は内湾して立ち上がり、端部に内傾する面を持つ。頸部は短く、幅の広い波状文を施している。体部は、球形に近く、体部中位に波状文と沈線が巡る。陶邑編年(田辺1981)では、TK47型式で甕の口頸部の長大化が始まるとされる。体部は、TK23型式以降に肩帯が「く」字状に張るようになるが、地方窯ではTK47型式並行期でも体部が丸いものを作るとされる。当遺跡出土の甕の生産地は明らかにできていないが、TK47型式に近いころ

のものと想定する。甕は、口縁部の形状は二ツ梨東山古窯跡4号窯跡Ⅲ次床覆土出土のものに類似したものがあ。器部内面の同心円文をナデ消すものは、同1号窯跡Ⅰ次床出土のものと同様のものがある。これら窯跡はTK10型式からTK43型式に比定されている。西山町地域の古墳時代後期の遺跡では須恵器が出土することが多いが、長嶺前田遺跡の須恵器もこれらとほぼ同様の時期に位置付けられ、当期に須恵器が安定的にもたらされていたことが考えられる。

## 2 古墳時代前期

### 1) 土器

古墳時代前期の土器の各器種と形態別の出土量を簡単に確認する。

高杯は出土量が少なく、特に杯部は2点しか確認できなかった。杯底部に襷を有する東海系のものである。脚部では「ハ」の字状に開くものも多く、畿内系の屈折脚は見られない。小型器台は、受部が内湾するA類が最も多く、他の形態も一定量存在する。結合器台（E類）は1点で、受部は無段である。鉢は、小型で短頸のB類が多く、有段口縁のA類も定量見られる。また、有孔鉢の底部を多く確認できる。壺は、外反口縁の広口壺であるD類が最も多く、北陸系の有段口縁壺は退化したものも含めたA類とB類も定量見られる。口縁部の開きは大きいものが多い。畿内系の二重口縁壺は少ない。その他に広口短頸壺や長頸壺、東海系有段口縁壺等、それぞれの個体数は少ないが様々な形態のものも見られる。

釜は全体の中で最も出土量が多く、図版に掲載したものでは全体の約60%を占める。主体となるのは口縁端部が丸いD類である。口縁部の長さや、屈曲の度合いなど個体差は大きい。A1類は弥生時代後期から続く形態であるが、口縁部に擬凹線は無く、有段部の膨らみが小さい形骸化が進んだものである。A2類の有段部はA1類に比べると明瞭である。A3類は有段部が完全に形骸化したものと捉えられる。釜全体の5%程度と少ない。B類は、付加状口縁や受け口状口縁との関連も想定される。口縁端部の積み上げは小さいものが多い。C類の出土量はB類とほぼ同様である。C1類には付加状口縁のように上下の拡張がやや大きいものも少ないがある。C2類では、面取りの角が丸味を帯びるものもある。口縁部から体部への屈曲は、「く」字より「コ」字状のものが多い。全形を把握できるものは少ないが、体部形態がわかるものでは、最大径が体部中位より上にある倒卵型のものが多いが、比較的大型のものは球胴に近いものが見られる。

以上の特徴をまとめると、弥生時代後期以来の形態のもの退化形態のものが少ないながらも残るとともに、東海系の高杯や小型器台、小型の鉢等が定着している。釜では口縁端部が丸いものが多数を占めるようになっている。以上のことから、新潟県の古墳土器編年（新潟県考古学会2005）の7期に位置づけることができよう。

### 2) 遺構

**周溝状遺構** 当遺跡では、弧状に巡る溝を3基検出した。そのうち、B-SD114は、弧状に伸びる溝に囲まれた範囲の平坦面のB-SX104の確認面上では、焼土や炭化物が多く見られるとともに多くの土器が出土した。この平坦面は隅丸方形を呈し、幅は約4.3mを確認した。ここでピット2基を検出したが、建物の構成は把握できなかった。出土遺物には、器台、鉢、壺、釜があるが、遺存率が低いものが多く、全形をうかがい知れるものは少ない。ここでは、建物跡を確認することはできなかったが、B-SD114が建物を囲

う周溝である可能性がある。周溝を伴う建物は、弥生時代中期から古墳時代前期の北陸地方に多く見られるとされる[岡本2003]。また、このような建物は集落内の中核的な施設であるとの指摘もある[継2005]。B-SD114は土器が大量に出土した遺構に囲まれている。特に、土器溜まりであるB-SX118とB-SX119は遺存率の高い土器が多量にまとまって出土しており、特殊な状況を呈している。今回の調査では他に住居や建物を確認することができなかつたため、集落の中で周溝を伴う建物がどのような位置付けとなるか不明である。しかし、土器溜まりとの配置関係からは、特殊な性格をもった建物である可能性が考えられる。

**土器溜まり** B-SX118とB-SX119では、まとまった範囲から大量の土器が出土した。遺物の分布範囲に明確な掘方は無く、地山面がわずかに低くなった範囲に土器が広がっている状況であった。主要な器種が全て揃っており、遺存率が高いものも多く見られる。釜には煤やコゲ等が見られることから、通常の使用を行ったものと見られる。B-SX118では壺が多く出土しており、器台もやや多い。壺や釜の中型品や大型品は、それぞれの個体の破片が広い範囲に散っている。これに対してB-SX119は、釜が大部分を占めており、一方所でつぶれたような出土状況のものも多く見られた。B-SX119には有段口縁の釜があり、B-SX118に比べて若干古相を呈するようであるが、他の形態の釜や器種ではそれほど大きな時期差は無いものとみられる。

今回は長嶺前田遺跡のごく一部を調査したに過ぎず、住居配置など集落の様相は明らかとならなかった。しかし、周溝を伴う建物とみられる遺構と、それを囲むように大量の土器が廃棄されている様子は、祭祀などの特殊な行為が行われたことが想起される。今後、集落の構成が明らかとなるとともに、他遺跡の事例と比較検討することで集落の性格などが明らかとなることが期待される。

### 3 長嶺前田遺跡発掘調査の成果

これまで別山川上流域の沖積地では左岸側に弥生時代以降の遺跡が集中して見つかった中で、初めて右岸側で発見された集落遺跡が長嶺前田遺跡である。別山川が激しく蛇行し、幾度も水害に見舞われたであろうこの場所に古墳時代以降、様々な時代に繰り返して人々の営みが行われてきたことが今回の発掘調査で明らかとなった。近年、別山川上流域で古墳時代以降の集落遺跡が相次いで見つかり、その多くで充実した遺物内容の調査結果が出ている。古墳時代前期には別山川下流域の吉井遺跡群が、古代は箕輪遺跡周辺を中心とした郡衙等により柏崎平野の開発が主導されていった中で、伏隆平野部となる別山川上流域でも多くの遺跡が成立を繰り返した。この地域の生産性の高さと、地理的重要性が認識されていた結果とみることができるであろう。

《引用参考文献》

- 相田泰臣 2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相-類城・魚沼地域の土師器を中心として」[新潟考古第15号]新潟県考古学会
- 甘粕健・春日真実 編 1994 『東日本の古墳の出現』山川出版社
- 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」[貿易陶磁研究№2] 日本貿易陶磁研究会
- 岡本洋一郎 2003 「「周禮をもつ建物」の基礎的研究」[富山大学考古学研究室論集 賀久徳 秋山進午先生古希記念] 六一書房
- 荻野正博 1986 「花崗と国府館」[新潟県史(通史編1) 原始・古代] 新潟県
- 小野正敏 1982 「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」[貿易陶磁研究№2] 日本貿易陶磁研究会
- 柏崎市教育委員会 1985a 「吉井遺跡群」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第4集)
- 柏崎市教育委員会 1985b 「刈羽大平・小丸山」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第5集)
- 柏崎市教育委員会 1987 「西岩野」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第7集)
- 柏崎市教育委員会 1989 「吉井行塚古墳群」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第10集)
- 柏崎市教育委員会 1990 「吉井遺跡群Ⅱ」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第13集)
- 柏崎市教育委員会 1999 「角田」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第32集)
- 柏崎市教育委員会 2001 「柏崎町」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第38集)
- 柏崎市教育委員会 2006 「柏崎市の遺跡24」-新潟県柏崎市内遺跡平成24年度後半期・平成25年度前半期試掘調査等報告書-(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第80集)
- 柏崎市教育委員会 2007 「坂田遺跡群Ⅰ」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第50集)
- 柏崎市教育委員会 2008 「坂田遺跡群Ⅱ」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第53集)
- 柏崎市教育委員会 2009 「坂田」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第56集)
- 柏崎市教育委員会 2010 「坂田遺跡群Ⅲ」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第58集)
- 柏崎市教育委員会 2012 「柏崎市の遺跡21」-新潟県柏崎市内遺跡平成22年度発掘調査報告書-(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第66集)
- 柏崎市教育委員会 2013 「柏崎市の遺跡22」-新潟県柏崎市内遺跡平成23年度発掘調査報告書-(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第71集)
- 柏崎市教育委員会 2014 「黒部古屋敷」(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第74集)
- 柏崎市史編さん委員会 1990 『柏崎市史 上巻』柏崎市
- 柏崎平野団体研究グループ 1979 「柏崎平野の地形発達史と下谷地遺跡周辺の地形」[北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡] 新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第19
- 春日真実 1994a 「2. 古墳時代後期の土器」[上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区] 新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集
- 春日真実 1994b 「3. 古墳時代前期の土器」[上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ 一之口遺跡東地区] 新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集
- 春日真実 1999 「第2節 土器編年と地域性」[新潟県の考古学] 新潟県考古学会
- 春日真実 2006 「越後における7世紀の土器編年」[新潟考古第17号] 新潟県考古学会
- 金子拓男 1990 「第五節 交通と交通路」[柏崎市史 上巻] 柏崎市
- 刈羽村教育委員会 1992 「西谷遺跡」刈羽村埋蔵文化財調査報告書第1集
- 刈羽村教育委員会 1995 「枯木A遺跡」刈羽村埋蔵文化財調査報告書第2集
- 刈羽村教育委員会 1998 「弘川・山ノ脇遺跡」刈羽村埋蔵文化財調査報告書第3集
- 刈羽村教育委員会 1999 「弘川遺跡」刈羽村埋蔵文化財調査報告書第4集
- 川村浩司 1999 「2 須忠壽の横相」[新潟県の考古学] 新潟県考古学会
- 川村浩司 2000 「上越市の古墳時代の土器様相-関川右岸下流域を中心に-」[上越市史研究] 第5号 上越市史専門委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の福年」九州陶磁学会10周年記念
- 恩崎町教育委員会 1994 「緒立C遺跡発掘調査報告書」
- 小松市教育委員会 1990 「二ツ梨東山古墳跡・矢田野向山古墳跡」
- 坂井秀彦 1989 「第Ⅲ章 まとめ」[新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡] 新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集
- 品田高志 1990 「越後における古墳時代土器の変遷-柏崎平野の中期-後期を中心に-」[柏崎市立博物館 館報№4] 柏崎市立博物館
- 品田高志 1992 「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ-前期土器編年の現状と編年試案-」[柏崎市立博物館 館報№6] 柏崎市立博物館
- 品田高志 1997 「馬場・天神腰遺跡」[中・近世の北陸-考古学が語る社会史] 北陸中世土器研究会編・桂書房
- 品田高志 1999 「3 柏崎平野の土器編年」[新潟県の考古学] 新潟県考古学会
- 上越市教育委員会 1999 「上千原地区は場整備関連発掘調査報告書 津倉田遺跡」

- 菅沼 2003 『第V章まとめ 1. 土器』『馬場上遺跡発掘調査報告書』十日町市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 滝沢規明 2005 「新潟県における古墳出現前後に盛行する装飾器台・結合器台について」『新潟考古第16号』新潟県考古学会
- 田嶋明人 1985 「IV 考察—漆町遺跡出土土器の編年的考察—」『漆町遺跡1』石川県立埋蔵文化財センター
- 田辺昭三 1981 『須恵器大成』
- 鎌実 2005 「a)円形周溝状遺構(周溝を有する建物)」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書X 西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集
- 十日町市教育委員会 2003 『馬場上遺跡発掘調査報告書』十日町市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 富山大学人文学部考古学研究室・石川県考古学会 1993 『珠洲大畠塚』富山大学考古学研究报告第6冊
- 鳴海忠夫 1992 「刈羽郡西山町坂田の熊跡—地積因と遺物から把握した中世館跡の一例—」『長岡郷土史研究会 鳴海忠夫 2002 「越後毛利氏の城館跡—山城の純張りを中心として—」』北陸の中世城郭』第12号 北陸城郭研究会
- 新潟県教育委員会 1979 「北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡』新潟県埋蔵文化財発掘調査報告書第19
- 新潟県教育委員会 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀E遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集
- 新潟県教育委員会 1989 「国道116号線埋蔵文化財発掘調査報告書 内越遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第33
- 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 1994 「上越市春日・木田地区発掘調査報告書V 一之口遺跡東地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集
- 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2002 「一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書I 箕輪遺跡I』新潟県埋蔵文化財調査報告書第109集
- 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2005 「日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書X 西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集
- 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2010 「北陸新幹線関係発掘調査報告書XVI 一般国道8号糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書VI 六反田南遺跡II』新潟県埋蔵文化財調査報告書第211集
- 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 2015 「一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書I 箕輪遺跡II』新潟県埋蔵文化財調査報告書第254集
- 新潟県考古学会 1999 『新潟県の考古学』古志書院
- 新潟県考古学会 2005 『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』
- 西山町教育委員会 1983 『高塚B遺跡発掘調査報告書』西山町文化財調査報告書第1集
- 西山町教育委員会 2001a 「高田遺跡発掘調査報告書』西山町文化財調査報告書第5集
- 西山町教育委員会 2001b 「井ノ町遺跡発掘調査報告書』西山町文化財調査報告書第6集
- 西山町教育委員会 2003 「宮ノ前遺跡発掘調査報告書』西山町文化財調査報告書第7集
- 西山町教育委員会 2005 「坪之内塚群・坪之内遺跡発掘調査報告書』西山町文化財調査報告書第8集
- 浜木さおり 1993 「3 大畠産出土遺物の分析」『珠洲大畠塚』富山大学考古学研究报告第6冊
- 北陸中世考古学研究会 2006 「中世北陸のカワラケと輸入陶器・瀬戸美濃製品』第19回北陸中世考古学研究会資料集
- 北陸中世考古学研究会 2007 「中世前期北陸のカワラケと輸入陶器・輪軸陶器・瀬戸美濃製品』第20回北陸中世考古学研究会資料集
- 北陸中世土器研究会編 1997 「中・近世の北陸—考古学が語る社会史—」桂書房
- 村山教二 1990 「中世における柏崎市域」『柏崎市史(上巻)』柏崎市史編さん委員会編
- 吉川康博 1994 「中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 渡辺ますみ 1994 「第四章 まとめ」『緒立C遺跡発掘調査報告書』



遺構番号	プランID	時期	長さ	幅	形状	礎石	切込	遺物	遺構類別	備考
A-SP137	53-48-7	古	0.38	0.28	0.23	楕円	2.5x3.5/1			
A-SP138	53-48-7	古	0.20	0.18	0.24	円	2.5x3.5/2			
A-SP140	53-48-7	古	0.22	0.18	0.32	円				
A-SP141	53-48-7	古	0.30	0.30	0.30	円				
A-SP142	53-48-7	古	0.22	0.20	0.19	円			土器1	柱根
A-SP143	53-48-7	古	0.24	0.22	0.20	楕円				
A-SP145	53-48-7	古	0.34	0.28	0.24	円	10YR5/2		検出1・黒色1	
A-SP146	53-48-7	古	0.35	0.38	0.30	楕円			土器4	
A-SP147	53-48-7	古	0.34	0.24	0.14	円	10YR5/2			
A-SP148	53-48-7	古	0.38	0.31	0.22	円				
A-SP149	53-48-7	古	0.32	0.28	0.29	円			土器3	柱根
A-SP150	53-48-7	古								
A-SP151	53-48-7	古	0.24	0.18	0.24	円				
A-SP153	53-48-7	古	0.34	0.32	0.36	円				
A-SP154	53-48-7	古	0.34	0.32	0.36	円				
A-SP155	53-47-7	古	0.21							
A-SD156	55-46-7	古代	(3.02)	0.32	0.33	溝	A-SD156-A-SD156-			主軸-63°
A-SD159	55-46-7	古代	6.06	(2.22)	0.06	不整形	A-SD159			底面に小円凸
A-SK138	55-46-7	古代	0.31	0.39	0.04	溝			土器1	主軸-68°
A-SK160	53-47-7	古代	(1.00)	(0.50)	0.21	不整形	A-SD156-A-SD159			区分と復原により平面形不明
A-SP161	53-47-7	古	0.30	0.24	0.31	楕円			土器1	柱根
A-SP162	53-47-7	古	0.48	(0.22)	0.33	円				
A-SP163	54-48-7	古	0.54	0.32	0.13	楕円				
A-SP164	54-48-7	古	0.42	0.28	0.07	楕円				
A-SK165	55-47-7	古	0.92	0.76	0.07	楕円				
A-SP166	55-47-7	古	0.44	0.34	0.10	楕円				
A-SP167	53-47-7	古	0.24	0.22	0.14	円				
A-SP168	54-47-7	古	0.38	(0.24)	0.07	円				
A-SK169	54-47-7	古	1.10	(0.48)	0.13	楕円				
A-SK170	54-47-7	古	(0.92)	0.72	0.07	楕円				
A-SK171	54-47-7	古	(0.36)	1.16	0.10	不整形				
A-SP172	54-47-7	古	0.24	0.20	0.04	円			土器177	主軸-86°
A-SD301	--	前期	(16.74)	1.82		溝			土器111	主軸-152° ~ 172°
A-SD302	--	前期	(4.70)	1.78		溝			84	
A-SK401	54-48-7	前期	(4.72)	(1.76)	0.08	楕円			前期13	104・105
A-SK402	54-48-7	前期	1.64	(0.90)	0.07	不整形	A-SK402-A-SK403		前期59	100~103
A-SK403	54-47-7	前期	1.90	1.48	0.43	不整形	A-SK402-A-SK403-			
							A-SK404			
A-SD404	54-48-7	前期	(4.36)	0.40	0.16	溝	A-SK403-A-SD404-			主軸-176°
A-SK405	--	前期	(0.72)	(0.42)	0.07		A-SK405-A-SK406			
A-SK406	54-47-7	前期	1.34	0.70	0.16	不整形	A-SD404-A-SK405			
A-SK407	53-47-7	前期	(2.32)	(1.98)	1.08	不整形	A-SD404-A-SK406			前期8
A-SK408	53-48-7	前期	2.08	(1.32)	0.21	方形				前期2
B-SK1	52-49-7	近世	1.34	1.16	0.51	不整形				前期6
B-S22	52-50-7	近世	1.62	1.46		円				陶器1
B-SPT	52-50-7	近世	(0.60)	0.34	0.48	楕円				17
B-S18	52-50-7	近世	0.26	0.26	0.07	円				

機種名	カメラに	時期	長さ	幅	高さ	重さ	富士	切り合い	蓋物	出巻電飾	備考
B-SF9	52-50-3		0.66	0.36	0.08		箱内				
B-SF10	52-50-7		0.48	0.32	0.27		箱内				
B-SF11	52-50-3		0.20	0.18	0.19		円				
B-SF12	52-50-4		0.20	0.20	0.18		円				
B-SF13	52-50-4		0.28	0.22	0.07		円			土器1	
B-SF14	52-50-4		0.30	(0.30)	0.13		円				
B-SF15	52-50-4		0.38	(0.36)	0.05		円				
B-SF16	52-50-4		0.36	0.27	0.05		箱内				
B-SF18	52-50-4		0.24	0.18	0.30		円				
B-SF21	52-50-4		0.24	0.18	0.13		円				
B-SF22	52-50-4		0.73	(0.22)	0.09		円				
B-SF23	52-50-4		0.38	0.24	0.05		箱内				
B-SF24	52-50-4		0.38	0.18	0.05		円				
B-SF25	52-50-4		0.38	0.28	0.35		円				
B-SF26	52-51-7		0.12	0.34	0.02		円			土器9	
B-SF27	52-51-7		0.48	0.40	0.35		円			土器1	
B-SF28	52-51-7		0.40	0.07	0.07		方筒			土器15	
B-SF29	52-51-7		1.44	0.76	0.35		箱内				
B-SF30	52-51-7		0.20	0.20	0.12		箱内	レンズ			
B-SF31	52-51-7		2.64	0.22	0.08		書	車筒			
B-SF35	52-51-7		0.18	0.18	0.15		円				
B-SF36	52-51-7		0.28	0.22	0.16		円				
B-SF37	52-50-4		0.28	0.28	0.18		円				
B-SF38	52-51-7		0.50	0.38	0.27		箱内			土器1	
B-SF39	52-51-7		0.40	0.38	0.31		円	BSK39-BSK40			
B-SK40	52-51-7		(0.30)	0.34	0.08		円	BSK39-BSK40			
B-SF42	51-51-7		0.28	0.24	0.07		円				
B-SK46	52-51-7		0.64	0.52	0.27		円			土器1	
B-SM47	52-51-7		0.94	0.68	0.43		箱内			土器36	
B-SF48	52-51-7		0.48	0.28	0.03		箱内				
B-SF49	52-51-7		0.34	0.18	0.14		円				
B-SK50	52-51-7		0.78	0.52	0.16		箱内				
B-SK51	52-51-7	前開	(1.00)	0.74	0.38		円				
B-SK52	52-51-7	前開	0.70	0.54	0.18		不整形	BSK51-BSK52		土器90	
B-SK55	52-51-7		0.52	0.48	0.31		円	BSK51-BSK52		土器22	174
B-SF56	52-51-7		0.25	0.25	0.15		円			土器6	
B-SK57	52-52-7		0.72	0.64	0.08		円				
B-SK60	52-52-7		1.00	0.76	0.28		箱内			土器2	
B-SK61	52-52-7	欠									
B-SF62	52-50-7		0.25	0.22	0.09		円				
B-SK63	52-51-7	(0.60)	0.68	0.49	0.09		円				
B-SK64	52-51-7		0.54	0.42	0.36		箱内				
B-SF70	52-50-7		0.24	0.18	0.04		円				
B-SK71	52-51-7	(0.82)	0.48	0.09	0.09		箱内				
B-SK72	52-51-7		0.78	0.48	0.32		不整形				
B-SK73	52-51-7		0.58	0.07	0.07		円				
B-SF74	52-52-7										
B-SK104	52-51-7	前開	(4.70)	(1.26)						前開106	154~167
B-SD114	52-51-7	前開	(7.56)	0.84	0.12		頸状蓋			前開219	168~171

蓄積量	グリッド	時間	長さ	幅径	深さ	平面	掘土	切の含み	遺物	発見遺物	備考
B-S0116	52-51-4	前期	(5.18)	0.50	0.12	楕円溝	掘土		前期15	150~153	
B-SX117	52-50-4	前期							前期2156	197~207	
B-SX118	52-51-1	前期							前期914	268~318	
B-SX119	52-50-1	前期							前期813	106~120	
B-SX128	52-50-4	前期							前期652	121~145	
B-SK131	52-52-2	前期	(5.50)	2.04	0.21	長方形			前期34	175~188	
B-SK132	52-51-2	前期							前期90		
B-SK134	52-51-2	前期							前期387	191	
B-SK135	52-51-7	前期	(4.24)	(1.00)	0.36	溝	B-SK138-B-SK138		前期322	192~196	
B-SD137	52-51-7	前期	(3.19)	(1.78)	0.41	不整形	B-SK138-B-SK138		前期11		
B-SK138	52-51-1	前期	1.88	0.30	0.08	溝					
B-SP139	52-51-2	前期			0.21						
B-140	52-51-4	前期			0.32	楕円					
B-SP143	52-51-2	前期			0.20	楕円					
B-SK145	52-51-7	前期	0.52	0.48	0.41	楕円					
B-SP146	52-51-2	前期	0.32	0.26	0.15	楕円					
B-SK147	52-51-4	前期	0.54	0.54	0.19	方形			前期31		
B-SP148	52-51-4	前期	0.18	0.16	0.13	円			前期2		
B-SP150	52-51-7	前期	0.86	0.36	0.12	溝			前期1		
B-SP151	52-51-2	前期	0.22	0.18	0.15	円			前期1		
B-SP152	52-51-1	前期	0.18	0.19	0.19	円					
B-SP153	52-51-9	前期	0.18	0.14	0.08	円			前期3		
B-SP155	52-51-9	前期	0.24	0.22	0.08	円			前期16		
B-SK156	52-51-9	前期	0.60	0.52	0.31	円					
B-SP157	52-51-9	前期	0.20	0.18	0.20	円					
B-SP158	52-51-1	前期	0.14	0.14	0.23	円					
B-SP159	52-51-9	前期	0.14	0.14	0.19	円					
B-SP160	52-51-9	前期	0.38	0.26	0.06	楕円					
B-SP161	52-51-1	前期	0.18	0.24	0.16	楕円			前期49	149	
B-SP162	52-51-9	前期	0.22	0.20	0.13	円			前期16		
B-SP163	52-51-9	前期	0.40	0.34	0.29	円			前期3		
B-SP164	52-51-2	前期	0.36	0.24	0.25	楕円			前期4		
B-SP165	52-51-2	前期	0.24	0.22	0.15	円					
B-SD167	—	前期	6.70	0.68	0.08	楕円溝			前期2	146~147	
B-SK172	52-50-4	前期	3.66	2.60	0.42	不整形					
B-SK173	52-50-4	前期	1.72	1.28	0.31	方形					
B-SK176	52-49-1	前期	1.32	0.58	0.22	不整形					
B-SD178	52-49-7	前期	2.72	1.00	0.21	溝					
B-SP179	52-51-2	前期	0.20	0.18	0.06	円					
B-SP180	52-51-7	前期	0.30	0.24	0.08	楕円					
B-SP181	52-51-7	前期	0.24	0.18	0.09	円					
B-SP182	52-51-7	前期	0.26	0.18	0.05	楕円					
B-SP183	52-51-9	前期	0.20	0.18	0.05	円					
B-SP184	52-51-2	前期	0.28	0.24	0.11	円					
B-SP185	52-51-2	前期	0.48	0.26	0.05	楕円					
B-SP186	52-51-1	前期	0.54	0.42	0.22	円					
B-SK187	—	前期	4.08	1.42	0.07	楕円					
B-SD201	52-51-1	近世	5.70	3.00	0.80	溝	レンズ	RSE205、BSE208→BSD201、BSD202	BS洲15・BS洲2・BS洲3・BS洲4・BS洲5・BS洲6・BS洲7・BS洲8・BS洲9・BS洲10・BS洲11・BS洲12	1~12	SK18下位の土坑 北から南へ流れる自然湧水。 腐植土多く混じる。





別表2 遺物観察表

No.	器種	種類	器種	存在状況	口径	底径	器高	外周調整	内外周調整	胎土	色調	胎紋	凡例	チ:チカート、骨:海綿骨針、灰:石灰、黒:黒色粒子、黒:黒色粒子、赤:赤色
1	B-S201	磁器	磁器	胎土	4.6	(6.0)		高台露出		黒	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
2	B-S201	磁器	磁器	胎土	15.9/24					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
3	B-S201	磁器	磁器	胎土	15.8/24	(12.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
4	B-S201	磁器	磁器	胎土	12.7/24	(12.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
5	B-S201	磁器	磁器	胎土	10.8/24	(16.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
6	B-S201	磁器	磁器	胎土	12.4/24	(30.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
7	B-S201	磁器	磁器	胎土	11.5/24	(32.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
8	B-S201	磁器	磁器	胎土	11.4/24	(34.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
9	B-S201	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
10	B-S201	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
11	B-S201	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
12	B-S201	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
13	B-S205	磁器	磁器	胎土	胎土	(30.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
14	B-S205	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
15	B-S205	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
16	B-S207	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
17	B-S22	磁器	磁器	胎土	胎土	4.8				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
18	B-S214	磁器	磁器	胎土	胎土	13.2				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
19	B-S226	磁器	磁器	胎土	胎土	11.4				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
20	B-S208	磁器	磁器	胎土	胎土	(12.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
21	57-45	磁器	磁器	胎土	胎土	7.4				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
22	57-45	磁器	磁器	胎土	胎土	(27.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
23	54-48-1	磁器	磁器	胎土	胎土	(22.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
24	56-46	磁器	磁器	胎土	胎土	(32.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
25	55-47-2	磁器	磁器	胎土	胎土	(32.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
26	57-47-2	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
27	57-47-2	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
28	54-47-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
29	52-53-2	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
30	54-47-2	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
31	57-45-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
32	54-48-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
33	57-45-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
34	56-46	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
35	54-47-7	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
36	56-46-2	磁器	磁器	胎土	胎土	11.4				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
37	54-47-3	磁器	磁器	胎土	胎土	(43.0)				胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
38	56-47-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
39	54-47-7	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
40	54-48-1	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
41	54-47-2	磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色
42		磁器	磁器	胎土	胎土					胎土	灰白	胎紋	胎土	赤:赤色

品名	選別	種類	状態	口径	底径	高さ	外面調整	内面調整	粘土	色調	作成	備考
43	A-SK3	黒色土器	杯	口17/24	(16.0)			ミガキ	白	浅黄緑	良	
44	A-SK3	黒色土器	杯	底				ミガキ	白	にぶい黄	良	
45	A-SK3	土器	釜	口2.8/24	(14.0)		ヨコナデ	ヨコナデ	長白	にぶい黄	良	
46	A-SK3	土器	釜	口4.3/24	15.0		ハナメ(庄屋様托)		白	黄	良	
47	A-SK3	土器	釜	体			腹ハケ(庄屋様托)	横ハケ	白	灰黄	良	外面は頸部以下に横、内面中位にコブ
48	A-SK3	土器	釜	口2.6/24	(17.0)				砂質白	黄	普	外面は頸部以下に横、内面中位にコブ
49	A-SK3	土器	釜	底7.5/24	8.0				にぶい黄	黄	普	
50	A-SK3	土器	釜	口11/24	(20.0)				白	にぶい黄	普	
51	A-SK4	黒色土器	杯	口5.2/24	14.2		底ハケ	横ミガキ	白	浅黄緑	普	
52	A-SK4	黒色土器	杯	口11.2/24	(16.0)				白	にぶい黄	普	
53	A-SK4	土器	釜	口13.8	(13.8)		横ナデ	横ナデ				
54	A-SK4	土器	釜	口11.2/24	(15.0)				白	にぶい黄	良	口縁部外面に花繻状の筋が認められる
55	A-SK4	土器	釜	(17.4)	(17.4)				紫赤	黄-浅黄緑		
56	A-SK4	土器	釜	底7/24	(6.0)				白	紫赤		外面は被熱により赤変
57	A-SK3	黒色土器	杯	口2.9/24	(12.0)		ヨコナデ	ヨコミガキ	白	黄		
58	54-48-ス	須恵器	ハソウ	口〜底まで断片	12.4	12.0	口縁部・腹縁部	ロクロナデ	白	灰ナリ	薄緑	TK23-TK47
59	54-48-ス	須恵器	杯	口11.5/24	(18.0)		下底(ロクロナデ)	ロクロナデ	白	黄	良	
60	54-48-ス	土器	杯	口13/24	13.0		カキメ	ロクロナデ	白	浅黄緑	良	
61	54-48-ス	土器	釜	口17/24	17.0			ヨコミガキ	白	黄		内外面延長する
62	54-47-エ	土器	釜	口15.1/24	(20.0)				砂質白	黄		内外面延長する
63	54-46-コ	土器	釜	口6.2/24	16.0				灰や砂質	にぶい黄		口縁部外面に見ゆる
64	A-SK30	土器	杯	口6.2/24	15.8	丸底	横ミガキ	ミガキ	白	浅黄緑		外面に大きく黒斑あり
65	V脚一拵	黒色土器	杯	口6.4/24	(15.0)				骨赤白	にぶい黄		
66	V脚一拵	黒色土器	杯	口8.9/24	16.4	4.2	5.4	横ミガキ	骨赤	浅黄緑		
67	V脚一拵	黒色土器	杯	完形	17.0	5.8	5.6	横ミガキ	骨赤白	浅黄緑		
68	A-SK30	黒色土器	杯	口縁部部分欠損	17.0	4.0	6.6	横ミガキ	白	にぶい黄		
69	V脚一拵	黒色土器	杯	口17.9/24	16.0		横ナデ	横ミガキ	白	にぶい黄		黒色処理薄く不完全。口縁部歪み大きい
70	V脚一拵	黒色土器	杯	完形	17.8	6.8	斜ミガキ	横ミガキ	白黒	浅黄緑		
71	V脚一拵	黒色土器	高杯	脚柱部				脚ハケ	白	浅黄緑		
72	V脚一拵	土器	釜	口13.1/24	(16.0)		腹ハケ	腹ハケ	骨白	にぶい黄		内面は口縁部まで横ハケあり
73	V脚一拵	土器	釜	口10.5/24	(18.0)		腹ハケ	不定方向ハケ	黒白	浅黄緑		
74	A-SK30	土器	釜	部分欠損	17.2	5.0	17.3	頸部ハケ、下半ハケナデ	頸部ハケ、下半ハケナデ	黄		外面上半程、下半は赤変して割腫多い。内面にコブあり
75	V脚一拵	土器	釜	口13.8/24	(18.0)		腹ハケ	斜ハケ	紫赤	にぶい黄		外面に筋くぼみあり。内面に筋み上げ
76	A-SK30	土器	釜	口13.6/24	(17.0)		腹ハケ	斜ハケ	紫赤	黄		口縁部外面に筋み上げ
77	V脚一拵	土器	釜	口13.3/24	(28.0)		腹ハケ	腹ハケ	長白	にぶい黄		外面スス
78	V脚一拵	土器	釜	口11.3/24	(29.0)		腹ハケ	腹ハケ	骨白	にぶい黄		外面に薄ススあり
79	V脚一拵	土器	釜	口15.5/24	(17.0)		腹ハケ	腹ハケ	紫赤	浅黄緑		外面上半赤変、下半厚化
80	V脚一拵	土器	杯	完形	16.7	4.8	5.1	腹ハケ	白赤	にぶい黄		内面に黒色赤変み
81	A-SK30	土器	釜	口13/24	(6.0)				白赤	灰黄		
82	V脚一拵	土器	釜	口13/24	12.0				赤	にぶい黄		
83	V脚一拵	土器	釜	口13.5/24	(14.0)			ハケ	赤	にぶい黄		

遺跡	時期	築構	所在状況	口径	底径	高さ	外周面観	内周面観	胎土	色澤	肌感	備考
84	A-SK02	土器	高杯口				黒ハケタ	中心に折損線・輪痕み痕	黒赤	赤黄	良	厚手の粗製
85	A-SK01	土器	高杯口				黒ハケタ		赤白	赤黄	良	白粉透孔3, やや厚手,
86	A-SK01	土器	高杯口			(12.0)	黒ハケタ		赤白	赤黄	良	白粉透孔3, やや厚手,
87	A-SK01	土器	高杯口			13.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	中厚透孔3, やや厚手,
88	A-SK01	土器	高杯口			(15.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	折損で劣化, 小片,
89	A-SK01	土器	高杯口			(16.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	折損で劣化, 小片,
90	A-SK01	土器	高杯口			(14.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	折損, 小片,
91	A-SK01	土器	高杯口			(15.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	折損, 小片,
92	A-SK01	土器	高杯口			(16.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	内外折損, 外周面欠損
93	A-SK01	土器	高杯口			18.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	91と同一か, 外周に黒斑,
94	A-SK01	土器	高杯口			(16.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	91と同一か, 外周に黒斑,
95	A-SK01	土器	高杯口			(18.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒・外周に黒斑,
96	A-SK01	土器	高杯口			(17.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒・外周に黒斑,
97	A-SK01	土器	高杯口			(19.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒斑, 91・93同一か,
98	A-SK01	土器	高杯口			(21.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒斑,
99	A-SK01	土器	高杯口			3.4	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒斑,
100	A-SK02	土器	高杯口			(17.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒斑, 外周面欠損,
101	A-SK02	土器	高杯口			15.4	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	7割破損, 折損,
102	A-SK02	土器	高杯口			(16.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	口縁上部折損, 面欠損,
103	A-SK02	土器	高杯口			17.4	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	口縁部内面に黒斑,
104	A-SK401	土器	高杯口			(17.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周面欠損, 包含層出土と接合多い
105	A-SK401	土器	高杯口			(20.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	石や多い
106	B-SX128	土器	高杯口			(23.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	外周に黒・体部小破片多い, 接合不明,
107	B-SX128	土器	高杯口			9.4	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
108	B-SX128	土器	高杯口			5.1	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
109	B-SX128	土器	高杯口			10.2	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
110	B-SX128	土器	高杯口			2.8	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
111	B-SX128	土器	高杯口			(15.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
112	B-SX128	土器	高杯口			14.8	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
113	B-SX128	土器	高杯口			18.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
114	B-SX128	土器	高杯口			(16.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
115	B-SX128	土器	高杯口			17.2	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
116	B-SX128	土器	高杯口			17.6	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
117	B-SX128	土器	高杯口			18.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
118	B-SX128	土器	高杯口			18.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
119	B-SX128	土器	高杯口			4.2	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
120	B-SX128	土器	高杯口			14.8	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
121	B-SX131	土器	高杯口			23.0	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
122	B-SX131	土器	高杯口			(13.0)	赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
123	B-SX131	土器	高杯口				赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
124	B-SX131	土器	高杯口				赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,
125	B-SX131	土器	高杯口				赤ハケタ		赤黄	赤黄	良	凹部透孔4,

品名	品類	原機	残存状況	口径	底径	高さ	外面塗装	内面塗装	胎土	色調	完成	備考
126	B-SK131	土器	器台B	口14.9/24	8.0				赤白長	靑	軟	内筋透孔あり、L6、内筋透孔あり。
127	B-SK131	土器	器台D	口17/24	8.0				赤白長	靑	軟	内筋透孔あり。
128	B-SK131	土器	赤長脚	脚	(14.0)				赤長	靑	軟	内筋透孔あり、二次密着して強化
129	B-SK131	土器	器B	口4.8/24	(9.0)				赤白	靑	軟	
130	B-SK131	土器	器B	口4/24	17.0				赤白	靑	軟	
131	B-SK131	土器	器	底	6.2				赤白	靑	軟	
132	B-SK131	土器	器	底～体下半	6.8				赤白	靑	軟	
133	B-SK131	土器	器	底	1.6				赤白	靑	軟	
134	B-SK131	土器	器	底～体下半	5.4				赤白	靑	軟	
135	B-SK131	土器	器	口1.8/24	(28.0)				赤白長	靑	軟	外面口縁から体部にスス、口縁部内面に付れ。
136	B-SK131	土器	器	口1.7/24	(28.0)				赤白長	靑	軟	
137	B-SK131	土器	器	口13/24	(15.0)				赤長	靑	軟	
138	B-SK131	土器	器	口14.8/24	(15.0)				赤長	靑	軟	
139	B-SK131	土器	器	口11.3/24	(18.0)				赤白	靑	軟	
140	B-SK131	土器	器	口11/24	(17.0)				赤白	靑	軟	
141	B-SK131	土器	器	口9.8/24	(18.0)				赤白	靑	軟	
142	B-SK131	土器	器	口12/24	(18.0)				赤白	靑	軟	
143	B-SK131	土器	器	口12/24	(18.0)				赤白	靑	軟	
144	B-SK131	土器	器	口14.5/24	(20.0)				赤白	靑	軟	
145	B-SK131	土器	器	口14.5/24	(5.0)				赤白	靑	軟	
146	B-SK131	土器	器	口14.5/24	(5.0)				赤白	靑	軟	
147	B-SK167	土器	器	口12/24	(10.0)	12.0			赤	靑	軟	
148	B-SF004	土器	器	口13.9/24	(19.0)				赤	靑	軟	
149	B-SF101	土器	器	口13.9/24	(19.0)				赤	靑	軟	
150	B-SD116	土器	器	口13/24	(20.0)	15.8 (16.5)			赤長	靑	軟	外面に黄褐色、外面にコグ。
151	B-SD116	土器	器	口18.7/24	11.6				赤白	靑	軟	外面に黄褐色、外面にコグ。
152	B-SD116	土器	器	口6.8/24～体下位	3.6	10.8			赤	靑	軟	外面に黄褐色、外面にコグ。
153	B-SD116	土器	器	口6.8/24～体下位	11.6	3.6			赤	靑	軟	外面に黄褐色、外面にコグ。
154	B-SX104	土器	器	口4.5/24	9.4				赤白	靑	軟	
155	B-SX104	土器	器	口12.5/24	12.8	7.1			赤白	靑	軟	
156	B-SX104	土器	器	口24/24～肩	8.8				赤	靑	軟	
157	B-SX104	土器	器	底	1.8				赤	靑	軟	
158	B-SX104	土器	器	底	3.0				赤	靑	軟	
159	B-SX104	土器	器	底	2.6				赤	靑	軟	
160	B-SX104	土器	器	口13.1/24	(13.0)				赤長	靑	軟	結合不明の体部破片あり。
161	B-SX104	土器	器	口13.2/24	(16.0)				赤	靑	軟	外面にスス
162	B-SX104	土器	器	口13.3/24	(18.0)				赤	靑	軟	外面にスス
163	B-SX104	土器	器	口12.3/24	(20.0)				赤	靑	軟	外面にスス
164	B-SX104	土器	器	底	(5.0)				赤	靑	軟	外面に黄褐色、外面にスス。
165	B-SX104	土器	器	口4/24～脚上	9.2				赤	靑	軟	内筋透孔あり
166	B-SX104	土器	器	器台脚	(18.0)				赤	靑	軟	内筋透孔あり、220と同一か
167	B-SX104	土器	器	口2.7/24	(20.0)				赤	靑	軟	内面にコグ。
168	B-SD114	土器	器	口13.5/24	(16.0)				赤	靑	軟	結合不明の体部破片多数あり。

品名	用途	仕様	形状	重量	内径	外径	長さ	備考
170 B-SX114	土器	全C2	119/24	19.8	底	赤	底	内面黒化、 底 青 器底薄い。
171 B-SX114	土器	全D	体1/3欠損	13.2	7.6	27.2	底	底 青
172 B-SX092	土器	全D	底	3.2	5.8		底	底 青
173 B-SX092	土器	全B	112.6/24~底	(7.0)			底	底 青
174 B-SX132	土器	全D1	112.6/24	10.2			底	底 青
175 B-SX132	土器	全B	底	9.2	1.5	5.2	底	底 青
176 B-SX132	土器	全B	底	2.2	1.6	6.5	底	底 青
177 B-SX132	土器	全B	112.5/24~底	9.4	1.6	6.5	底	底 青
178 B-SX132	土器	全B	底	(5.0)			底	底 青
179 B-SX132	土器	全B	底	6.0			底	底 青
180 B-SX132	土器	全D1	116.1/24	(19.0)			底	底 青
181 B-SX132	土器	全B2	120.6/24	19.6			底	底 青
182 B-SX132	土器	全C2	113.2/24	(15.0)			底	底 青
183 B-SX132	土器	全B2	112.2/24	(18.0)			底	底 青
184 B-SX132	土器	全D1	112.5/24	(19.0)			底	底 青
185 B-SX132	土器	全B2	111.5/24	(20.0)			底	底 青
186 B-SX132	土器	全C2	111.3/24	(24.0)			底	底 青
187 B-SX132	土器	全C2	118/24	(20.0)			底	底 青
188 B-SX132	土器	全B	底	3.4			底	底 青
189 B-SX231	土器	全A1	113.5/24	12.0			底	底 青
190 B-SX231	土器	全A2	肩部欠損	20.0			底	底 青
191 B-SX137	土器	全C2	113/24	(17.0)			底	底 青
192 B-SX136	土器	全X	114.5/24	(15.0)			底	底 青
193 B-SX136	土器	全D1	113/24	(12.0)			底	底 青
194 B-SX136	土器	全E	底	3.0			底	底 青
195 B-SX136	土器	全D1	111.5/24	(25.0)			底	底 青
196 B-SX136	土器	全B2	113.4/24	(20.0)			底	底 青
197 B-SX118	土器	器台A	114.5/24、 脚一部欠損	7.9	11.4	8.8	底	底 青
198 B-SX118	土器	器台A	119.3/24、 他全欠損	9.2	12.2	10.1	底	底 青
199 B-SX118	土器	器台A	119.3/24、 他全欠損	9.8	12.4	10.1	底	底 青
200 B-SX118	土器	器台B	113.5/24	(11.0)			底	底 青
201 B-SX118	土器	器台	脚部全損				底	底 青
202 B-SX118	土器	器台脚A	脚一部欠損	11.4			底	底 青
203 B-SX118	土器	器台脚B	脚	(9.0)			底	底 青
204 B-SX118	土器	器台C	口は全周	19.0			底	底 青
205 B-SX118	土器	全C	110/24	20.0			底	底 青
206 B-SX118	土器	器D	112.5/24~肩	21.2			底	底 青
207 B-SX118	土器	器D	113.3/24	18.2			底	底 青
208 B-SX118	土器	器B	119.9/24	(25.0)			底	底 青
209 B-SX118	土器	器A	116/24	20.0			底	底 青
210 B-SX118	土器	器D	110.8/24、体面 以下は全周欠損	13.4	7.8	31.3	底	底 青

no.	品名	種類	器種	残存状況	口径	底径	器高	外面塗装	内面塗装	胎土	色調	完成	備考
211	B-SX118	土器	鉢D	口20.3/24	19.5			外面塗装	内面塗装	白	白	にぶい黄	
212	B-SX118	土器	鉢B	口4.8/24	(22.0)			横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
213	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	B-41と同-?
214	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	B-371に扁し初る、同-?
215	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
216	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
217	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
218	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
219	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
220	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
221	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
222	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
223	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
224	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
225	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
226	B-SX118	土器	鉢	口4.8/24				横ハケタ	横ハケタ	赤白	白	白	
227	B-SX118	土器	鉢B	口4.8/24	8.2	5.0		斜ハケタ	ナガ、輪状工具	赤白	白	にぶい黄	
228	B-SX118	土器	鉢A	口4.8/24	(36.0)			口横ミガキ、体縦ケス	横ハケタ、後口横ミガキ、体ケス	赤黒青長	赤黒	白	
229	B-SX118	土器	鉢E	口4.8/24	15.8	1.8	11.7	下半部ハケタ、上半部ハケタ	下半部ハケタ、上半部ハケタ	赤黒	赤黒	白	
230	B-SX118	土器	鉢B	口4.8/24	11.8	2.6	12.9	斜ハケタ	上位置ハケタ	赤白	赤白	白	蓋みやや大きい
231	B-SX118	土器	鉢B	口4.8/24	13.8	1.8	15.6	斜ハケタ	上位置ハケタ	赤白	赤白	白	
232	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(10.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
233	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(13.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
234	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(13.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
235	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(14.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
236	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(15.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
237	B-SX118	土器	鉢B	口4.8/24	(17.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
238	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(13.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
239	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(19.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
240	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(17.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
241	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(19.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
242	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(18.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
243	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(20.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
244	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(20.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
245	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(20.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
246	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(20.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
247	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(22.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
248	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(19.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
249	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(18.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
250	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	(22.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
251	B-SX118	土器	鉢D	口4.8/24	複合			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	
252	B-SX118	土器	鉢C	口4.8/24	(18.0)			口横ミガキ	口横ミガキ	赤白	赤白	白	外面にスス

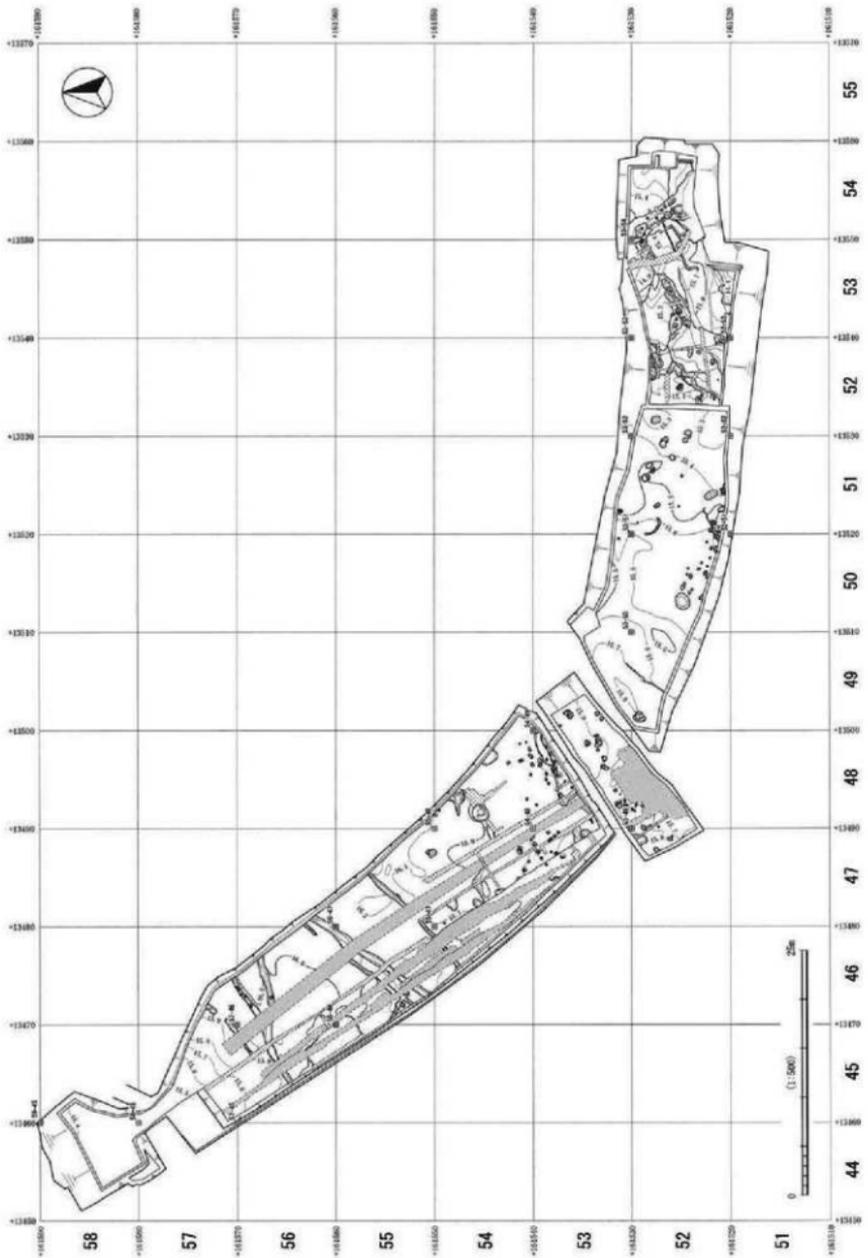
品名	種別	型番	現存状況	口径	底径	高さ	外形寸法	内面寸法	射上	色澤	組成	備考
253 B-SX118	土器	壺	底		4.2				白赤	にぶい黄緑		
254 B-SX118	土器	壺	底		4.6				白赤	にぶい黄緑		
255 B-SX118	土器	壺	底		3.4			横ハケメ	赤白	にぶい黄緑		
256 B-SX118	土器	高杯	壺部欠損						赤青	にぶい黄緑		
257 B-SX118	土器	壺	壺部欠損						赤	にぶい黄緑		外面にスス
258 B-SX118	土器	壺D1	口1.2/24		(14.0)				赤長骨	にぶい黄緑		壺部?
259 B-SX118	土器	壺A	口1.2/24		(10.0)				赤	にぶい黄緑		外面にスス
260 B-SX118	土器	壺A	口1.7/24		(25.0)				白	浅黄緑		
261 B-SX118	土器	壺C2	口1.5/24		(15.0)			横ハケメ	白	にぶい黄緑		
262 B-SX118	土器	壺B2	口1.6/24		(18.0)				赤白	にぶい黄緑		
263 B-SX118	土器	壺D1	口1.8/24		(18.0)			横ハケメ	赤白	にぶい黄緑		外面にスス
264 B-SX118	土器	壺C2	口1.2/24		(18.0)				赤青	浅黄緑		
265 B-SX118	土器	壺	底		18.4		(6.0)		白	にぶい黄緑		
266 B-SX118	土器	壺	底		3.0				赤白	にぶい黄緑		
267 B-SX118	土器	高杯A	口3.5/24		(20.0)				赤白	にぶい黄緑		
268 B-SX119	土器	高杯A	口3.2/24		9.4	13.8	6.8		赤白	にぶい黄緑		
269 B-SX119	土器	高杯B	口11/24		9.0	11.2	10.7		白	浅黄緑		
270 B-SX119	土器	壺D	口11.1/24~ 体上位		12.4				白長	黄		
271 B-SX119	土器	壺A	口8.8/24		11.2				赤白長	黄		
272 B-SX119	土器	壺A	口4/24		(10.0)				長赤	にぶい黄		B-83と同-?
273 B-SX119	土器	壺D	口2.2/24		(16.0)				白長赤	黄		B-83と同-?
274 B-SX119	土器	壺A	頸						赤長	にぶい黄緑		
275 B-SX119	土器	壺A	頸						赤長	にぶい黄緑		
276 B-SX119	土器	壺A	頸口破片						赤長	浅黄緑		
277 B-SX119	土器	壺D	口2.8/24		(20.0)				赤白長	黄		外面中にスス
278 B-SX119	土器	壺	底		8.8				赤白長	灰白		
279 B-SX119	土器	壺	口1.5/24 体一部欠損		1.8	8.9			白赤長	にぶい黄緑		
280 B-SX119	土器	鉢	体一部欠損		13.4				赤	浅黄緑		外面二次被熱
281 B-SX119	土器	壺	体完形		2.4				白長	にぶい黄緑		
282 B-SX119	土器	壺A1	口1.5/24 ほぼ保存		13.2	1.0	13.6		赤長	にぶい黄緑		外面中にスス
283 B-SX119	土器	壺B3	口1.3/24 ほぼ保存		12.4	3.0	14.3		赤長	にぶい黄緑		外面中にスス
284 B-SX119	土器	壺A3	口全一 体中位		14.2				赤白	にぶい黄緑		外面中にスス
285 B-SX119	土器	壺D1	口11.3/24		13.4				赤白	にぶい黄緑		外面中にスス
286 B-SX119	土器	壺C2	口4.4/24		(15.0)				白長	にぶい黄緑		外面中にスス
287 B-SX119	土器	壺B2	口3.2/24		(14.0)				赤長	にぶい黄緑		
288 B-SX119	土器	壺D1	口21/24~ 体下		16.2				赤白	にぶい黄緑		外面中にスス
289 B-SX119	土器	壺D1	口3.4/24		(15.0)				赤白	浅黄緑		
290 B-SX119	土器	壺D1	口6.3/24		(18.0)				赤白	にぶい黄緑		
291 B-SX119	土器	壺D1	口4.2/24		(17.0)				赤白	にぶい黄緑		
292 B-SX119	土器	壺D1	口11/24		(16.0)				赤白	にぶい黄緑		
293 B-SX119	土器	壺C2	口2/24		(16.0)				赤	黄		
294 B-SX119	土器	壺B2	口24/24~ 体上		17.8				赤白長	黄		
295 B-SX119	土器	壺D1	口0.8/24		(21.0)				赤	黄		
297 B-SX119	土器	壺D1	口13/24		18.6				赤	黄		胎土砂質

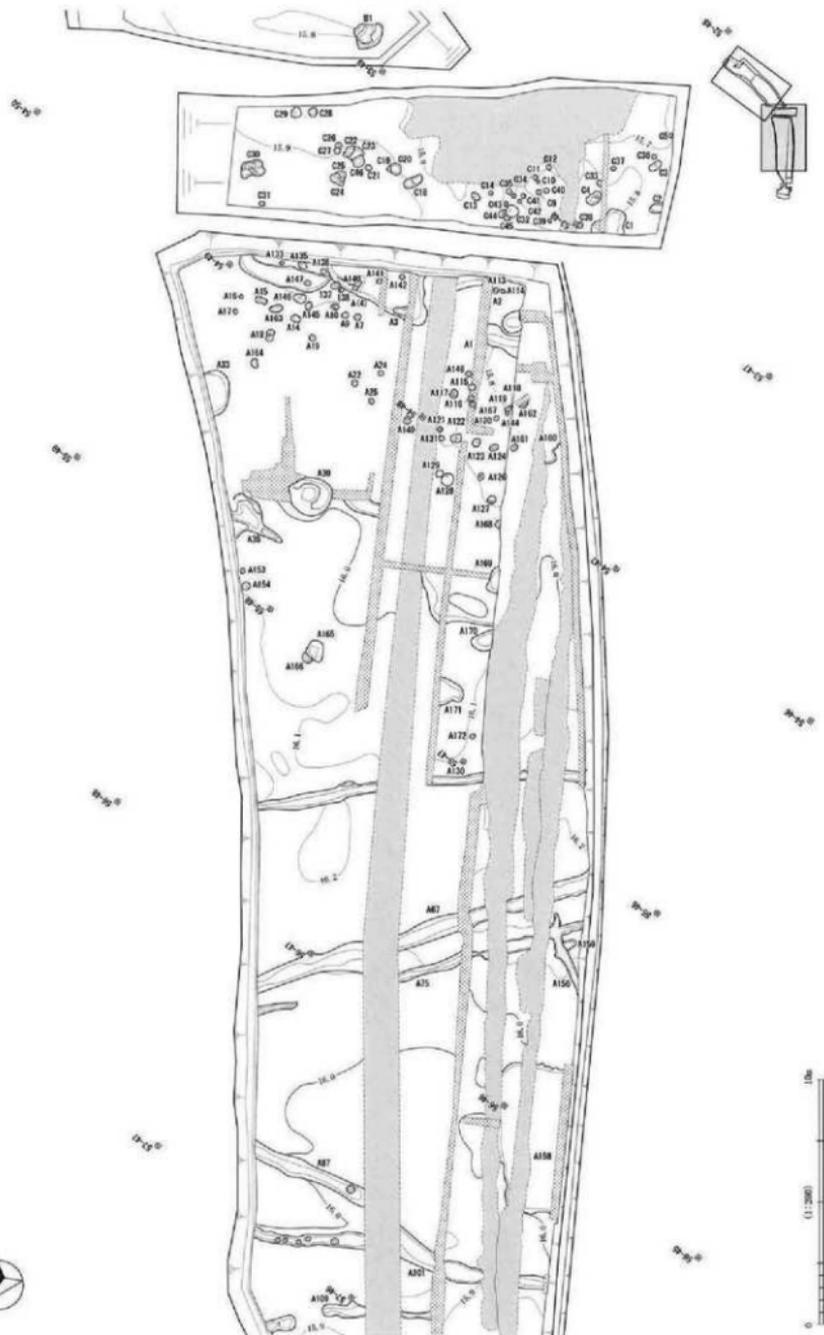
品名	規格	種類	状態	口径	口径	高さ	外面直径	内面直径	胎土	色調	完成	備考
296	B-SX119	土器	底	φ13.5/24	(20.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
299	B-SX119	土器	底	φ11.5/24	(18.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
300	B-SX119	土器	底	φ13.5/24	19.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
301	B-SX119	土器	底	φ13.5/24	19.2	26.3			赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
302	B-SX119	土器	底	φ12/21	20.2				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
303	B-SX119	土器	底	φ12/21	20.0				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
304	B-SX119	土器	底	φ12/21	26.2				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
305	B-SX119	土器	底	φ12/21	(18.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
306	B-SX119	土器	底	φ11.9/24	(21.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
307	B-SX119	土器	底	φ12/21	17.4				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
308	B-SX119	土器	底	φ12/21	19.6				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
309	B-SX119	土器	底	φ12/21	(30.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
310	B-SX119	土器	底		3.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
311	B-SX119	土器	底		5.6				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
312	B-SX119	土器	底		3.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
313	B-SX119	土器	底		3.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
314	B-SX119	土器	底		3.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
315	B-SX119	土器	底		(5.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
316	B-SX119	土器	底		4.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
317	B-SX119	土器	底		3.0				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
318	B-SX119	土器	底		2.4				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
319	52-51-7	土器	底		22.4	15.2			赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
320	52-51-7	土器	底						赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
321	54-48-2	土器	底						赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
322	54-48-2	土器	底		9.5				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
323	52-47-7	土器	底		6.8	7.3			赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
324	54-48-7	土器	底		(11.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
325	不明	土器	底						赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
326	52-51-7	土器	底		8.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
327	54-48-1	土器	底		(12.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
328	52-52-7	土器	底		12.8				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
329	52-51-2	土器	底		(16.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
330	54-48-7	土器	底		(14.8/24)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
331	54-48-7	土器	底		(13.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
332		土器	底		(16.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
333	52-52-1	土器	底		15.0				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
334	53-61-7	土器	底		(16.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
335	52-51-7	土器	底		17.4				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
336	52-51-7	土器	底		(19.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
337		土器	底		(20.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
338		土器	底		(21.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
339	52-51-7	土器	底		(18.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
340	52-51-7	土器	底		(18.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ
341	54-48-7	土器	底		(8.0)				赤長	にぶい	赤長	胎高25cm前後、外面中位にスズ

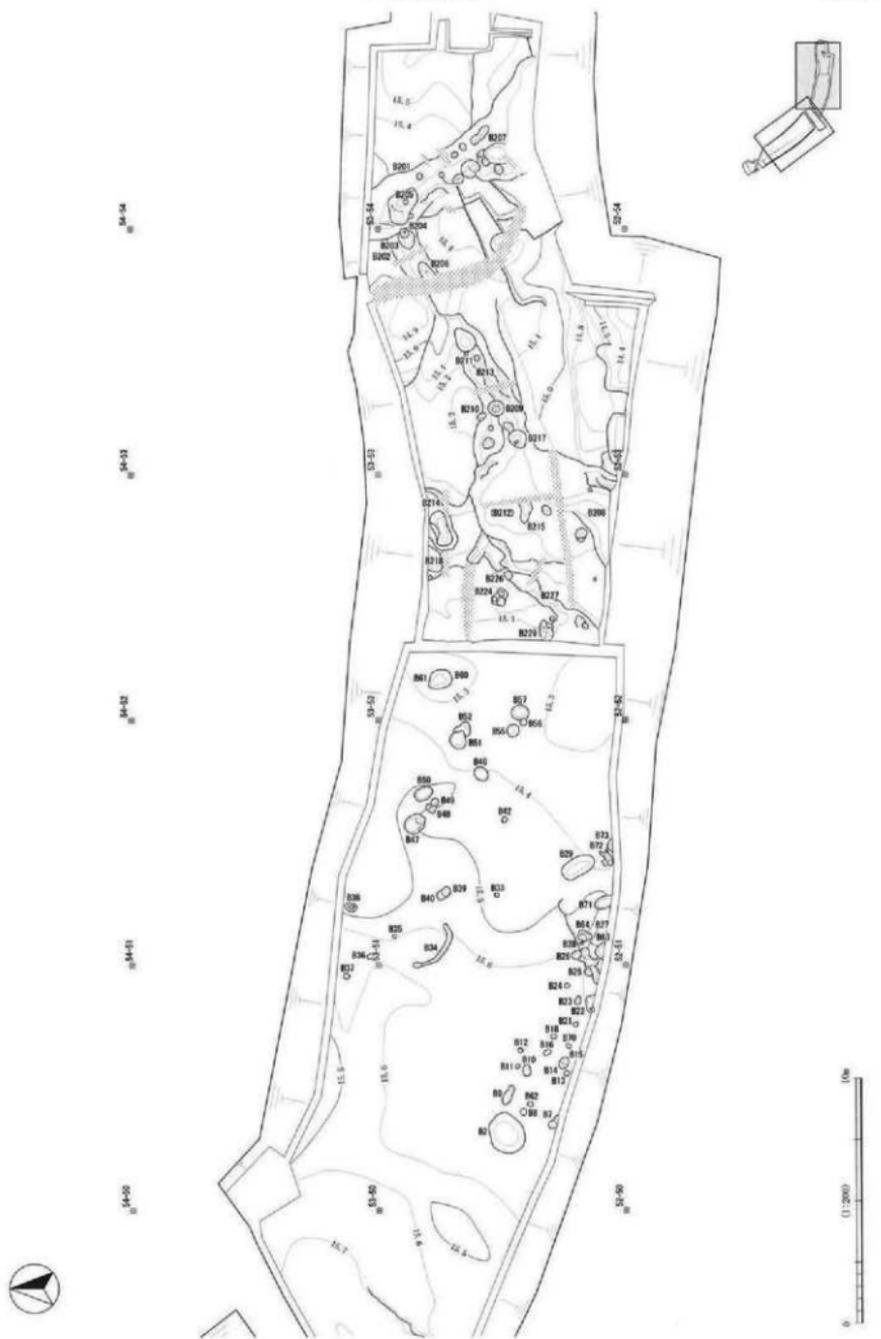


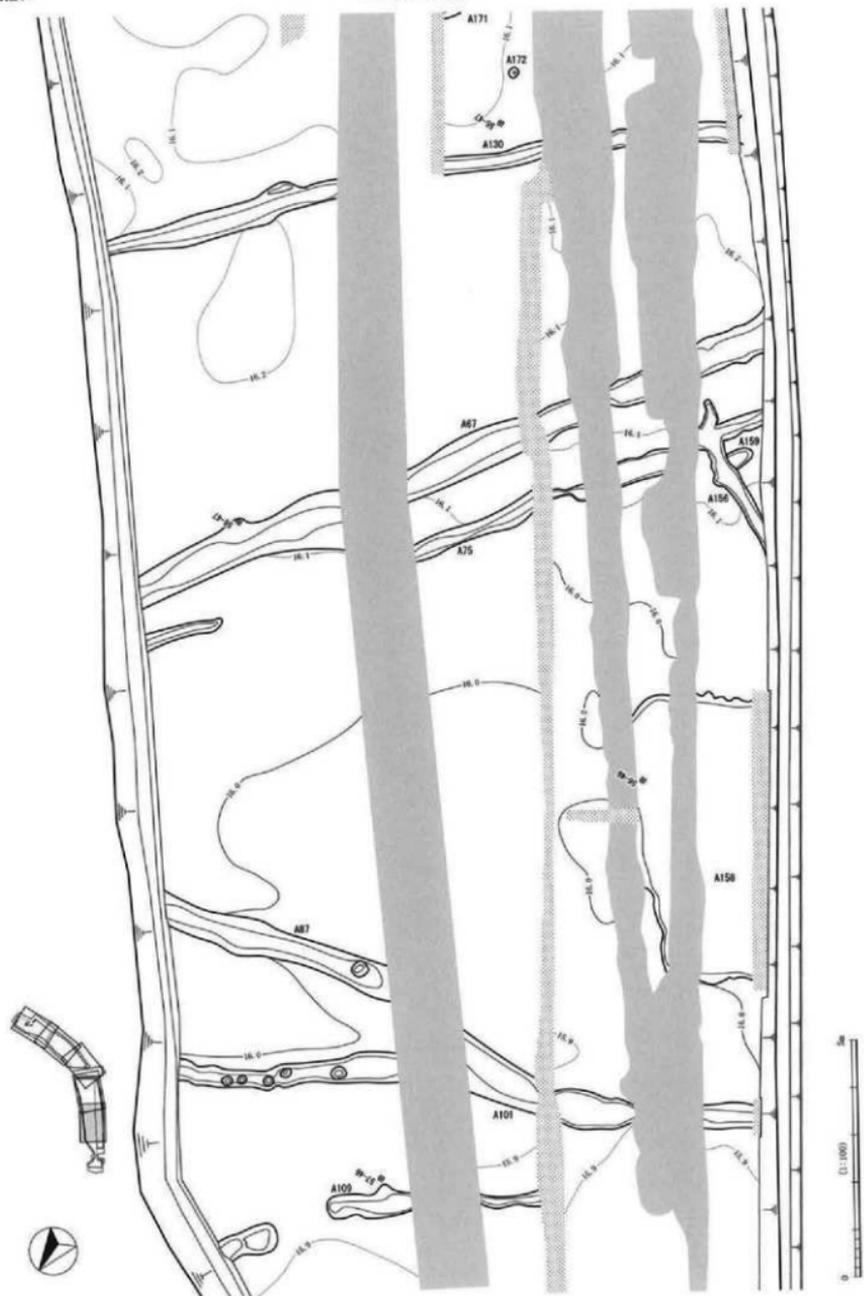
品名	品類	製法	現存状況	口径	直径	高さ	外面調整	内面調整	動土	色調	状態	備考
388	52-40-エ	土器	口12.7/24	(13.0)			縦ハナメ		赤	赤	外面下赤スス	
389	54-48-エ	土器	口18.7/24、肩	(18.0)			縦ハナメ		骨色	にぶい黄橙	外面口縁部スス	
390	54-48-カ	土器	口12.9/24	(17.0)			縦ハナメ		骨色	にぶい黄橙	外面に広クスス	
391	54-48-カ	土器	口一部欠損	16.7			不定ハナメ		骨色	にぶい黄橙	良	外面に広クスス、内面体部にコゴレ
392	54-48-ウ	土器	口一部欠損	16.0			不定ハナメ	頸部横へラナデ、 体部ハナメ	白	黄黄橙	良	外面スス
393	52-62-イ	土器	口17.7/24	(19.0)			口縁部が尖状のへラナデ		赤骨	にぶい橙	良	
394	52-62-イ	土器	口18.7/24	(18.0)					赤	にぶい橙		
395	54-48-エ	土器	口17.7/24	(18.0)					赤長	にぶい橙		外面スス
396	54-48-エ	土器	口17.7/24	(20.0)					赤長	にぶい橙		
397	54-47-ト	土器	口12.4/24	(18.0)					赤	黄黄	良	
398	54-47-ト	土器	口11.9/24	(18.0)					黒赤子	灰白		
399	54-48-ウ	土器	口17.7/24	(17.0)				横ハナメ	赤長	にぶい橙	良	外面スス強い
400	52-62-イ	土器	口17.7/24	(18.0)					赤長	にぶい橙	良	外面スス
401	54-48-エ	土器	口12.4/24	(20.0)					赤	にぶい黄橙	良	外面に粗
402	52-61-ウ	土器	口13.7/24	(20.0)					赤	にぶい黄橙	良	外面に粗
403	54-48-エ	土器	口15.2/24	(18.0)					赤	にぶい黄橙	良	外面に粗
404	54-48-エ	土器	口17.2/24	(17.0)			縦ハナメ		赤	黄	良	
405	52-62-イ	土器	口15.2/24	(18.0)			口縁部横へラナデ		赤骨	既黄橙	良	外面にコゴレ、胎土に骨針多く、調整も他と異なり、輸入品とみられる。
406	54-48-ウ	土器	口13.2/24	(19.0)			縦ハナメ		赤	にぶい橙		
407	54-48-ウ	土器	口12.6/24	(18.0)			縦ハナメ		赤	にぶい黄橙		外面口縁部付定にスス
408	52-60	土器	口2/24	(19.0)			縦ハナメ		白長	黄	良	外面口縁部にスス
409	54-48-ウ	土器	口15.2/24	(19.0)					赤長	にぶい橙		外面スス
410	52-61-ウ	土器	口12.5/24	(20.0)					赤	既黄橙		
411	52-61-ト	土器	口16/24	(21.0)			縦ハナメ		赤	既黄橙		
412	54-48-ウ	土器	口17.7/24	21.0					赤黒	にぶい橙		内面口縁部にコゴ
413	54-48-ウ	土器	口13.8/24	(20.0)			縦ハナメ		赤白	にぶい黄橙	良	外面体部に薄クスス
414	54-48-ウ	土器	口17.7/24	(21.0)			斜ハナメ		赤黄	にぶい黄橙	良	外面スス
415	52-61-ウ	土器	口15.2/24	(20.0)					白	にぶい黄橙	良	
416	54-48-エ	土器	口10.6/24	(24.0)			縦ハナメ		黒	にぶい黄橙	良	口縁部部にスス
417	52-62-ナ	土器	口3/24	(27.0)			縦ハナメ		赤	にぶい黄橙	良	口縁部部にスス
418	52-62-ナ	土器	底	(3.0)			斜ハナメ		白	黄	良	外底面ハナメ
419	54-48-ウ	土器	底	2.8			斜ハナメ		赤・白	にぶい黄橙	良	
420	52-61-二	土器	底	4.0					赤	黄	良	内面赤色
421	54-48-ウ	土器	底	4.2			部骨		赤白	既黄橙	良	外面赤色
422	52-61-ウ	土器	底	3.2					赤	既黄橙	良	内面にコゴレ
423	52-61-ウ	土器	底	2.4					赤	にぶい黄橙	良	
424	54-48-イ	土器	底	2.4			縦ハナメ		赤長	にぶい黄橙	良	外面赤黄化
425	54-48-イ	土器	底	6.3			縦ハナメ		赤長	にぶい黄橙	良	外面赤黄化により赤色
426	53-61-イ	土器	底	10.5			縦ハナメ		赤	にぶい黄橙	良	外面赤黄化により赤化、内面コゴレ
427		土器	底	3.2					白	にぶい黄		胎土多し、赤黄黄製品。
428	B-SK209	鉄製品		4.0	22.2	1.2						上部欠損
429	B-SD201	石製品	底面欠損	4.8	(4.2)	1.3						上部欠損
430	B-SD201	石製品	底面欠損	2.2	(3.8)	1.4						431~433同一個体、みかみ溝あり。
431	A-SH126	木製品	柱根	13.4	5.3	2.3						
432	A-SH126	木製品	柱根	19.3	8.1	2.7						
433	A-SH126	木製品	柱根	18.3	7.5	2.8						
434	A-SH127	木製品	柱根	10.5	8.1	2.7						芯持ち。

品名	製造	種類	材質	現存状況	口径	長さ	高さ	外面径	内面径	粘土	色調	焼成	備考
435	A-SPT121	木製品	柱状		25.0	11.3	9.9						赤土質
436	A-SPT144	木製品	柱状		22.6	11.5	8.2						赤土質
437	A-SPT128	木製品	柱状		26.6	15.6	7.5						赤土質
438	A-SPT145	木製品	柱状		38.0	14.7	15.1						赤土質
439	A-SPT152	木製品	柱状		46.0	12.0	9.5						赤土質
440	A-SPT123	木製品	柱状		73.5	16.5	9.5						赤土質



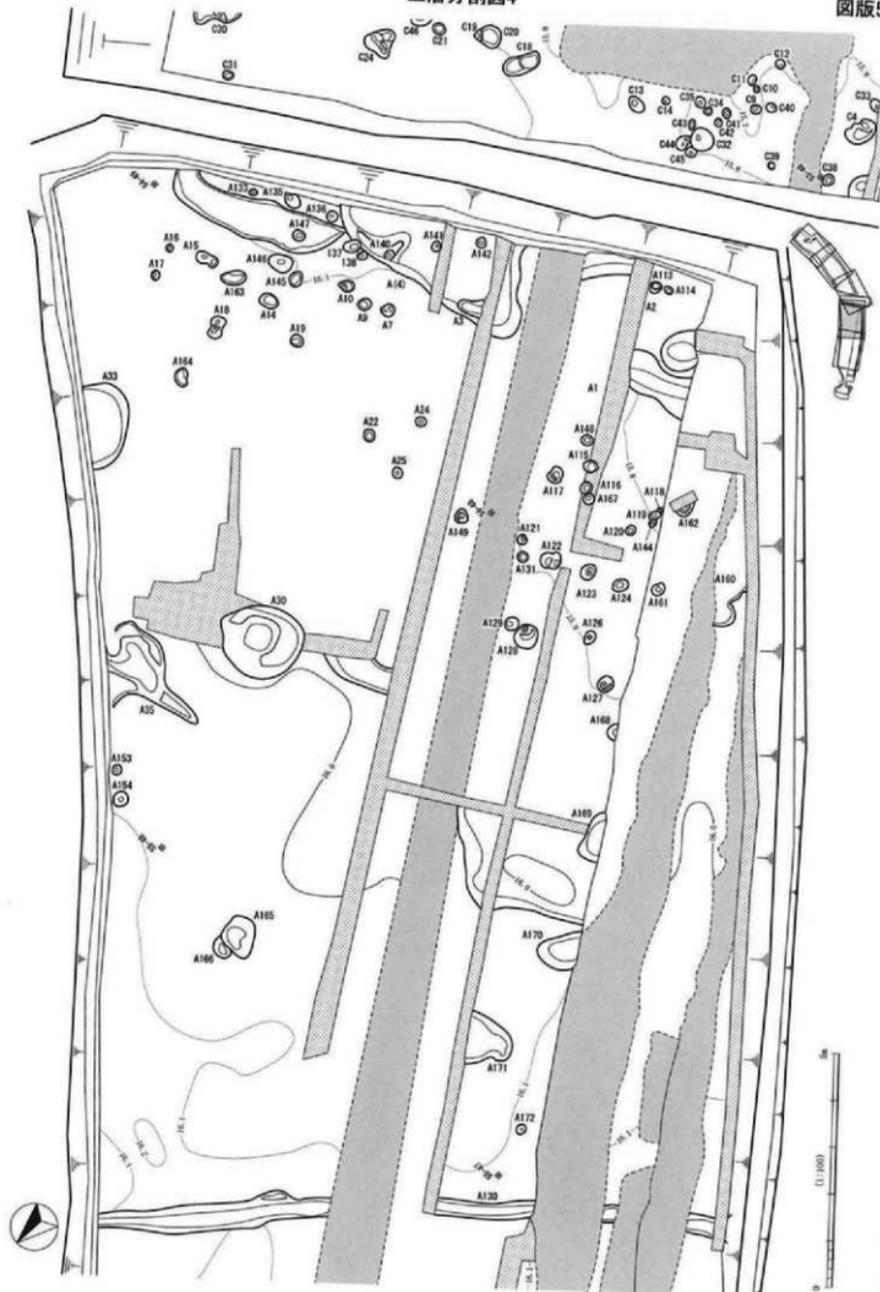


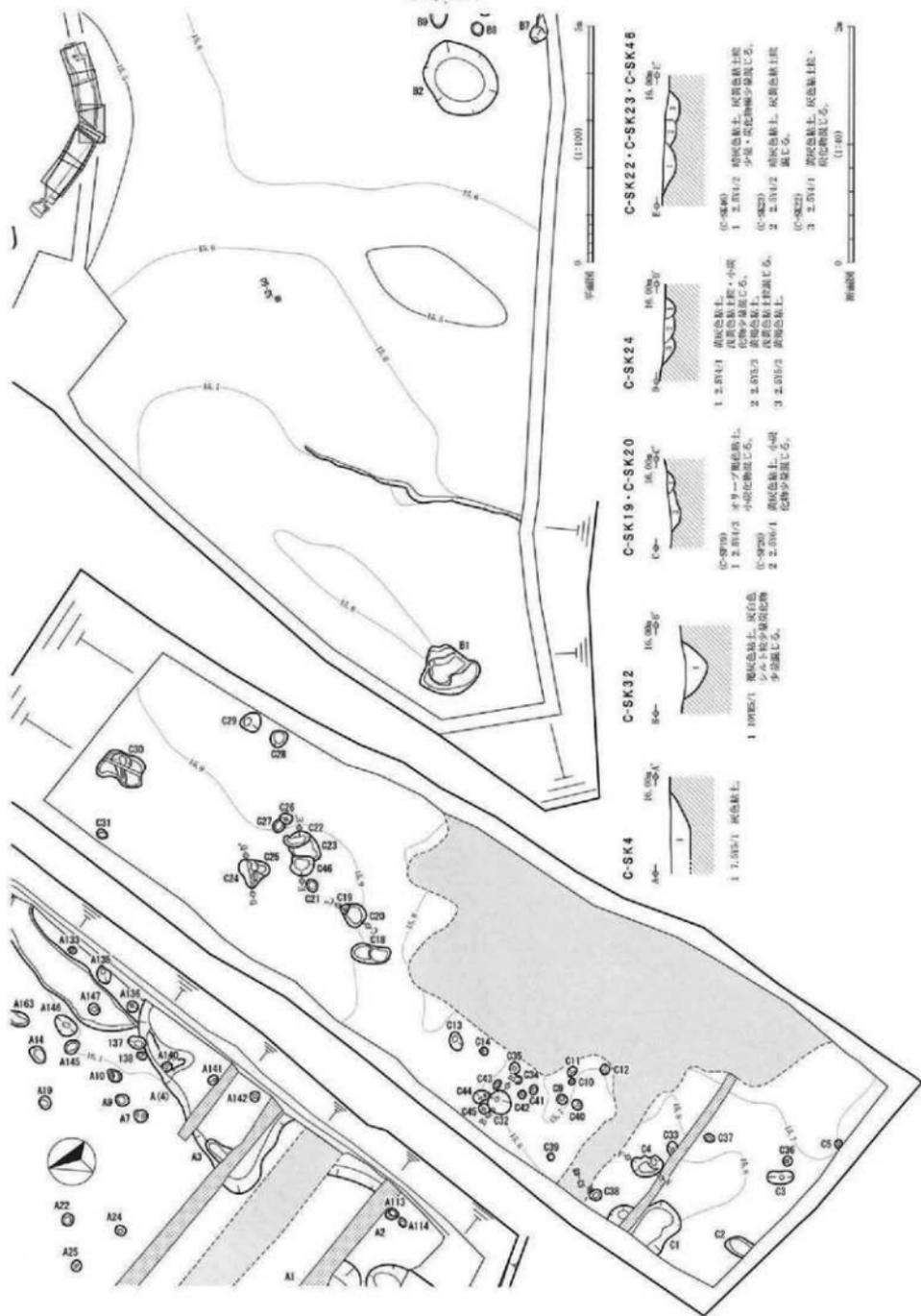




上層分割図4

図版5





C-SK22・C-SK23・C-SK46

C-SK24

C-SK19・C-SK20

C-SK32

C-SK4

(C-SK46)  
 1 2.0/1.2 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量・灰褐色土層は、  
 (C-SK23)  
 2 2.0/1.2 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。  
 (C-SK22)  
 3 2.0/1.1 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。

(C-SK24)  
 1 2.0/1.1 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。  
 (C-SK23)  
 2 2.0/1.3 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。  
 (C-SK22)  
 3 2.0/1.2 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。

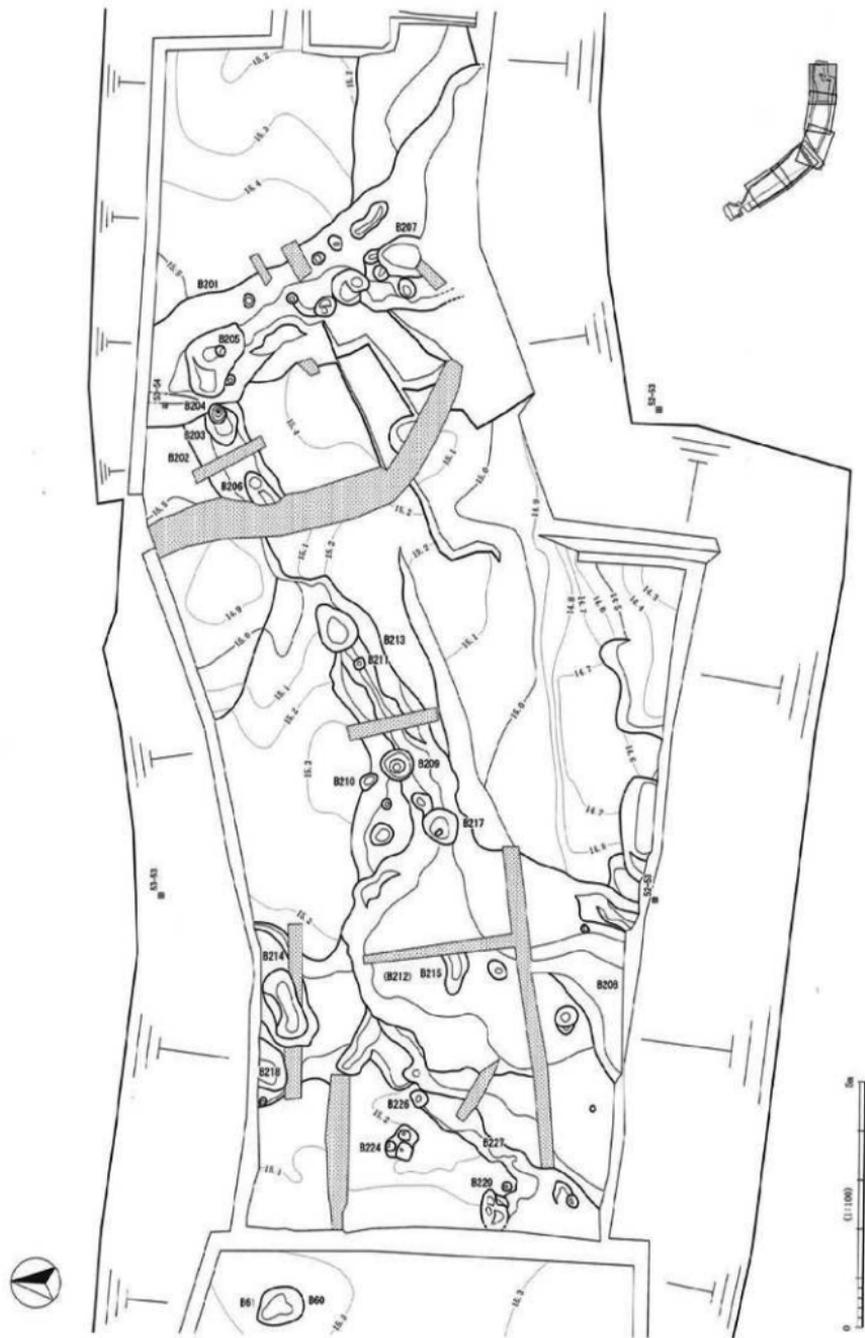
(C-SK19)  
 1 9.9/1.2 赤褐色土上、赤褐色土層  
 少量。  
 (C-SK20)  
 2 2.0/1.3 赤褐色土上、赤褐色土層  
 少量。  
 (C-SK21)  
 3 2.0/1.4 赤褐色土上、赤褐色土層  
 少量。

(C-SK32)  
 1 10/2/1 灰白色土上、灰白色土層  
 少量。

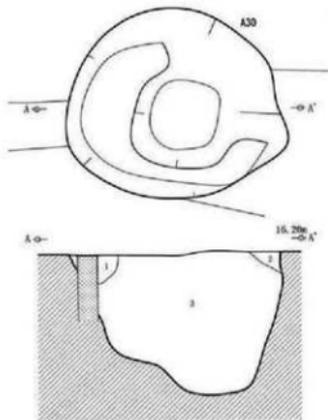
(C-SK4)  
 1 7.0/2.1 灰褐色土上、灰褐色土層  
 少量。





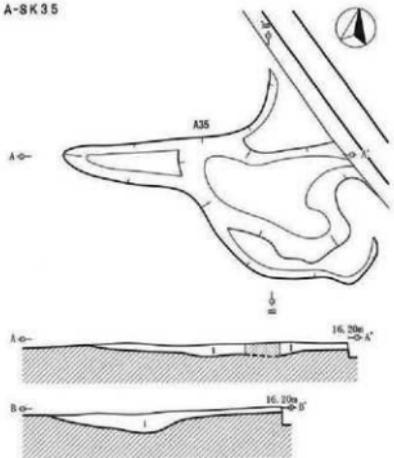


A-SK30



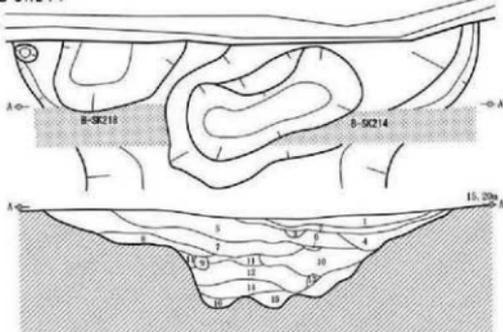
- 1 2.5V7/2 灰黄色シルト。
- 2 3IV/1 灰色粘土。
- 3 10G5/1 緑灰色シルト。炭化物少量混じる。

A-SK35



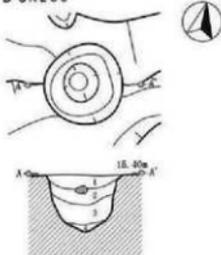
- 1 2.5V6/3 に5I1・黄色砂混じりシルト。炭化物多く混じる。

B-SK214



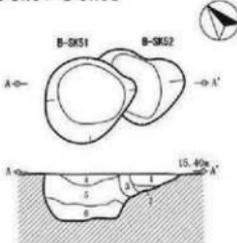
- 1 7.5V5/1 灰色砂少量混じり粘土。
- 2 7.5V5/1 灰色砂混じり粘土。
- 3 10I5/1 灰色粘土。
- 4 8V5/1 灰色粘土。
- 5 8V5/1 灰色粘土。黒褐色粘土大型ブロック混じる。
- 6 8CIV/1 オリーブ灰色粘土。灰色粘土混じる。
- 7 8CIV/1 オリーブ灰色粘土。
- 8 褐色砂。灰色粘土まじりに混じる。
- 9 5IV/1 灰色粘土ブロック層。
- 10 10V6/1 灰色粘土。黒色粘土まじりに混じる。
- 11 5V6/2 灰オリーブ色粘土。
- 12 7.5V6/1 灰色粘土ブロック。
- 13 7.5V6/1 褐色色粘土。
- 14 2.5CIV/1 オリーブ灰色砂混じり粘土。
- 15 2.5V5/1 黄灰色粘土。
- 16 7.5V6/2 灰オリーブ色シルトブロック。灰色粘土混じる。

B-SK209



- 1 2.5V4/1 黄灰色粘土。炭化物・赤灰色シルト少量・灰黄色シルト少量混じる。
- 2 2.5V4/1 黄灰色粘土。黄灰色粘土少量・炭化物少量混じる。
- 3 2.5V4/1 黄灰色粘土。
- 4 2.5V6/1 黄灰色砂混じり粘土。

B-SK51・B-SK52



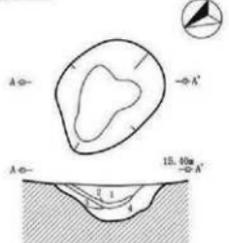
(B-SK52)

- 1 2.5V5/1 黄灰色粘土。灰黄色粘土多く・炭化物少量混じる。
- 2 7.5V6/1 灰色粘土。砂少量混じる。
- 3 2.5V4/1 黄灰色粘土。灰色粘土粒・炭化物混じる。

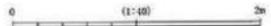
(B-SK51)

- 4 2.5V4/1 黄灰色粘土。灰黄色粘土多く混じる。
- 5 5V5/1 灰色粘土。オリーブ灰色粘土粒多く・炭化物少量混じる。
- 6 10V6A/1 褐色色粘土。炭化物少量混じる。

B-SK60

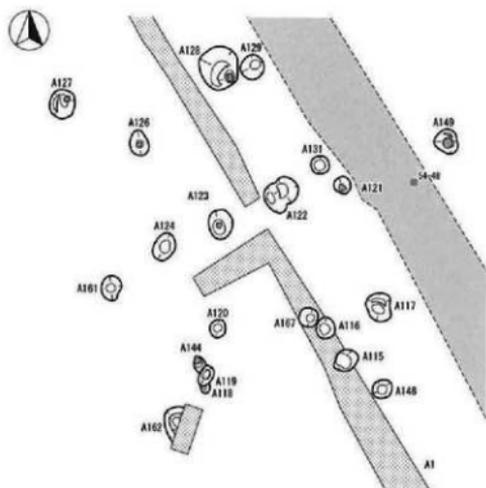


- 1 5V4/1 灰色粘土。しまり細かい。
- 2 5V2/1 黒色粘土。縦横粒状主体。しまり弱い。
- 3 2.5V4/1 黄灰色粘土。下段に薄く黒色粘土層が堆積。
- 4 7.4V4/1 灰色粘土。オリーブ灰色シルト粒混じる。

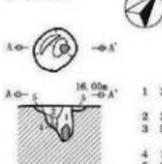






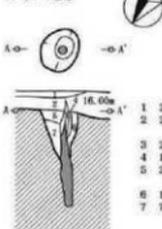


A-SP127



- 1 2.878/1 黄灰色粘土。炭化物多く混じる。
- 2 2.878/3 黄灰色粘土。
- 3 878/1 灰色粘土。黄灰色砂質シルト混じる。
- 4 10785/1 黄灰色粘土。
- 5 2.876/2 黄灰色砂質シルト。

A-SP123

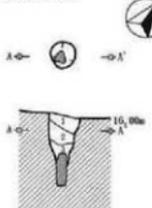


- 1 2.517/2 黄灰色粘質シルト。炭化物少量混じる。
- 2 2.516/3 黄灰色粘土。
- 3 2.515/1 黄灰色粘土。
- 4 10785/2 黄灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 5 2.513/2 明黄灰色砂混じりシルト。炭化物少量混じる。
- 6 10785/1 黄灰色粘土。
- 7 1.893/4 灰色砂混じりシルト。

A-SP162

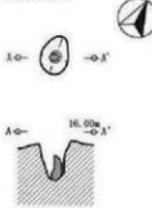


A-SP121

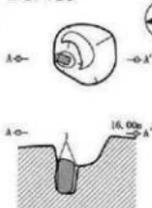


- 1 10785/3 にぶい黄褐色シルト。炭化物少量混じる。
- 2 10785/2 黄褐色粘土。
- 3 10785/2 黄褐色粘土。

A-SP126

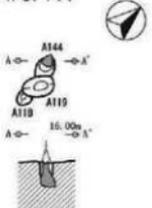


A-SP128



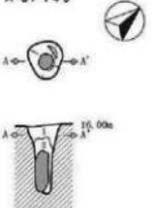
- 1 2.835/1 黄灰色粘土。炭化物多く混じる。

A-SP144



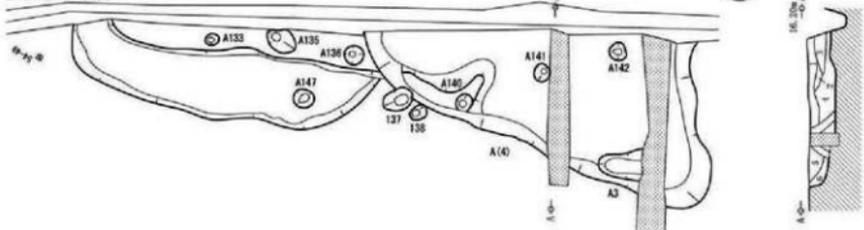
- 1 灰色粘土

A-SP149



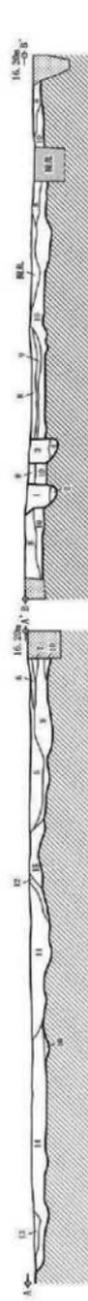
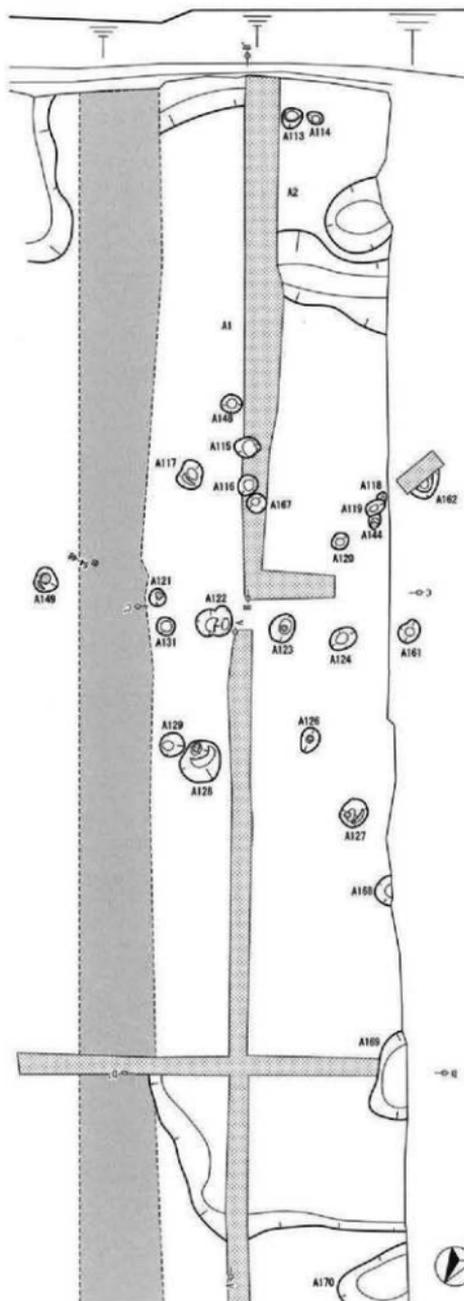
- 1 緑褐色〜黄褐色シルト。
- 2 灰色粘土。

A-SK3・A-SK4



- 1 2.516/2 黄褐色粘土。炭化物多く混じる。
- 2 2.517/3 黄褐色粘土。炭化物混じる。
- 3 2.516/2 黄褐色粘土。炭化物少量混じる。
- 4 2.516/1 黄褐色粘土。炭化物多く混じる。
- 5 2.516/3 にぶい黄褐色粘土。砂少量混じる。
- 6 2.517/4 にぶい黄褐色粘土。
- 7 2.517/4 にぶい黄褐色粘土。



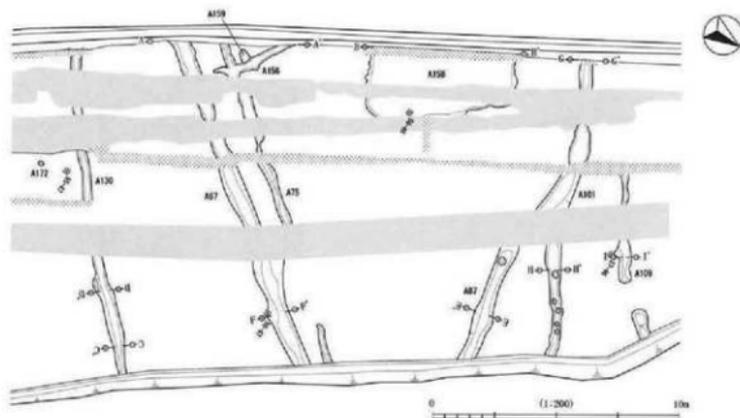


- 1 107B/2 灰赤褐色シルト、炭化物少量混入。  
 2 107B/2 灰赤褐色シルト、炭化物少量混入。  
 3 107B/1 黒灰色粘土。  
 4 107B/1 黒灰色粘土、炭化物少量混入。  
 5 107B/1 黒灰色粘土、炭化物少量混入。  
 6 2. 51B/2 灰赤褐色シルト、炭化物混入。  
 7 107B/2 灰赤褐色シルト、炭化物混入。  
 8 2. 51B/1 灰赤褐色シルト、炭化物少量混入。  
 9 2. 51B/1 灰赤褐色シルト、炭化物少量混入。  
 10 2. 51B/1 灰赤褐色シルト、炭化物少量混入。  
 11 2. 51B/2 暗灰色粘土、炭化物少量混入。  
 12 2. 51B/2 灰赤褐色シルト、炭化物混入。  
 13 2. 51B/2 灰赤褐色シルト、炭化物混入。  
 14 2. 51B/2 暗灰色粘土、炭化物少量混入。  
 15 2. 51B/2 暗灰色粘土、炭化物少量混入。  
 16 107B/1 暗灰色粘土、炭化物少量混入。

- 1 2. 51B/3 におい、赤褐色粘質シルト、炭化物少量混入。  
 2 2. 51B/3 暗灰色粘土、炭化物少量混入。  
 3 2. 51B/3 黒灰色粘土、炭化物少量混入。  
 4 2. 51B/3 黒灰色粘土、炭化物少量混入。  
 5 2. 51B/3 灰赤褐色粘土、炭化物少量混入。  
 6 2. 51B/3 灰赤褐色粘土、炭化物少量混入。  
 7 2. 51B/1 灰赤褐色粘土、炭化物少量混入。  
 8 2. 51B/1 灰赤褐色粘土、炭化物少量混入。

- 1 2. 51B/3 におい、赤褐色粘質シルト、炭化物少量混入。  
 2 2. 51B/3 暗灰色粘土、炭化物少量混入。  
 3 2. 51B/3 黒灰色粘土、炭化物少量混入。



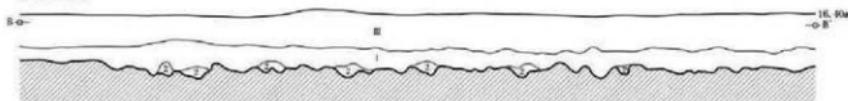


A-SD67・A-SD151・A-SD156



- |   |                  |
|---|------------------|
| 1 2.515/2 暗灰黄色シルト。炭化物少量混じる。<br>(A-SD67) | 4 2.513/1 黒褐色粘土。 |
| 2 2.514/1 黄灰色シルト。                       | (A-SD151)        |
| 3 2.513/1 黒褐色粘土。黄灰色粘土少量混じる。             | 5 2.513/1 黒褐色粘土。 |

A-SK158



- 2.511/1 黄灰色粘土。
- 2.516/3 に近い黄灰色粘土。

A-SD130



- 2.514/1 黄灰色粘土。炭化物極少量混じる。
- 2.515/2 黄灰色粘土。炭化物少量。地山土多く混じる。
- 2.515/2 暗灰黄色粘土。炭化物少量。地山土混じる。
- 10985/2 灰黄色砂質シルト混じり粘土。
- 2.516/2 黄灰色粘土。灰黄色粘土混じる。
- 2.516/1 黄灰色粘土。灰黄色粘土混じる。
- 2.516/2 灰黄色粘土。

A-SD109



A-SD87



- 2.514/1 黄灰色粘土。炭化物・洗黄色シルト混じる。
- 2.516/1 黄灰色粘土。炭化物少量混じる。

A-SD67



- 2.515/1 黄灰色粘土。洗黄色粘土混じる。
- 10984/1 黄灰色粘土。洗黄色粘土混じる。
- 2.517/1 灰白色粘土。

A-SD101

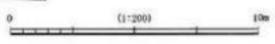
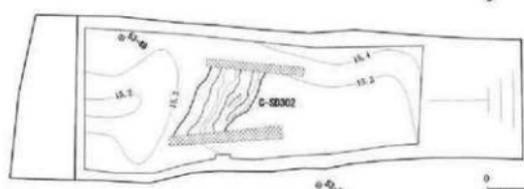
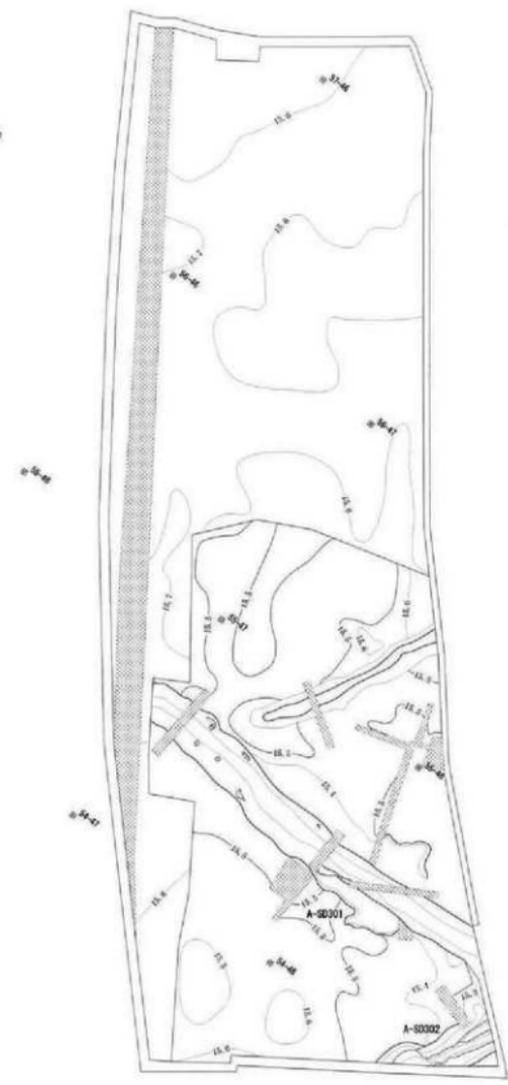


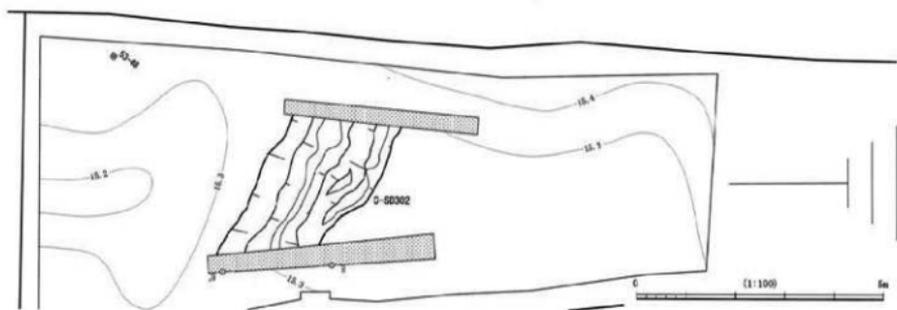
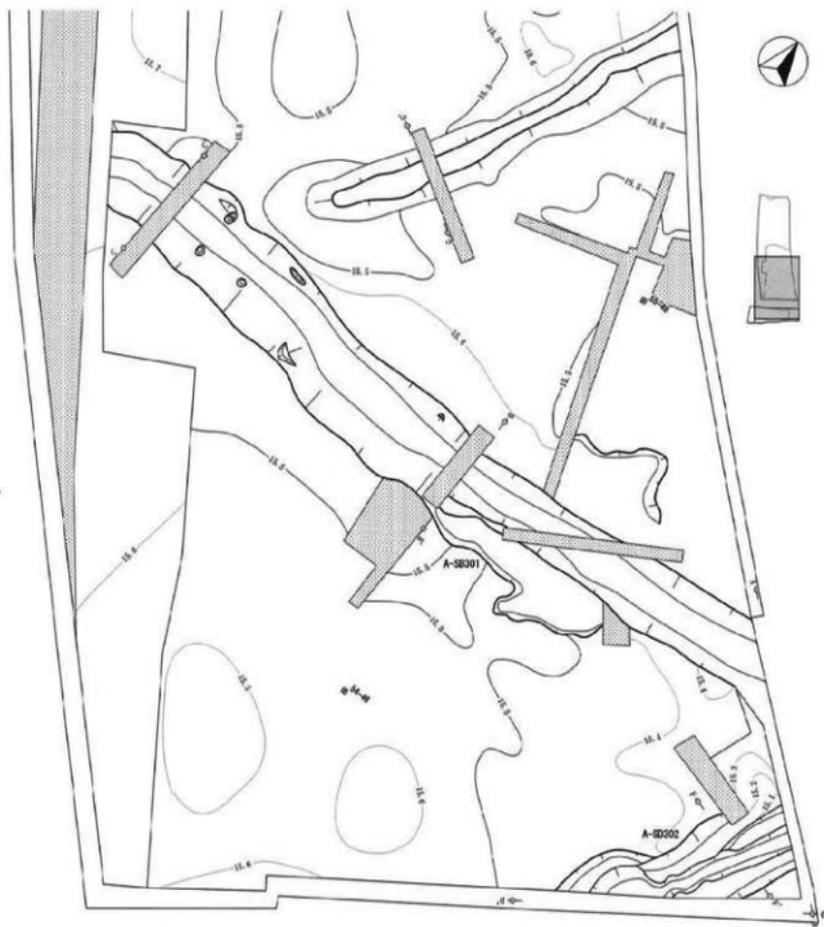
- 2.515/1 黄灰色粘土。
- 2.515/2 暗灰黄色粘土。
- 2.516/3 に近い黄灰色粘土。
- 2.515/1 暗灰黄色粘土。
- 2.515/1 黄灰色粘土。黒褐色粘土混じる。
- 10986/1 灰黄色粘土。黒褐色粘土混じる。

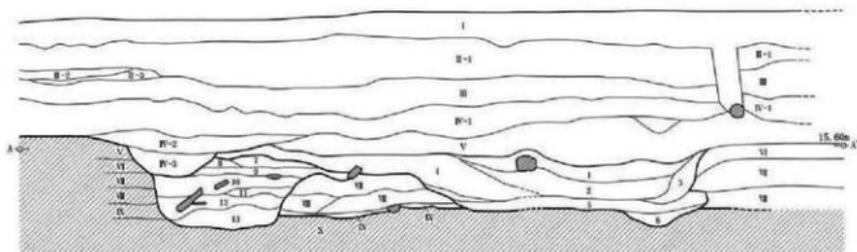
A-SD67



- 2.514/1 黄灰色粘土。炭化物・洗黄色粘土混じる。





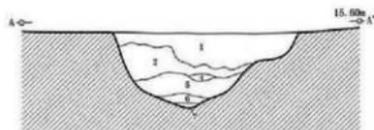


(A-A'002)

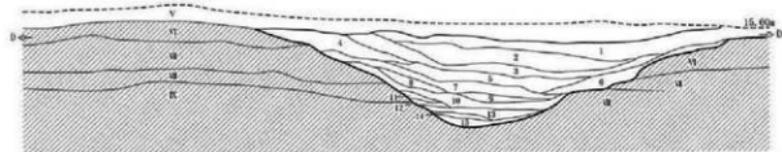
- 1 5G74/1 暗オリーブ灰色礫混じり砂。
- 2 7.5G75/1 緑灰色シルト。木片多量に混じる。
- 3 10G74/1 暗緑灰色砂混じりシルト。植物遺体少量混じる。
- 4 10G74/1 暗緑灰色シルト。
- 5 10G74/1 暗緑灰色砂混じりシルト。灰黄褐色粘土・木片多く混じる。
- 6 5G74/1 暗オリーブ灰色礫混じり砂。

(A-A'001)

- 7 2.5T8/4 黄褐色シルト混じり砂。
- 8 7.5G75/1 緑灰色砂混じりシルト。
- 9 2.5T8/4 黄褐色礫混じり砂。
- 10 5G75/1 オリーブ灰色シルト混じり砂。木片・植物遺体・炭灰混じる。
- 11 2.5G74/1 暗オリーブ灰色礫混じり砂。
- 12 5G74/1 暗オリーブ灰色礫混じり砂。木片・炭化物少量混じる。
- 13 雑土体層。一部で下位に泥岩層が薄く入る。

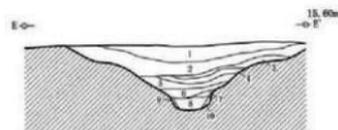


- 1 5G75/1 オリーブ灰色シルト。炭化物極少量混じる。
- 2 5G75/1 オリーブ灰色シルト混じり砂。炭化物少量混じる。
- 3 2.5G75/1 オリーブ灰色砂混じりシルト。
- 4 2.5G75/1 オリーブ灰色砂混じりシルト。
- 5 7.5G75/1 緑灰色シルト。水質遺体少量混じる。
- 6 7.5G75/1 緑灰色粘質シルト。褐色粘土混じる。
- 7 2.5G75/1 オリーブ灰色礫混じり砂。



- 1 10G5/1 緑灰色シルト。
- 2 2.5G75/1 オリーブ灰色シルト。灰色粘質シルト混じる。
- 3 5G74/1 暗オリーブ灰色砂混じりシルト。
- 4 5G75/1 オリーブ灰色シルト。灰色粘土粘状に混じる。
- 5 10T5/1 灰色シルト。灰オリーブ色粘土混じる。
- 6 5層と同質で、灰オリーブ粘土が多い。
- 7 5G74/1 暗オリーブ灰色砂質シルト。灰オリーブ粘土少量混じる。

- 8 7層と同質で、粘土少ない。
- 9 7.5G74/1 暗緑灰色シルト。葉状の植物遺体多く混じる。
- 10 9層と同質で、植物遺体がさらに多い。
- 11 5G74/1 暗オリーブ灰色砂質シルト。植物遺体少量混じる。
- 12 腐植物主体層。暗オリーブ灰色シルト混じる。
- 13 12層と同質。シルトやや多い。
- 14 7.5G74/1 暗緑灰色シルト。
- 15 5T5/1 灰色粘土。しまり細かい。



(E-E'001)

- 1 10T5/2 オリーブ灰色砂混じり粘土。赤灰色粘土が粘状に混じる。
- 2 7.5T5/1 暗緑灰色シルト。葉状の植物遺体多く混じる。オリーブ灰色砂ままだらに混じる。
- 3 10T5/2 オリーブ灰色砂。炭化物や褐色灰色粘土が粘状に少量混じる。
- 4 10T5/2 オリーブ灰色砂。混入物はほとんど無し。わずかに粘土の塊状物粘土が混じる。

(E-E'002)

- 5 10T5/2 オリーブ灰色砂。腐植物を含む褐色粘土やや多く混じる。
- 6 10T5/2 オリーブ灰色砂。褐色粘土・炭化物やや多く混じる。8層に比べやや強い。
- 7 5T4/2 灰オリーブ色粘土。炭化物少量混じる。しまりやや強い。
- 8 6層とほぼ同質で、砂がやや多い。
- 9 7.5T5/1 灰色粘土。炭化物ごくわずかに混じる。
- 10 10T5/1 オリーブ灰色砂粘質。



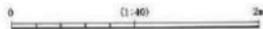
(F-F'001)

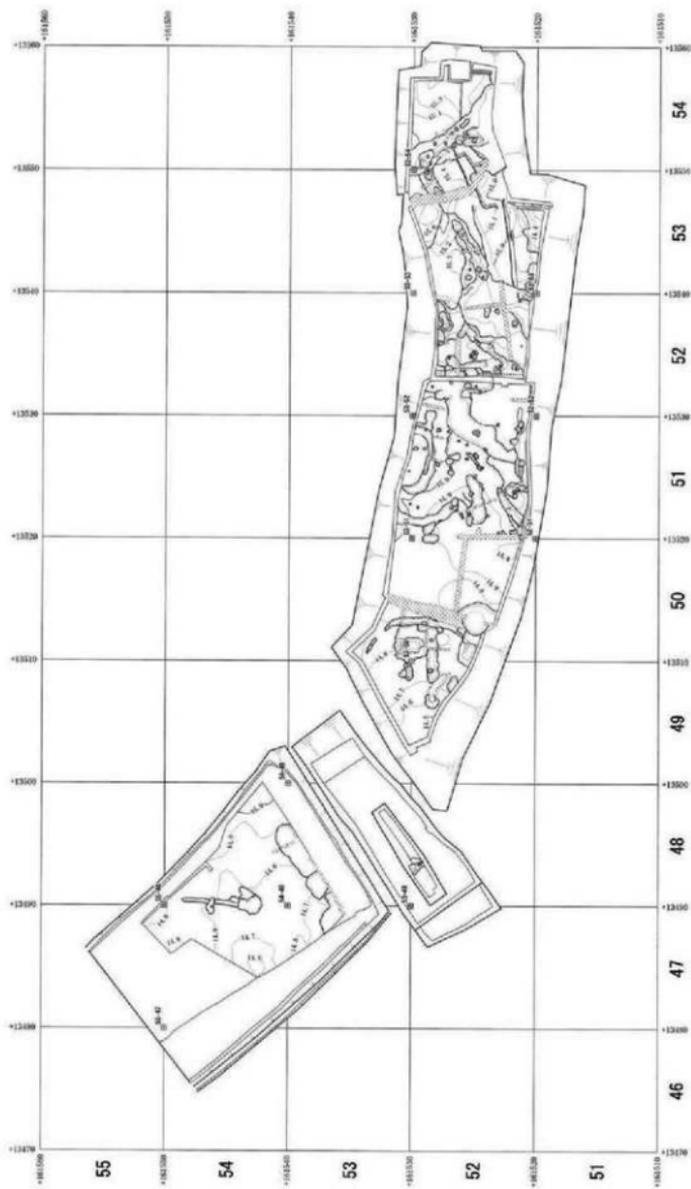
- 1 2.5T5/2 灰オリーブ色砂質シルト。
- 2 7.5T5/2 灰オリーブ色砂混じり粘質シルト。
- 3 5G75/1 オリーブ灰色やや粘質シルト。
- 4 10T4/1 灰色粘質シルト。

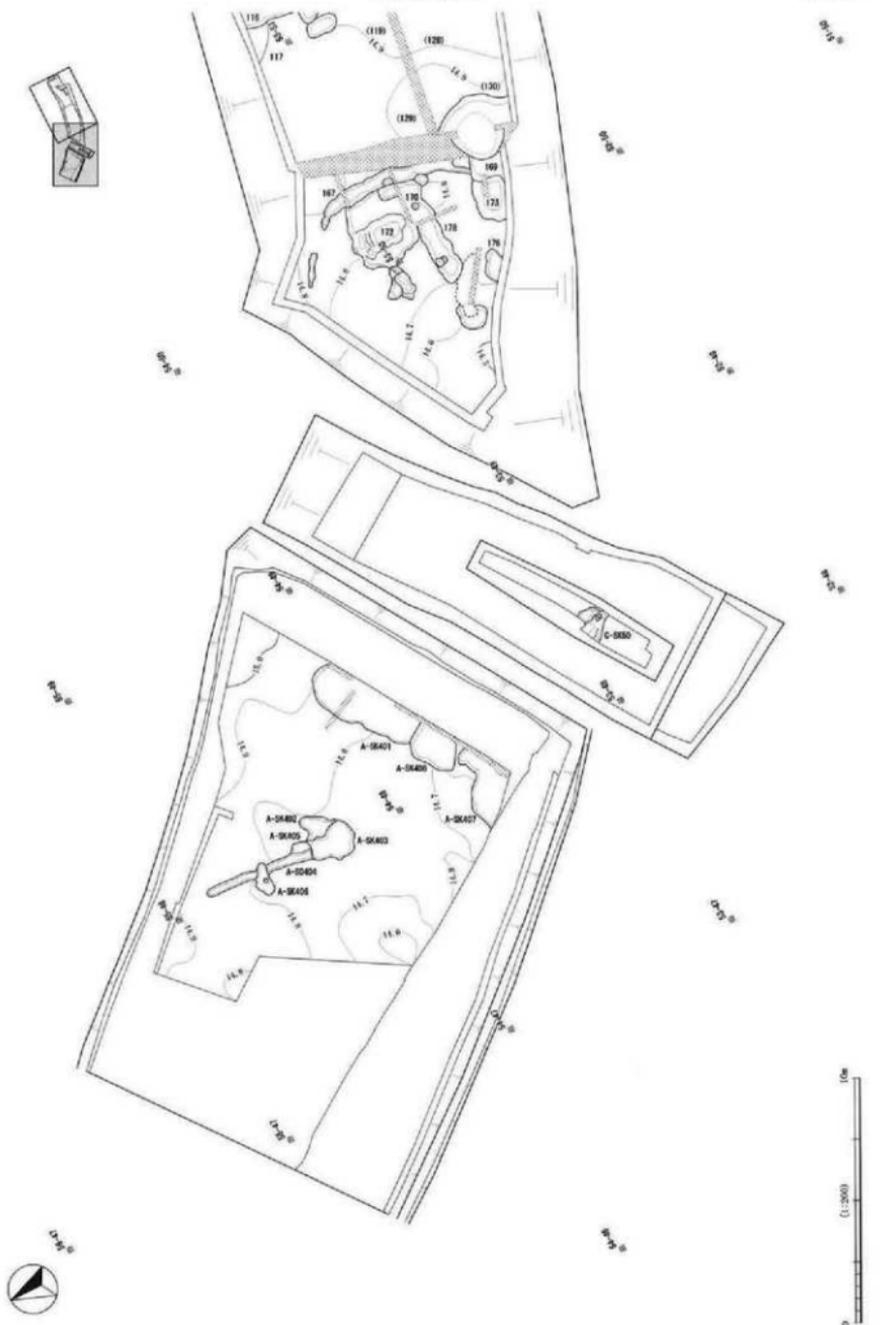


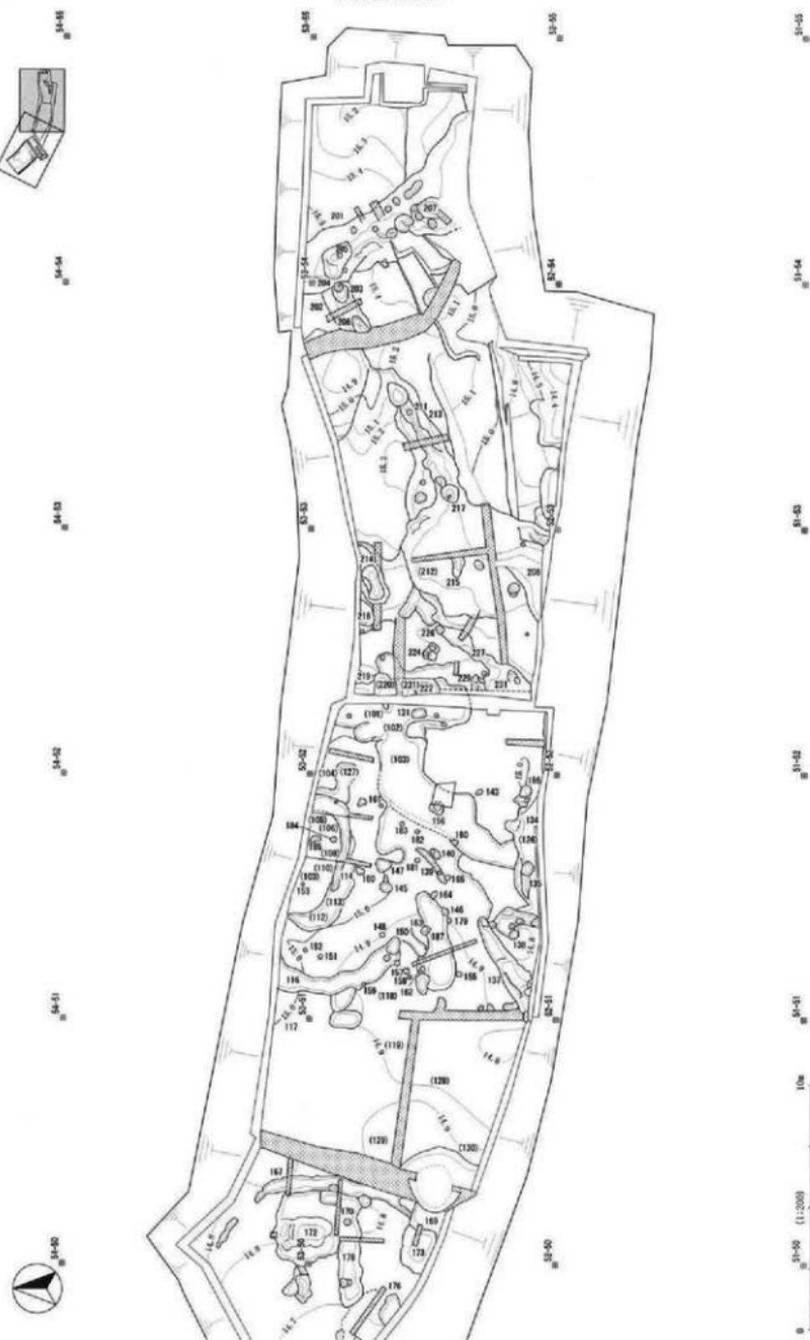
(G-G'001)

- 1 2.5T5/2 灰オリーブ色砂質シルト。
- 2 7.5T5/2 灰オリーブ色砂混じり粘質シルト。
- 3 5G75/1 オリーブ灰色やや粘質シルト。
- 4 10T4/1 灰色粘質シルト。

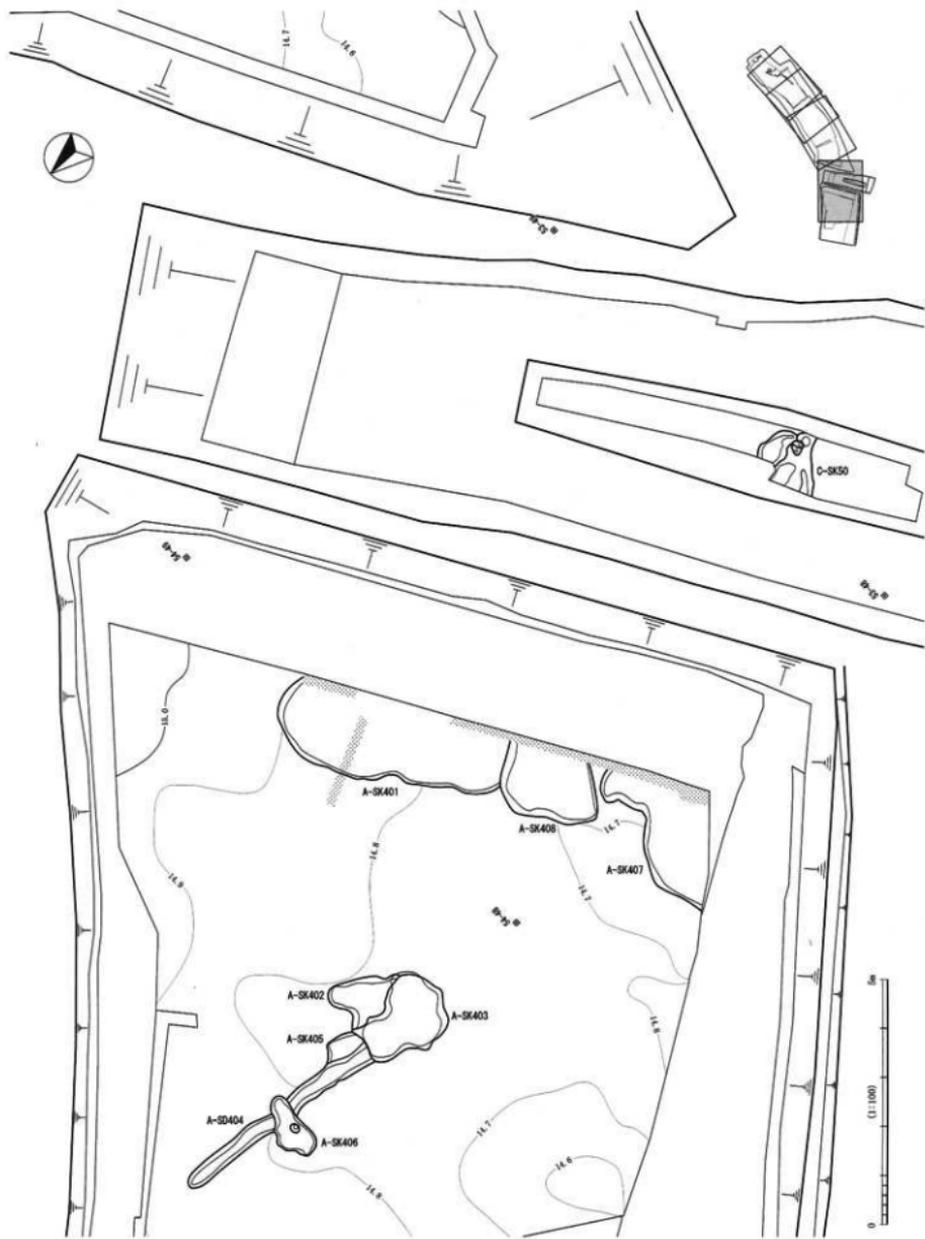


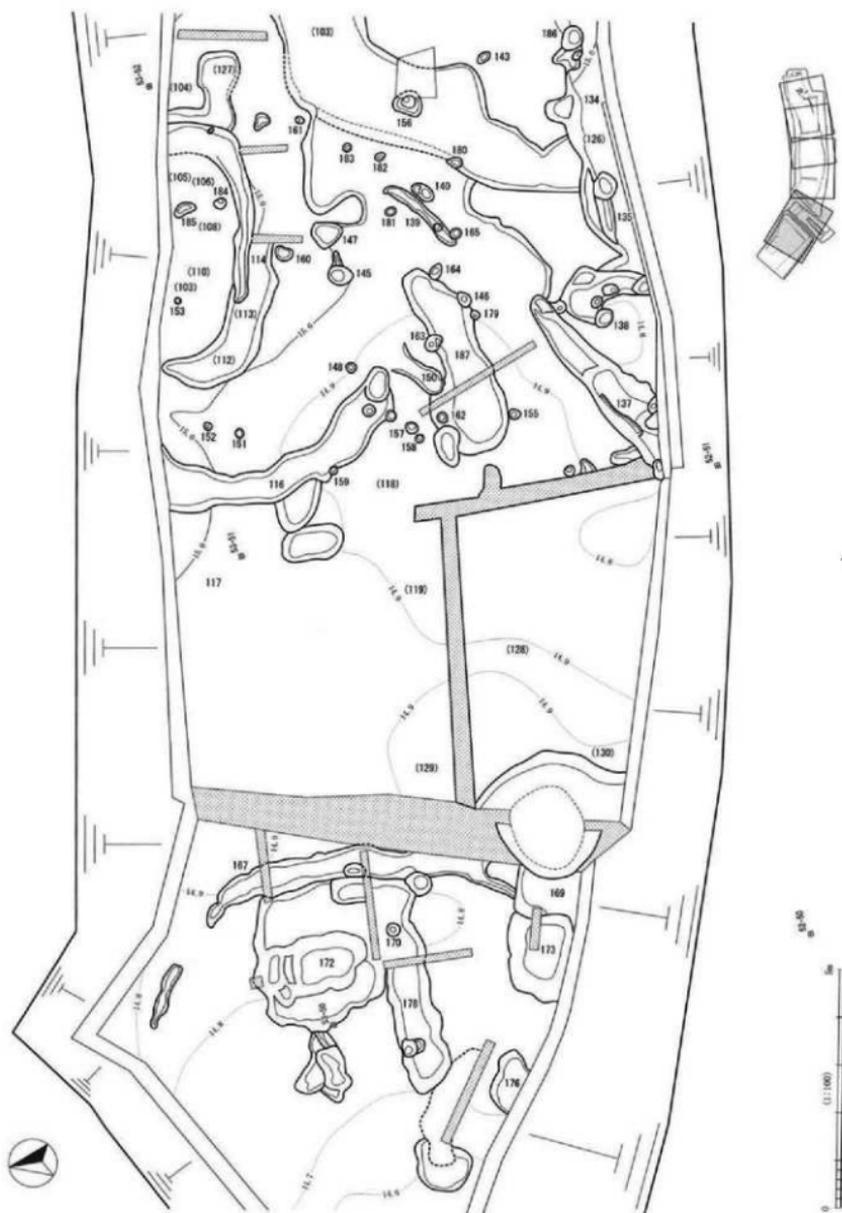


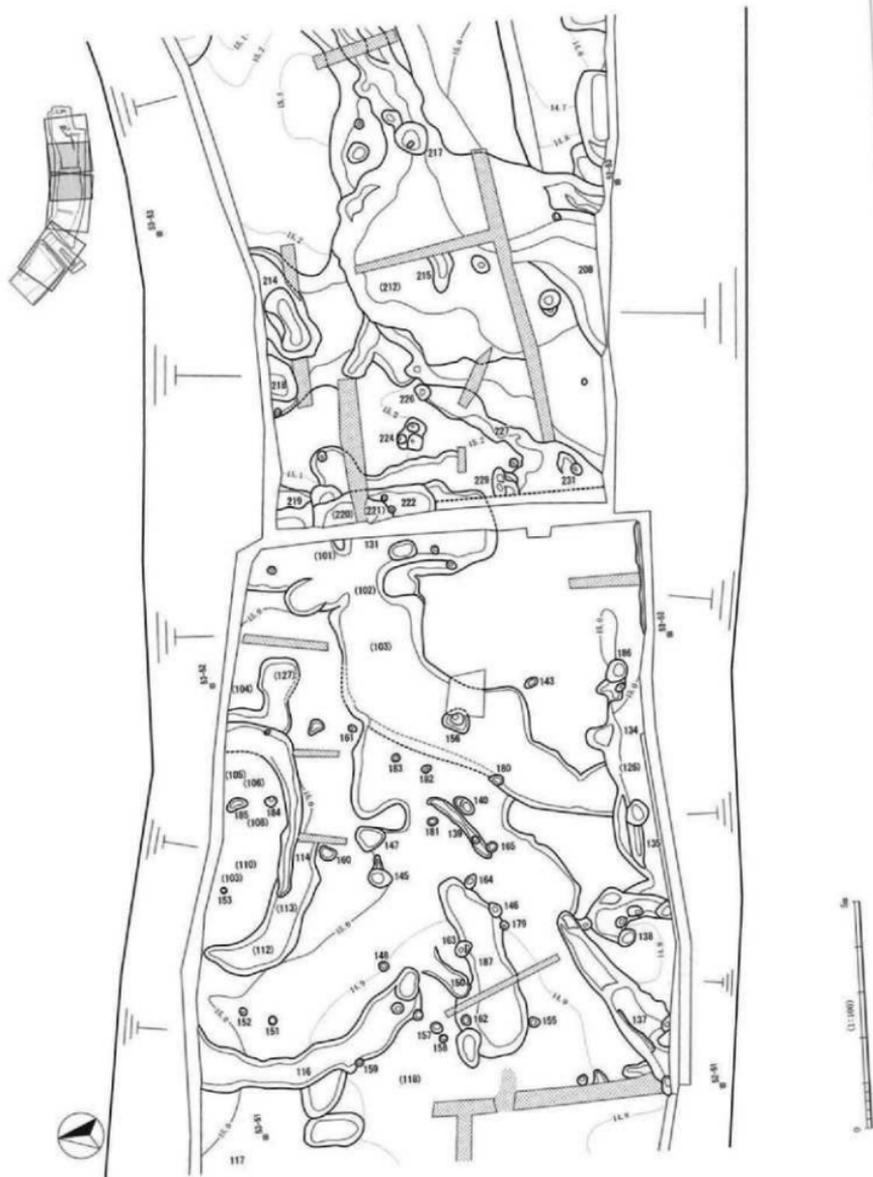




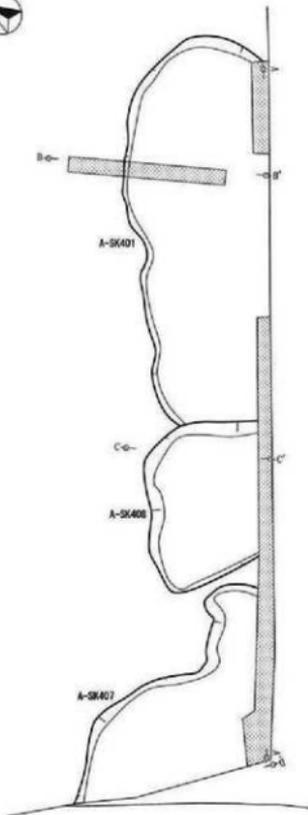
0 10m  
31-45 (1:200)











A-SK401



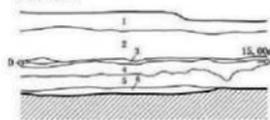
- 1 10Y4/1 灰色粘土。炭化物少量・黒色粘土粒少量混じる。

A-SK408



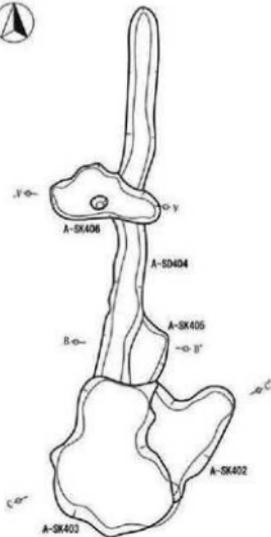
- 1 10Y5/1 灰色粘土。炭化物粒少量・黒色粘土少量混じる。
- 2 10Y3/1 灰色粘土。炭化物粒少量混じる。
- 3 10Y2/1 灰色粘土。黒色粘土多く混じる。
- 4 7.5Y4/1 灰色粘土。黒色粘土・炭化物多量に混じる。

A-SK407



- 1 7.0G15/1 緑灰色砂質シルト。
- 2 6G15/1 オリーブ灰色砂質シルト。
- 3 8Y4/1 灰色粘土。炭化物多く混じる。
- 4 7.5Y3/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 5 2.0G15/1 オリーブ灰色粘土。炭化物少量・高機物少量混じる。

- (A-SK407)
- 6 6G15/1 オリーブ灰色粘土。



A-SD404・SK406



- 1 10Y5/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 2 5Y5/1 灰色粘土。微小炭化物混じる。

A-SD404・SK405

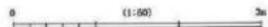


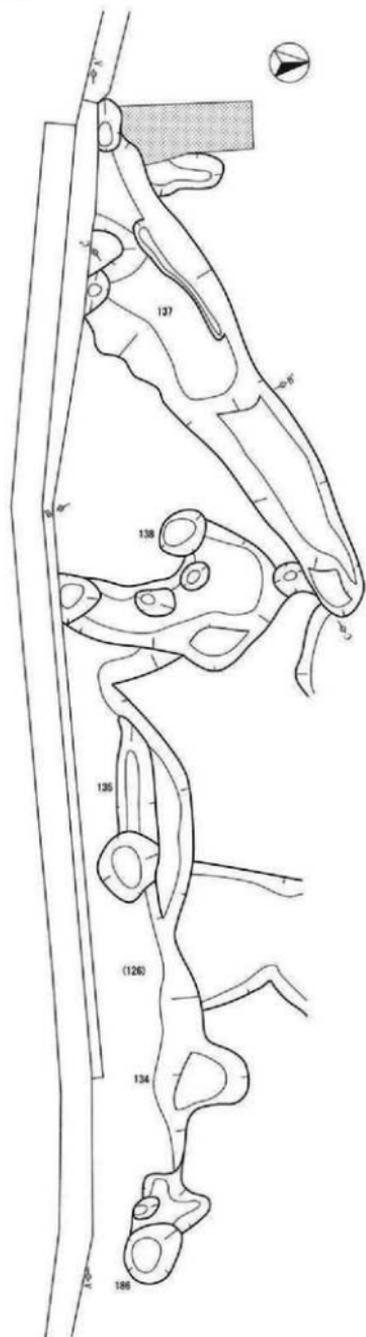
- (A-SD404)
- 1 5Y5/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。
- (A-SK405)
- 2 2.5Y5/1 黄灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 3 2.5Y6/2 灰黄色粘土。
- 4 5Y6/1 灰色粘土。

A-SK403



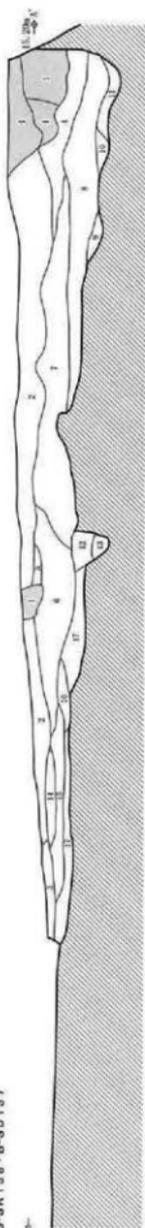
- (A-SK403)
- 1 10Y5/1 灰色粘土。炭化物少量。暗灰色粘土粒多く混じる。
- 2 2.5G75/1 オリーブ灰色粘土。炭化物やや多く。暗灰色粘土少量混じる。
- 3 10Y4/1 灰色粘土。炭化物やや多く。黒色粘土粒やや多く混じる。
- 4 10Y4/1 灰色粘土。黒色粘土粒少量混じる。
- 5 10Y4/1 灰色粘土。黒色粘土粒少量混じる。
- 6 7.5Y4/1 灰色粘土。黒色粘土粒多く混じる。
- (A-SK402)
- 7 10Y6/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。





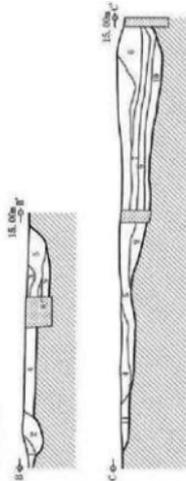
B-SK138・B-SO137

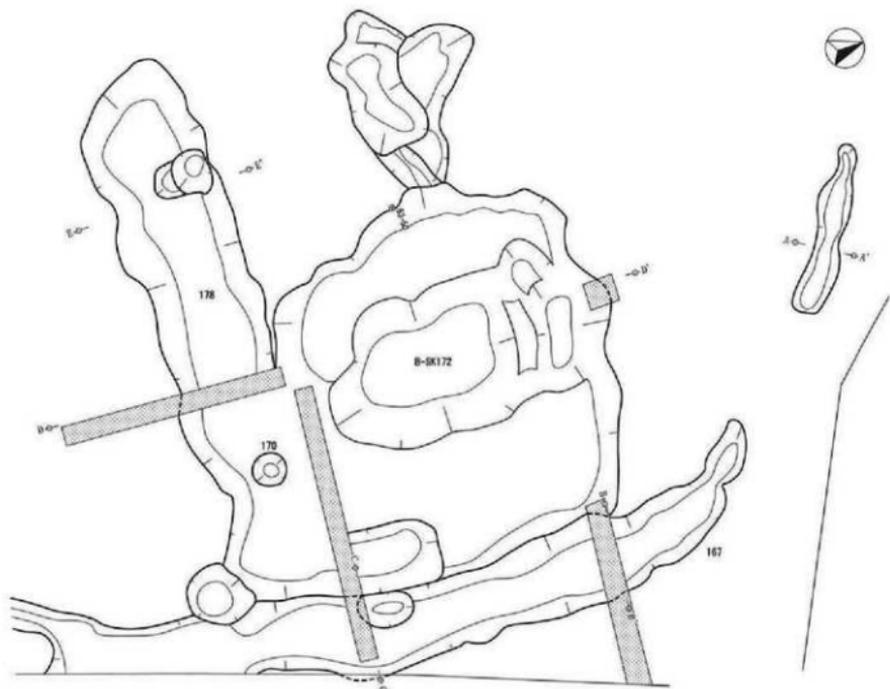
A-C



- 1 2.5W/1 灰色砂質土層上、褐色シルト層となる。  
 2 2.5S/1 灰色シルト層に9割上、褐色砂層となる。  
 3 3S/1 灰色砂土、褐色砂層となる。  
 4 2.5W/1 灰色砂土、褐色砂層となる。  
 5 180W/1 褐色シルト層、褐色砂層となる。  
 6 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 7 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 8 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 9 180S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 10 180S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 11 180S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 12 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 13 3S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 14 3S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 15 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 16 2.5S/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。  
 17 2.5W/1 褐色砂層上、褐色砂層となる。

B-SO137





B-SD167



- 1 2.5G15/1 灰青色粘土。暗オリーブ灰色砂・炭化物少量混じる。

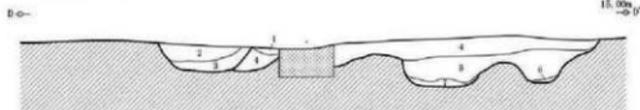


- 1 1015/1 灰色砂混じり粘土。緑灰色シルト層少量混じる。
- 2 10616/1 緑灰色砂。オリーブ灰色粘土少量混じる。
- 3 10035/1 緑灰色粘土混じり砂。
- 4 10035/1 緑灰色粘土。



- 1 1015/1 灰色粘土。オリーブ灰色砂層少量混じる。
- 2 2.5G15/1 オリーブ粘土混じり灰色砂。緑灰色シルト層混じる。
- 3 2.5G15/1 緑灰色粘土。炭化物少量混じる。

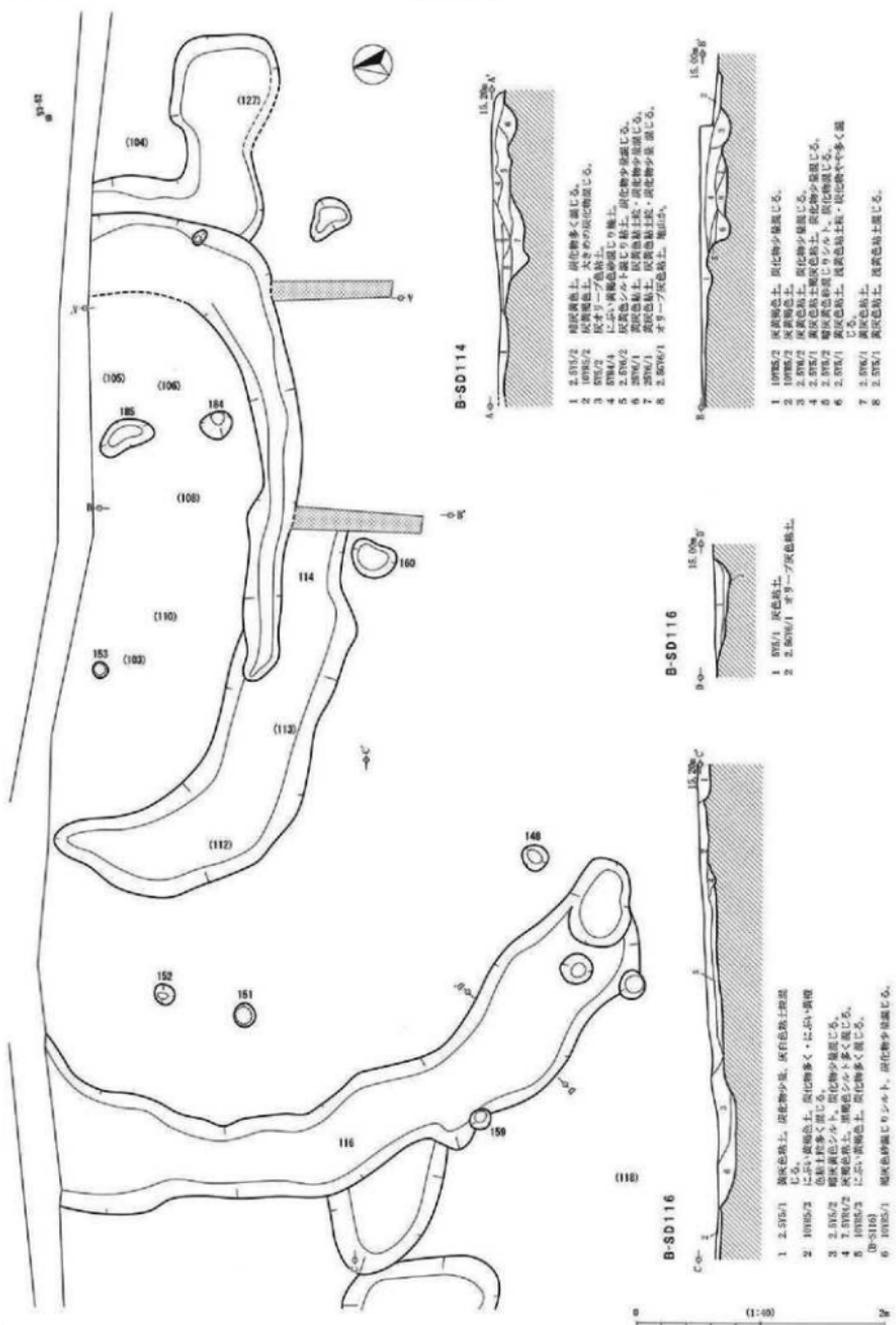
B-SK172



- D-a'・E-E'
- 1 5Y3/2 灰オリーブ色粘土。炭化物少量混じる。(B-SD178)
  - 2 5G16/1 オリーブ灰色粘土。炭化物少量混じる。
  - 3 7.5G16/1 緑灰色粘土。腐植物状の炭化物少量混じる。(B-SK173)
  - 4 7.5G16/1 緑灰色粘土。炭化物が一部に混って混じる。
  - 5 5G15/1 オリーブ灰色粘土。炭化物少量混じる。
  - 6 7.5G15/1 緑灰色粘土。微小な腐植物少量混じる。
  - 7 7.5G15/1 緑灰色粘土。腐植物ごく少ない。

B-SD178





B-SD 114

- 1 2.5Y/2 相状黄土。炭化物多く混じる。
- 2 10R5/2 灰黄色土。大きな炭化物混じる。
- 3 3R5/1 灰色土。土中に炭化物混じり難し。
- 4 3R5/1 灰色土。土中に炭化物混じり難し。
- 5 2.5Y/2 灰黄色土。炭化物少し混じり難し。炭化物少し混じる。
- 6 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 7 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 8 2.5R5/1 赤黄色土。細粒。土中に炭化物少し混じる。

B-SD 116

- 1 10R5/2 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 2 10R5/2 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 3 2.5Y/2 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 4 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。炭化物少し混じる。
- 5 2.5Y/2 相状黄土。炭化物少し混じる。炭化物少し混じる。
- 6 2.5Y/1 相状黄土。炭化物少し混じる。炭化物少し混じる。
- 7 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。
- 8 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。

B-SD 116

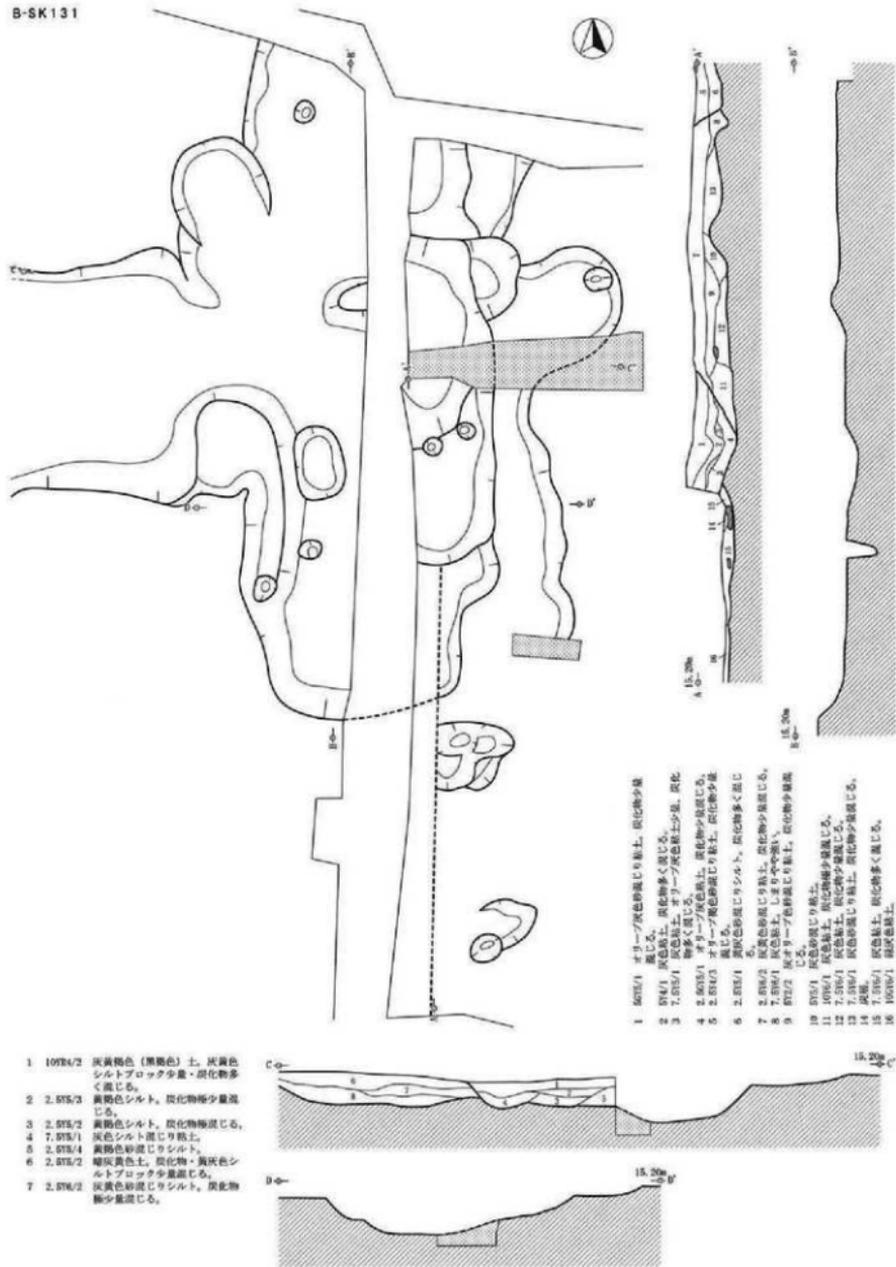
- 1 3R5/1 灰色土。
- 2 2.5R5/1 赤黄色土。

B-SD 116

- 1 2.5Y/1 灰黄色土。炭化物少し混じる。炭化物少し混じる。
- 2 10R5/2 灰黄色土。炭化物多く、土中に炭化物混じり難し。
- 3 2.5Y/2 相状黄土。炭化物少し混じる。
- 4 2.5Y/2 相状黄土。炭化物少し混じる。
- 5 10R5/2 灰色土。土中に炭化物混じり難し。
- 6 10R5/1 相状黄土。炭化物少し混じる。
- 7 10R5/1 相状黄土。炭化物少し混じる。

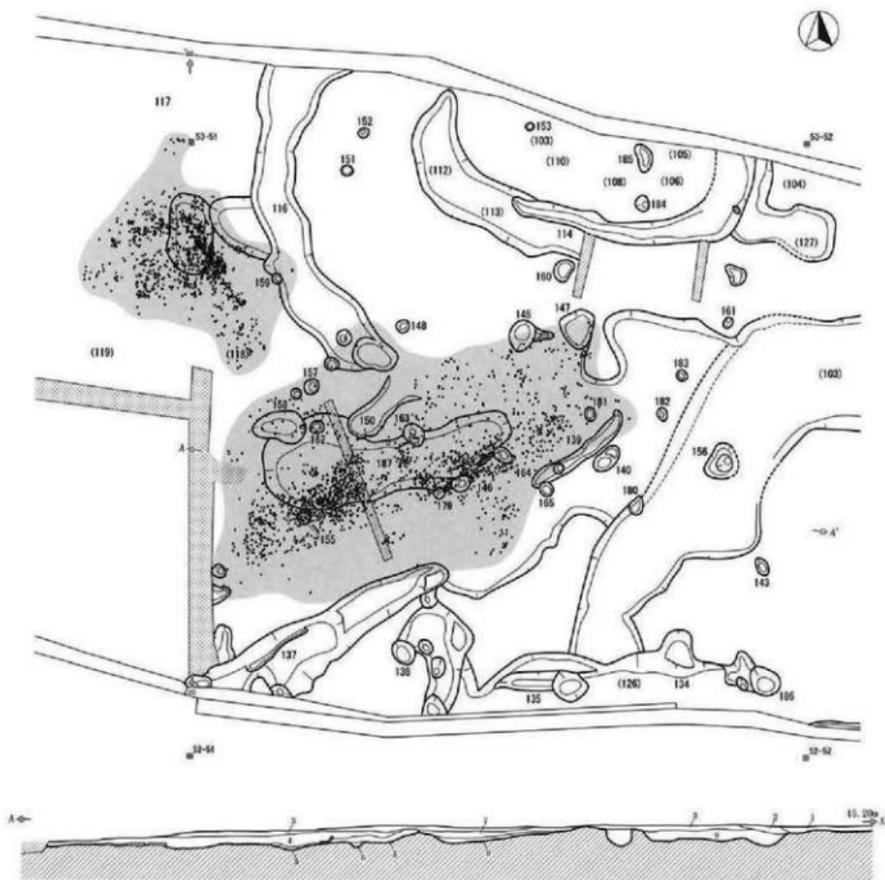
0 (1:100) 15.20m

B-SK131



- 1 107R/1 オリーブ灰色砂混じり粘土。炭化物少量混じる。
- 2 57R/1 灰色粘土。炭化物多く混じる。
- 3 7.57S/1 灰色粘土。オリーブ灰色粘土少量混じる。
- 4 2.57S/1 オリーブ灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 5 2.57R/3 オリーブ褐色砂混じり粘土。炭化物少量混じる。
- 6 2.57S/1 暗灰色砂混じりシルト。炭化物多く混じる。
- 7 2.57S/2 灰黄色砂混じりシルト。炭化物少量混じる。
- 8 7.57S/1 灰色粘土。しまりややみり。
- 9 2.57S/2 灰オリーブ暗砂混じり粘土。炭化物少量混じる。
- 10 57S/1 灰色砂混じり粘土。
- 11 107R/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 12 7.57S/1 灰色粘土。炭化物少量混じる。
- 13 107R/1 灰色砂混じり粘土。炭化物少量混じる。
- 14 7.57S/1 灰色粘土。炭化物多く混じる。
- 15 107R/1 暗灰色粘土。
- 16 107R/1 暗灰色粘土。

0 1:100



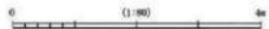
- 1 2.515/3 黄褐色シルト混じり粘土。炭化物や多く混じる。
- 2 2.515/2 暗灰黄色粘土。炭化物多く混じる。
- 3 10YR4/3 にごり黄褐色土。にごり・褐色シルトブロック・炭化物多く混じる。
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト混じり土。炭化物多く混じる。

- 5 10YR5/1 褐色粘土。灰黄色粘土粒・炭化物混じる。
- 6 2.515/1 灰色粘土。灰黄色粘土粒・炭化物少量混じる。
- 7 2.515/2 暗灰黄色粘土混じりシルト。炭化物少量混じる。
- 8 5Y5/1 灰白色土。炭化物や多く混じる。
- 9 5Y6/1 灰白色混じりや粘質シルト。炭化物少量混じる。

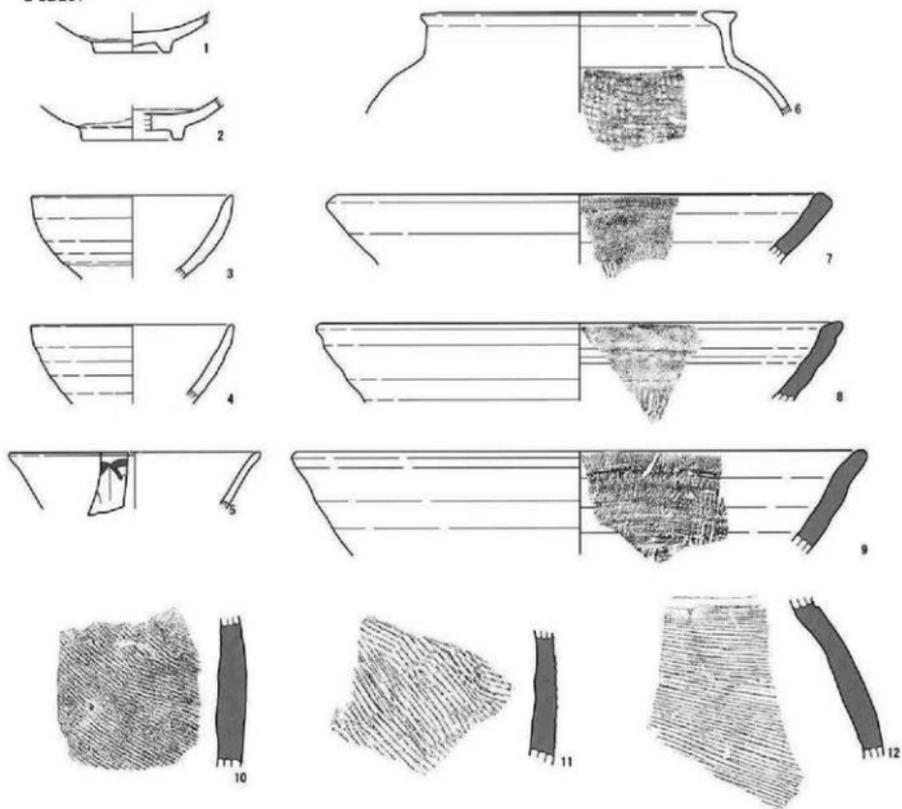


- 1 10Y6/2 灰黄褐色粘土。炭化物ごく少量混じる。
- 2 2.5Y6/2 灰黄色粘土。炭化物少量混じる。
- 3 2.5Y6/2 灰黄色粘土。炭化物少量混じる。
- 4 2.015/3 黄褐色シルト混じり土。炭化物少量混じる。
- 5 7.5YR4/2 灰褐色砂。炭化物少量混じる。

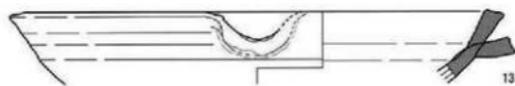
- 6 7.5YR4/2 灰褐色砂。炭化物少量混じる。
- 7 2.5Y6/1 黄褐色粘土。炭化物混じる。
- 8 10YR5/1 灰白色粘土。炭化物混じる。
- 9 10YR6/1 灰白色粘土。炭化物混じる。
- 10 10YR5/1 灰白色粘土。炭化物混じる。



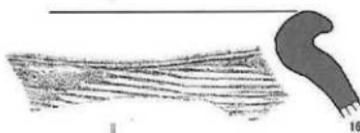
B-SD201



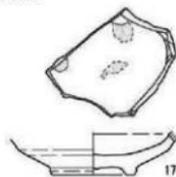
B-SE205



B-SE207

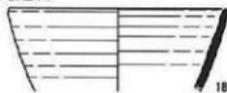


B-SE2



0 (1:3) 15cm

B-SK214



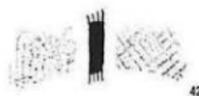
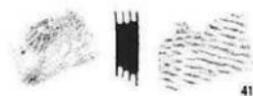
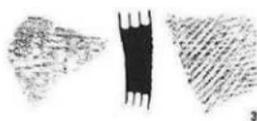
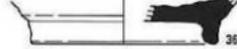
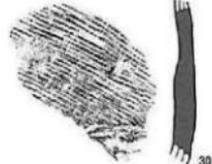
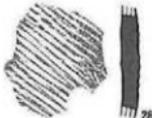
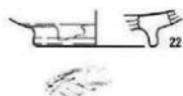
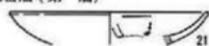
B-SK208

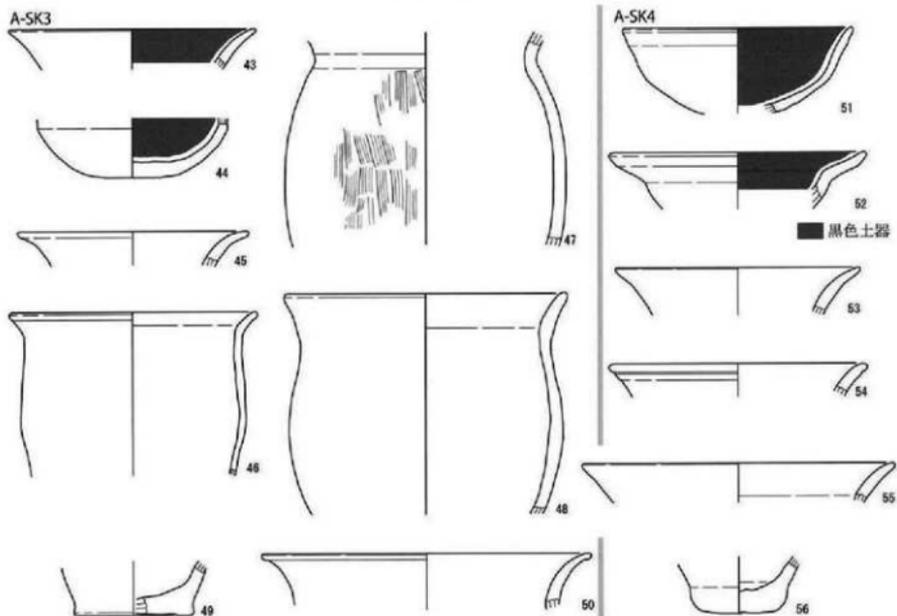


B-SP226

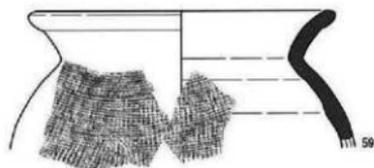


包含層(第層)

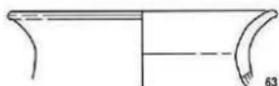
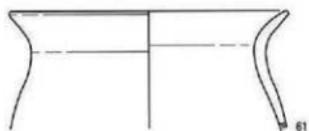
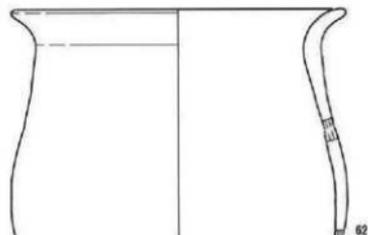
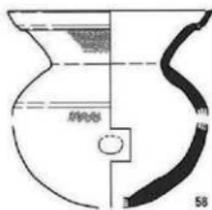




A-SK33

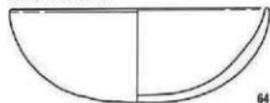


包含層

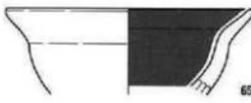


0 (1:3) 15cm

VII层土器集中区



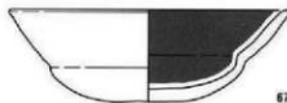
64



65



66



67



68



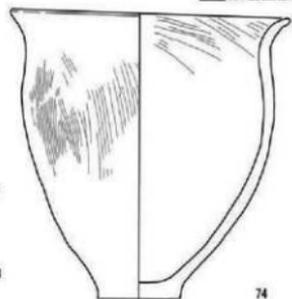
69



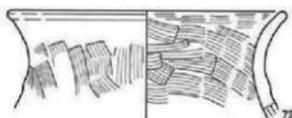
70



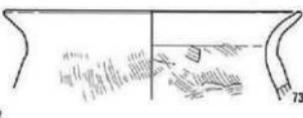
71



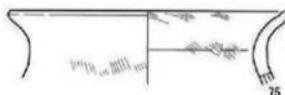
74



72



73



75



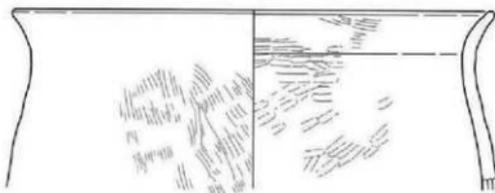
76



79



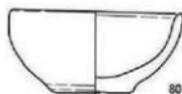
77



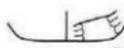
78



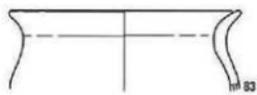
82



80



81

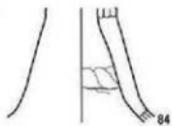


83

0 (1:3) 15cm

■ 黑色土器

A-SD302

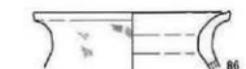


94

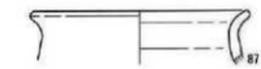
A-SD301



95



96



97



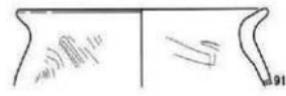
98



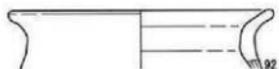
99



90



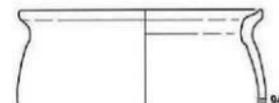
91



92



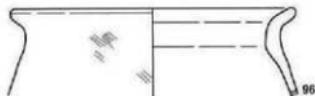
93



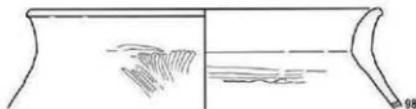
94



95



96



98

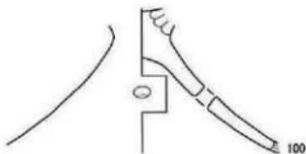


97

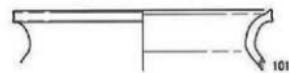


99

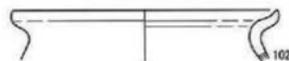
A-SK402



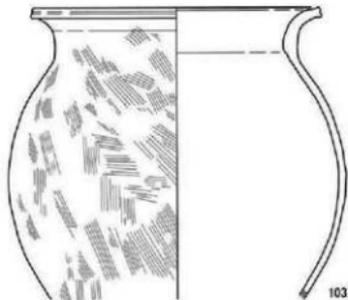
100



101

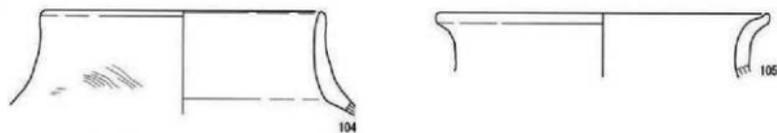


102

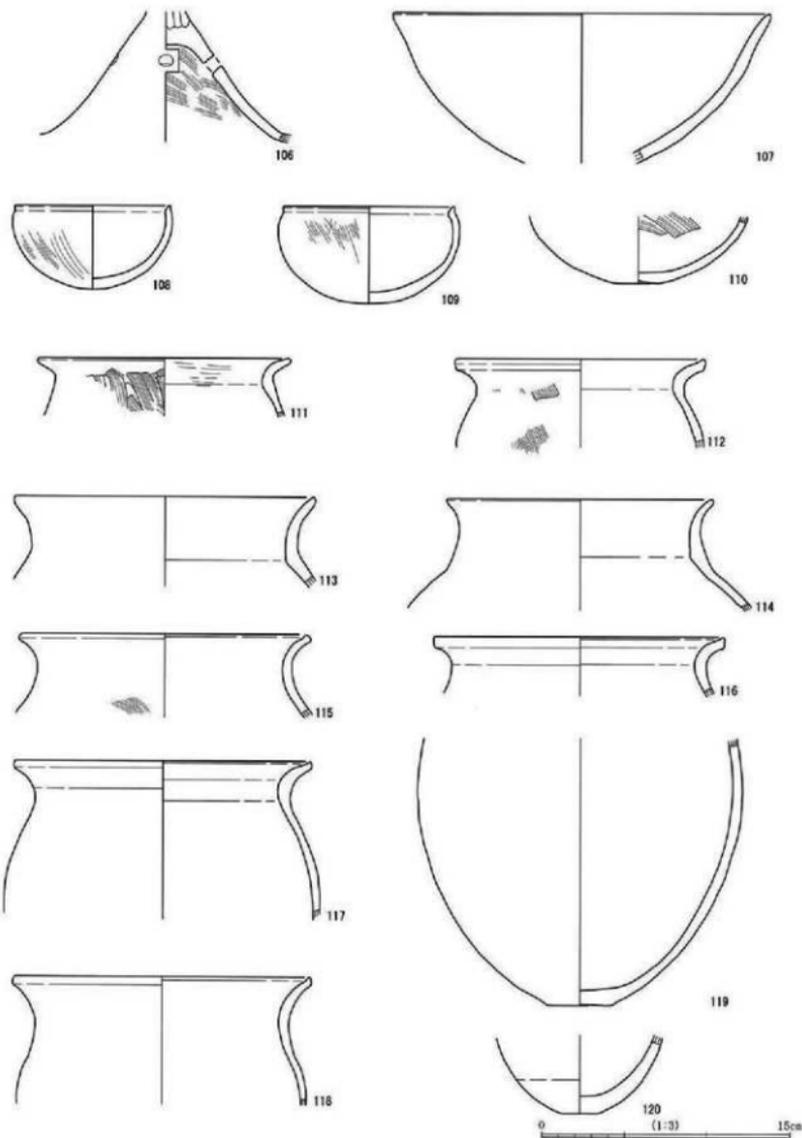


103

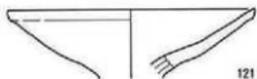
A-SK401



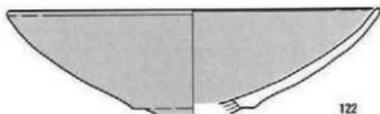
B-SX128



B-SK131



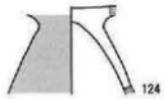
121



122



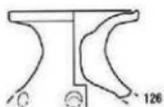
123



124



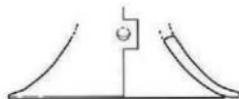
125



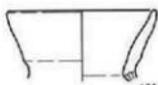
126



127



128



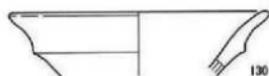
129



131



133



130



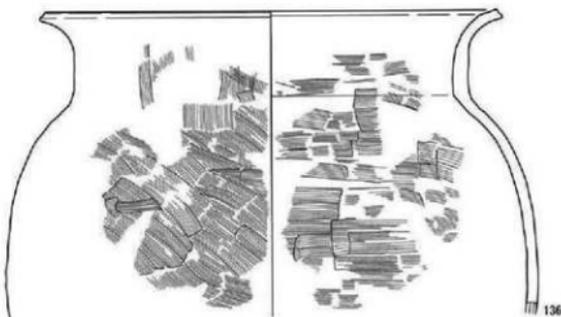
132



134

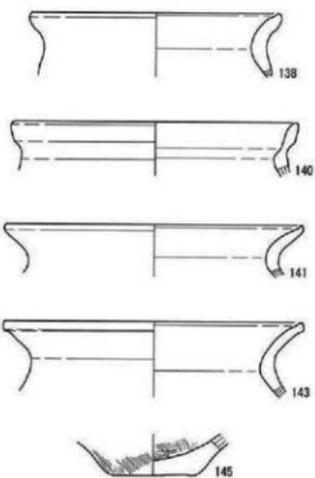
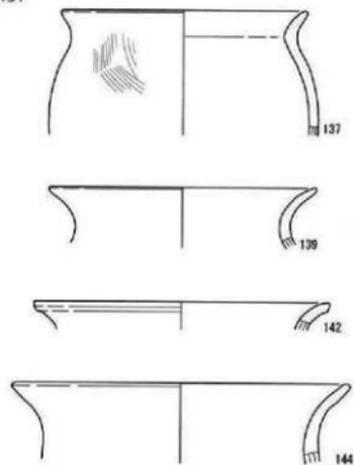


135

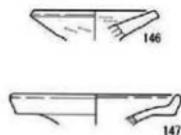


136

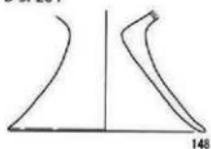
B-SK131



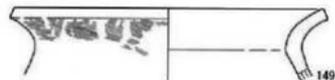
B-SK167



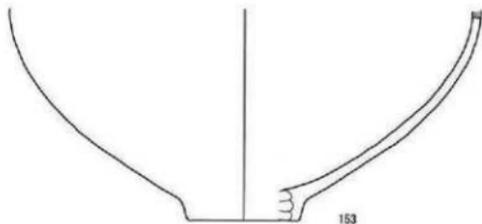
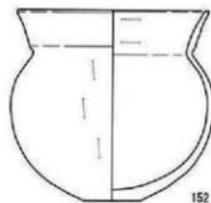
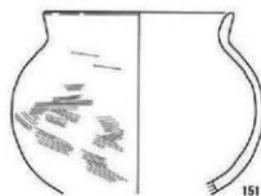
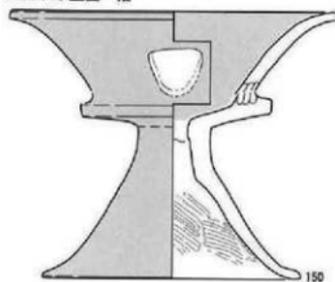
B-SP204



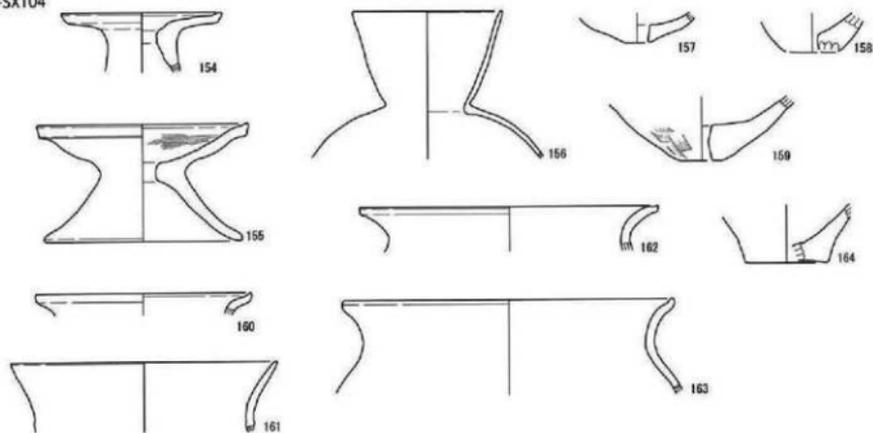
B-SP161



B-SD116 上面一括



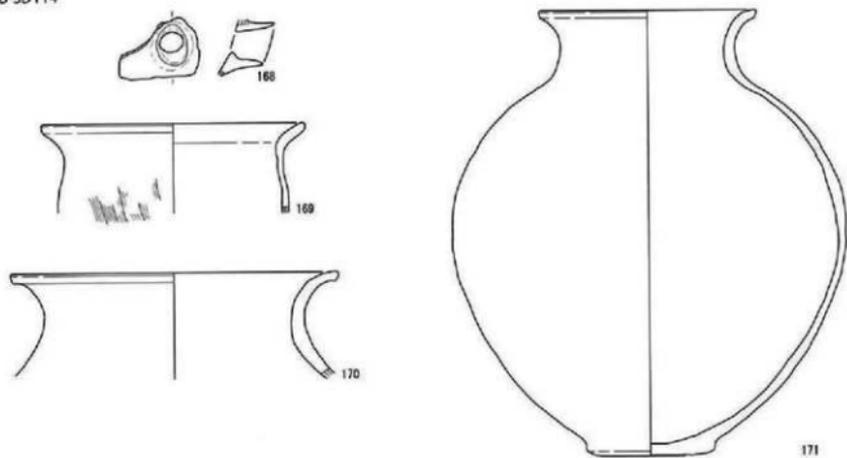
B-SX104



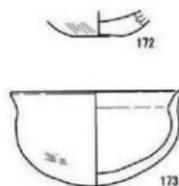
B-SX104 上位一括



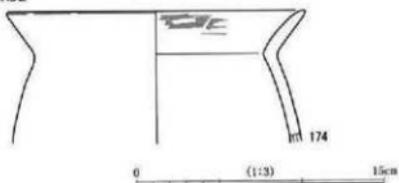
B-SD114



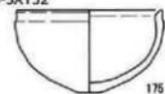
B-SD202



B-SK52



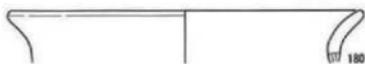
B-SX132



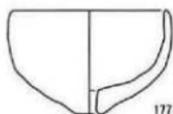
175



176



180



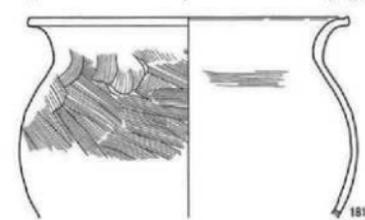
177



178



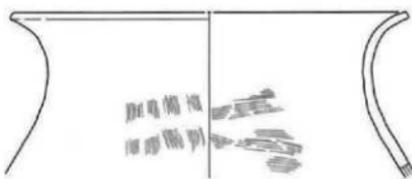
179



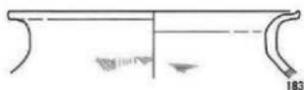
181



182



186



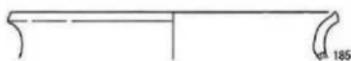
183



184



187

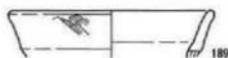


185

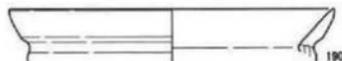


188

B-SP231



189



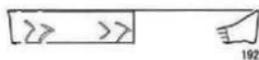
190

B-SD137



191

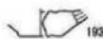
B-SK138



192



195



193



194



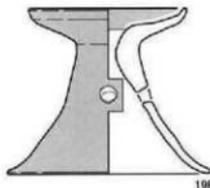
196

0 (1:3) 15cm

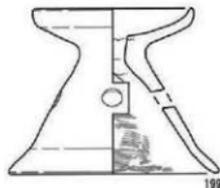
B-SX118



197



198



199

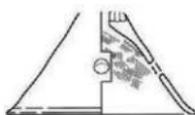
■ 赤彩



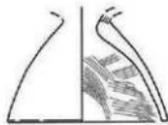
200



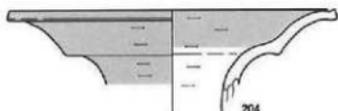
201



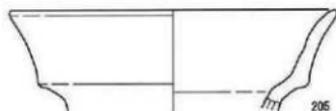
202



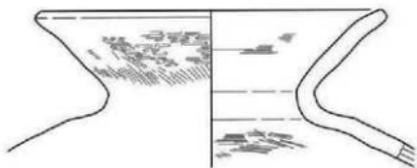
203



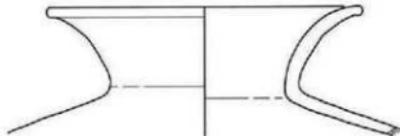
204



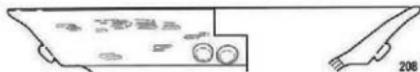
205



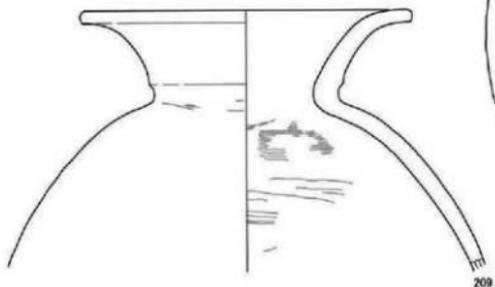
206



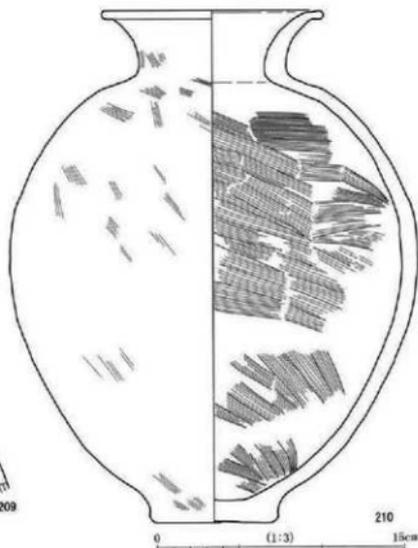
207



208



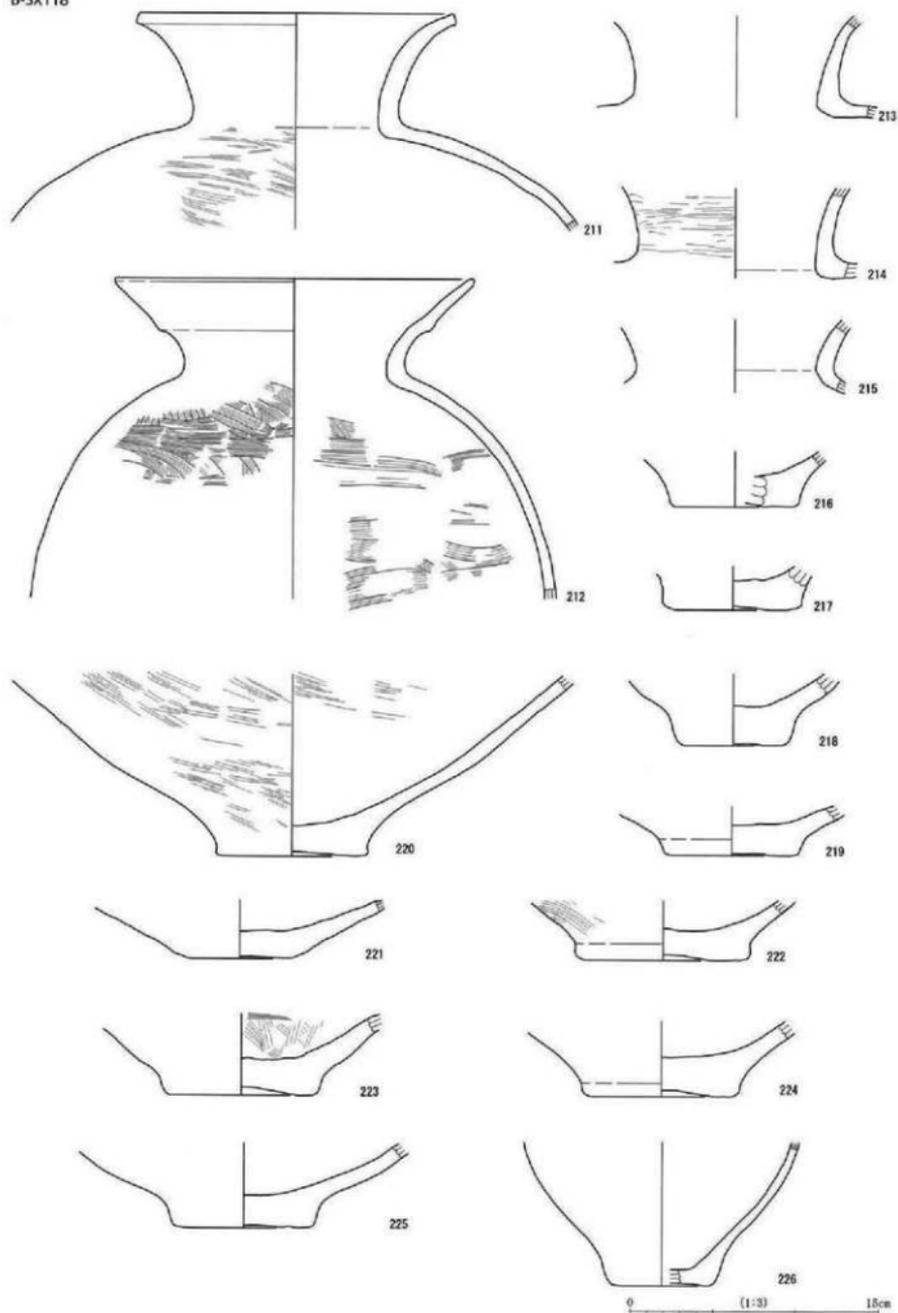
209



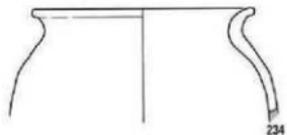
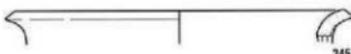
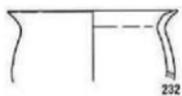
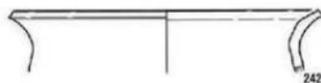
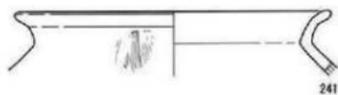
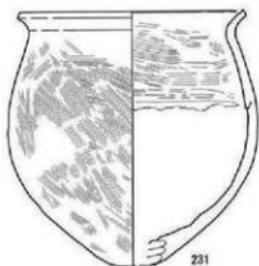
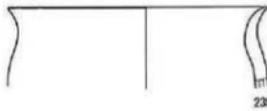
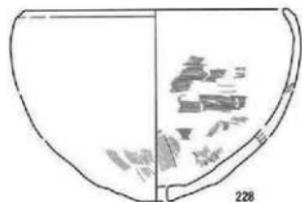
210

0 (1:3) 15cm

B-SX118

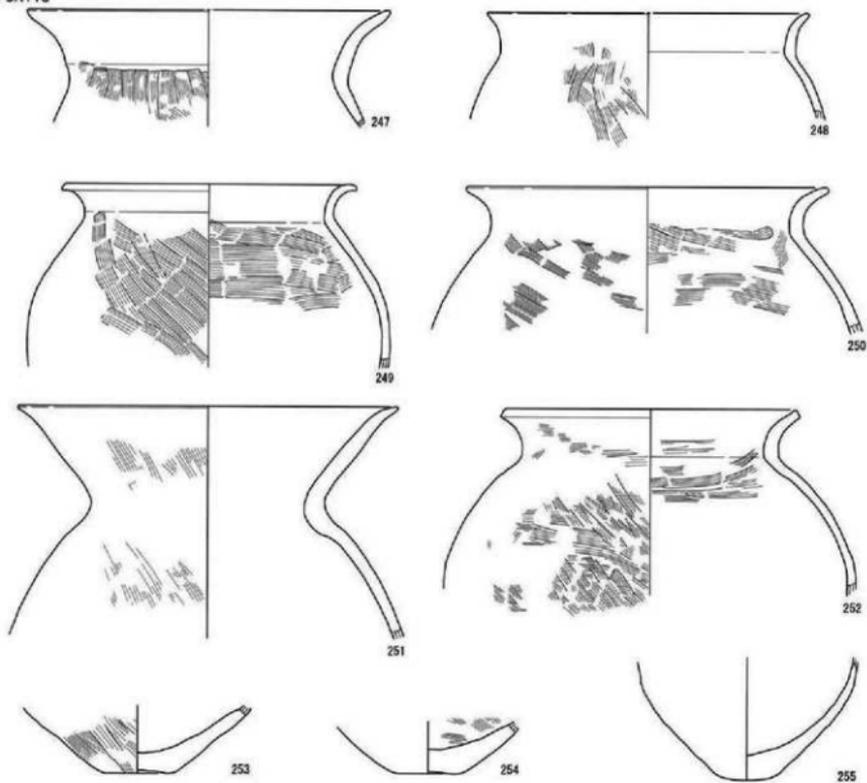


B-SX118

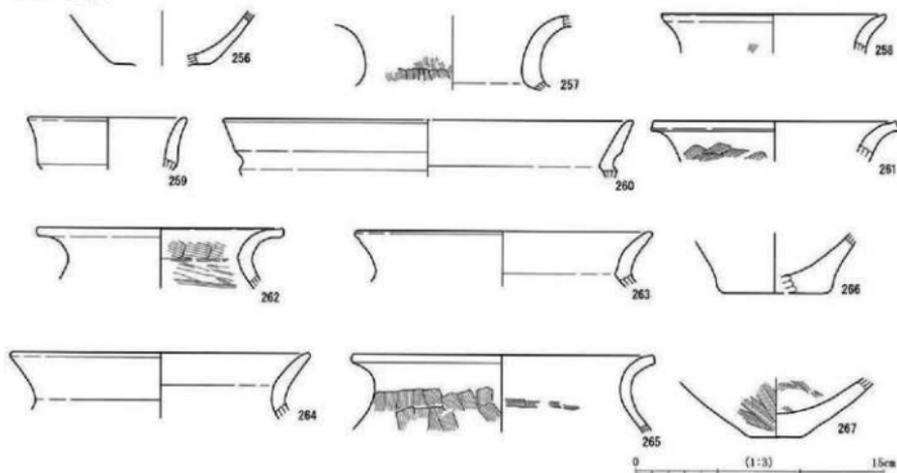


0 15cm  
(1:3)

B-SX118



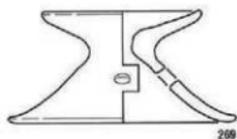
B-SX118 上位



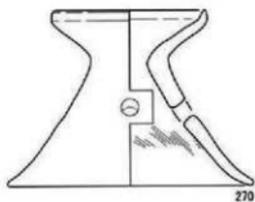
B-SX119



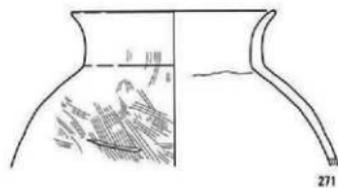
268



269



270



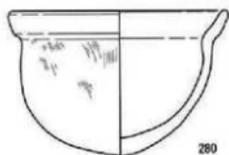
271



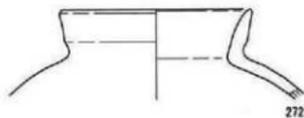
276



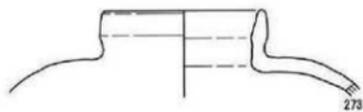
279



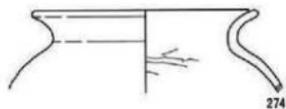
280



272



273



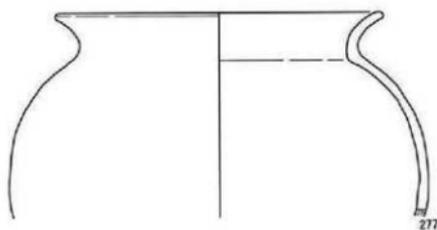
274



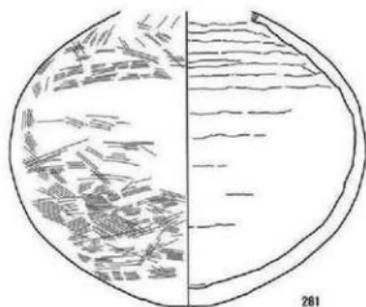
275



276



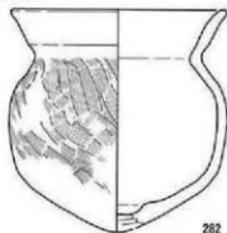
277



281

0 (1:3) 15cm

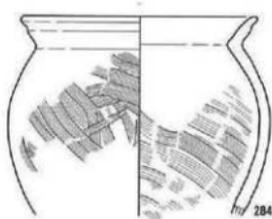
B-SX119



282



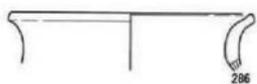
283



284



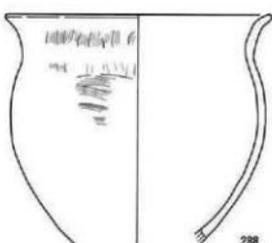
285



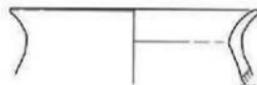
286



287



288



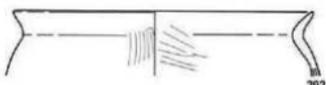
289



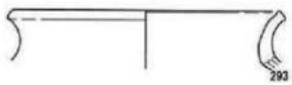
290



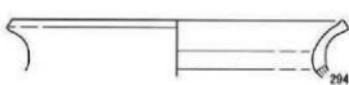
291



292



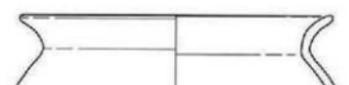
293



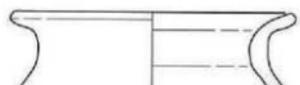
294



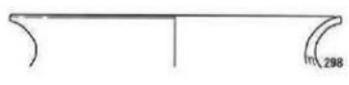
295



296

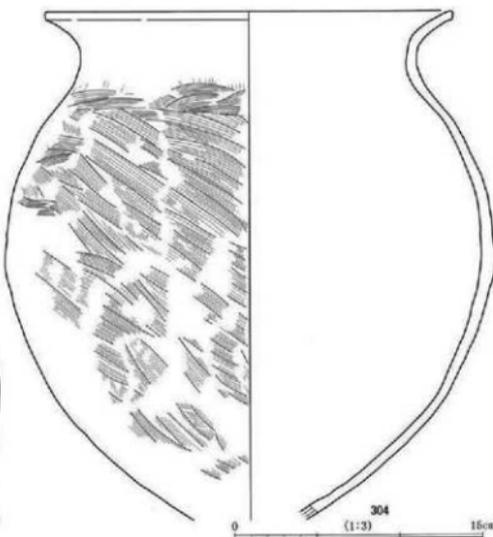
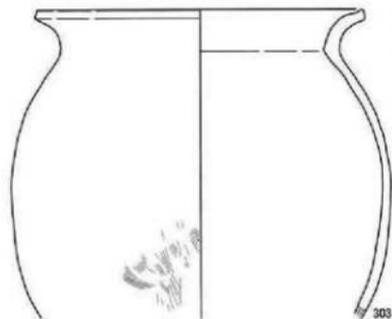
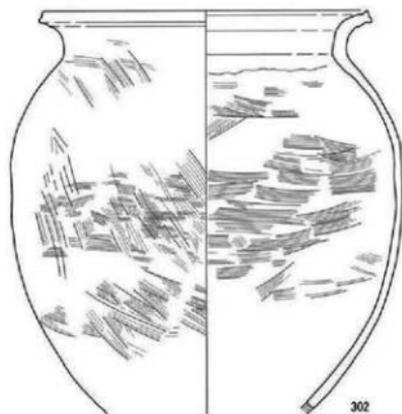
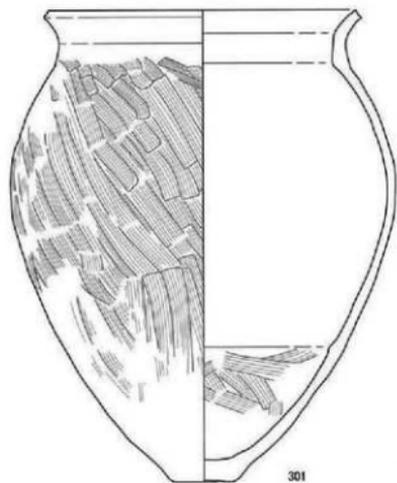
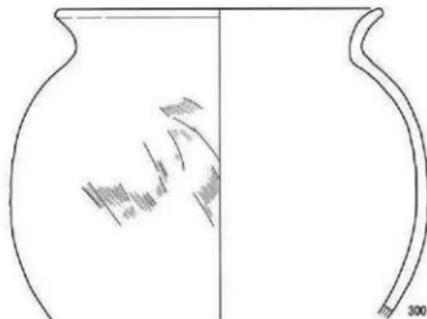
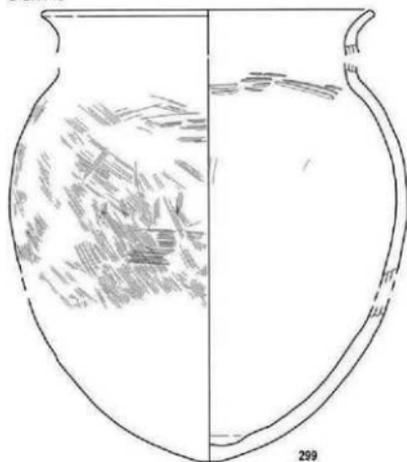


297

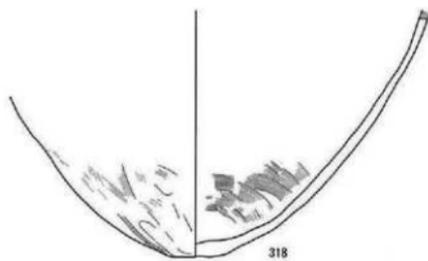
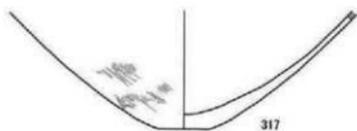
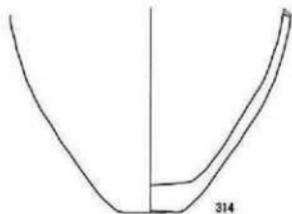
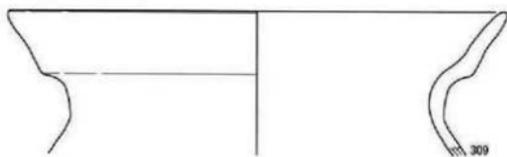
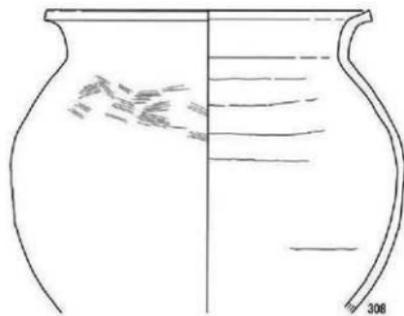
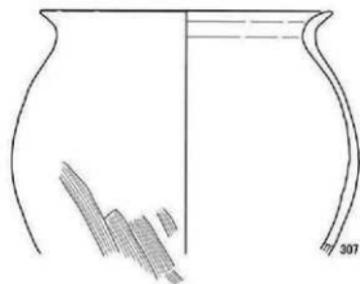
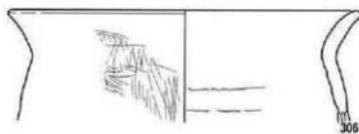
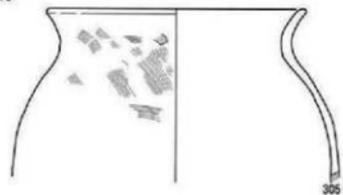


298

B-SX119

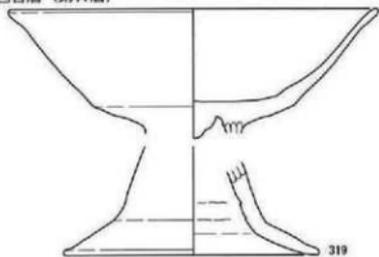


B-SX119

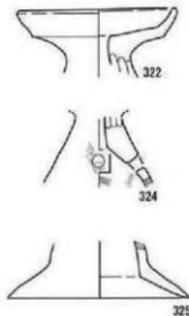


0 (1:3) 15cm

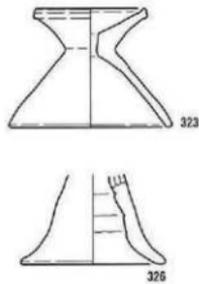
包含層 (第X層)



319



322

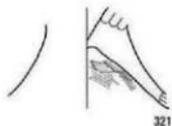


323

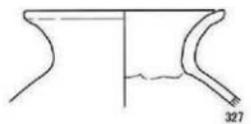
326



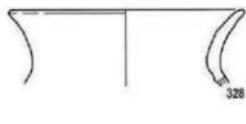
320



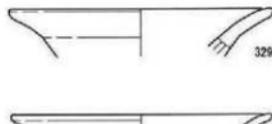
321



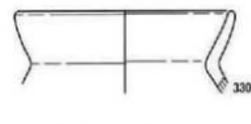
327



328



329



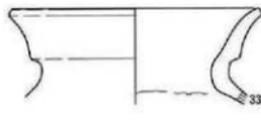
330



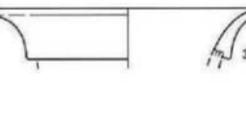
331



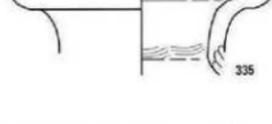
332



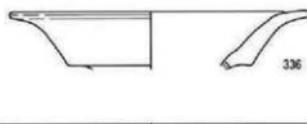
333



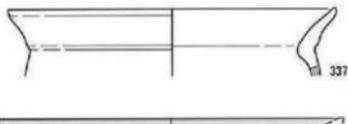
334



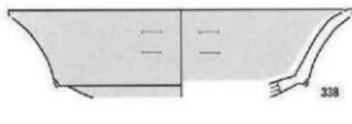
335



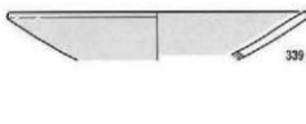
336



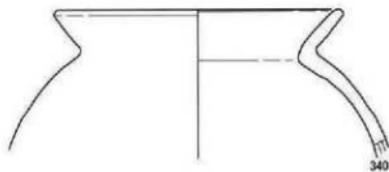
337



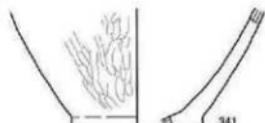
338



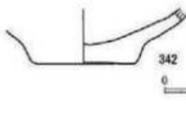
339



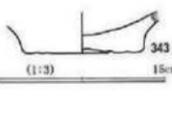
340



341



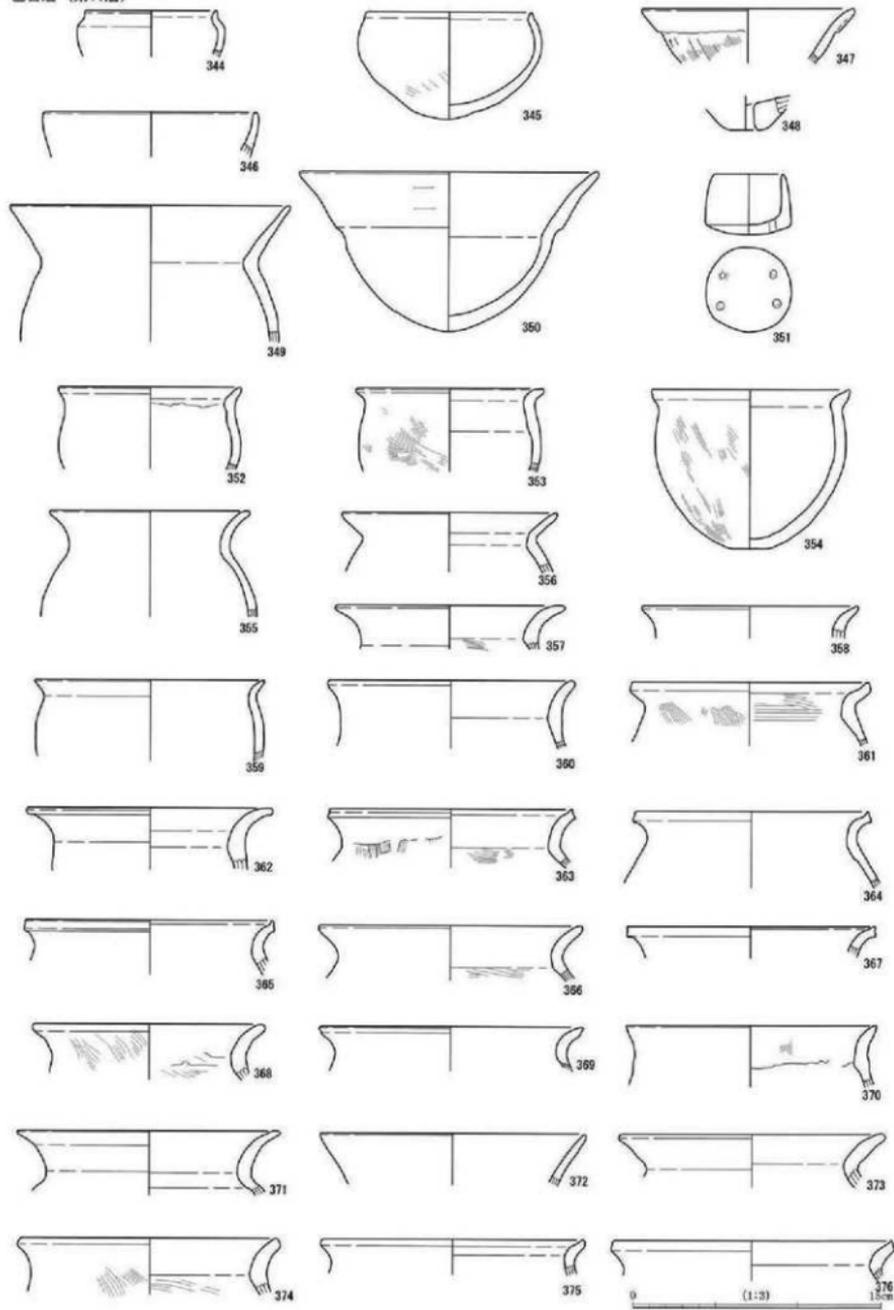
342



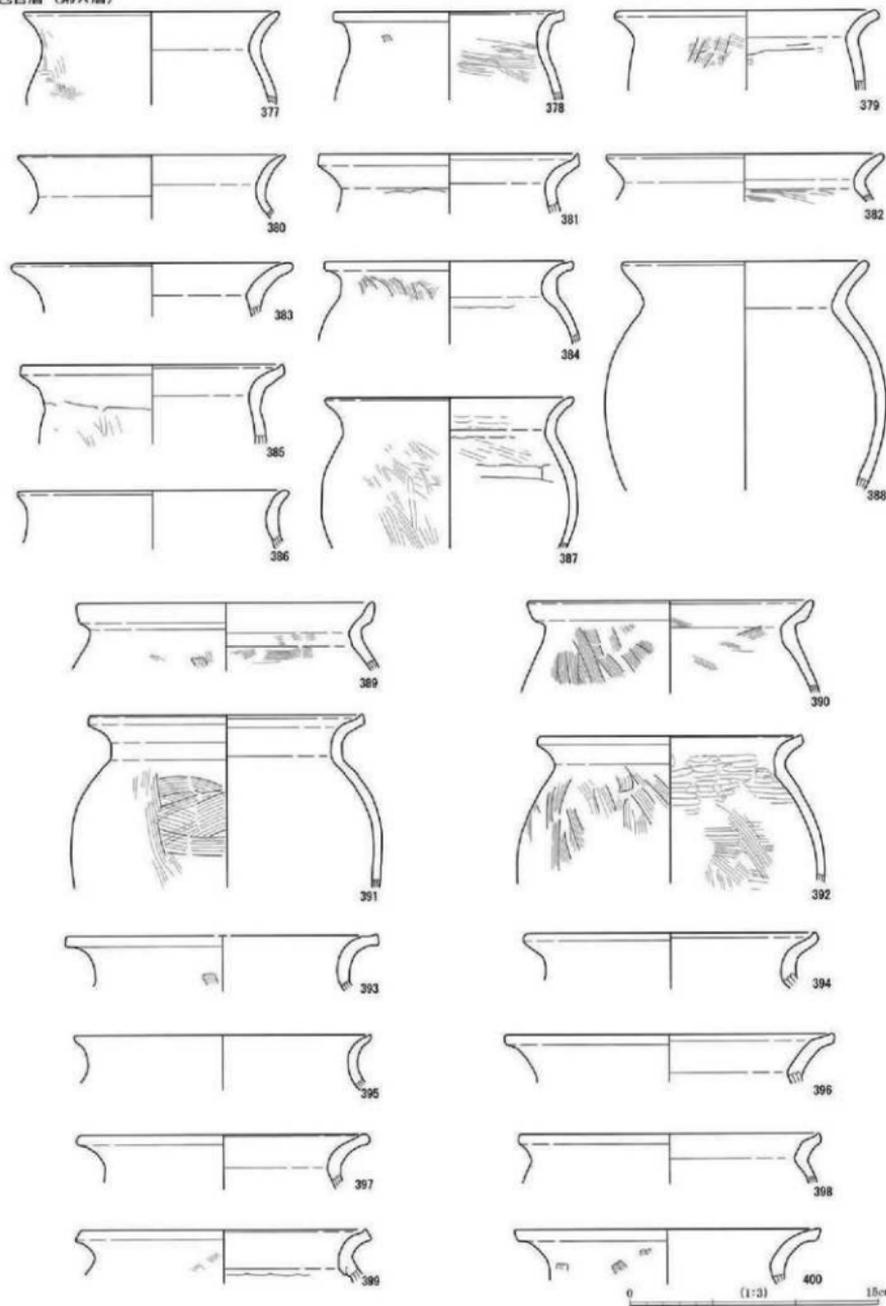
343

0 (1:3) 15cm

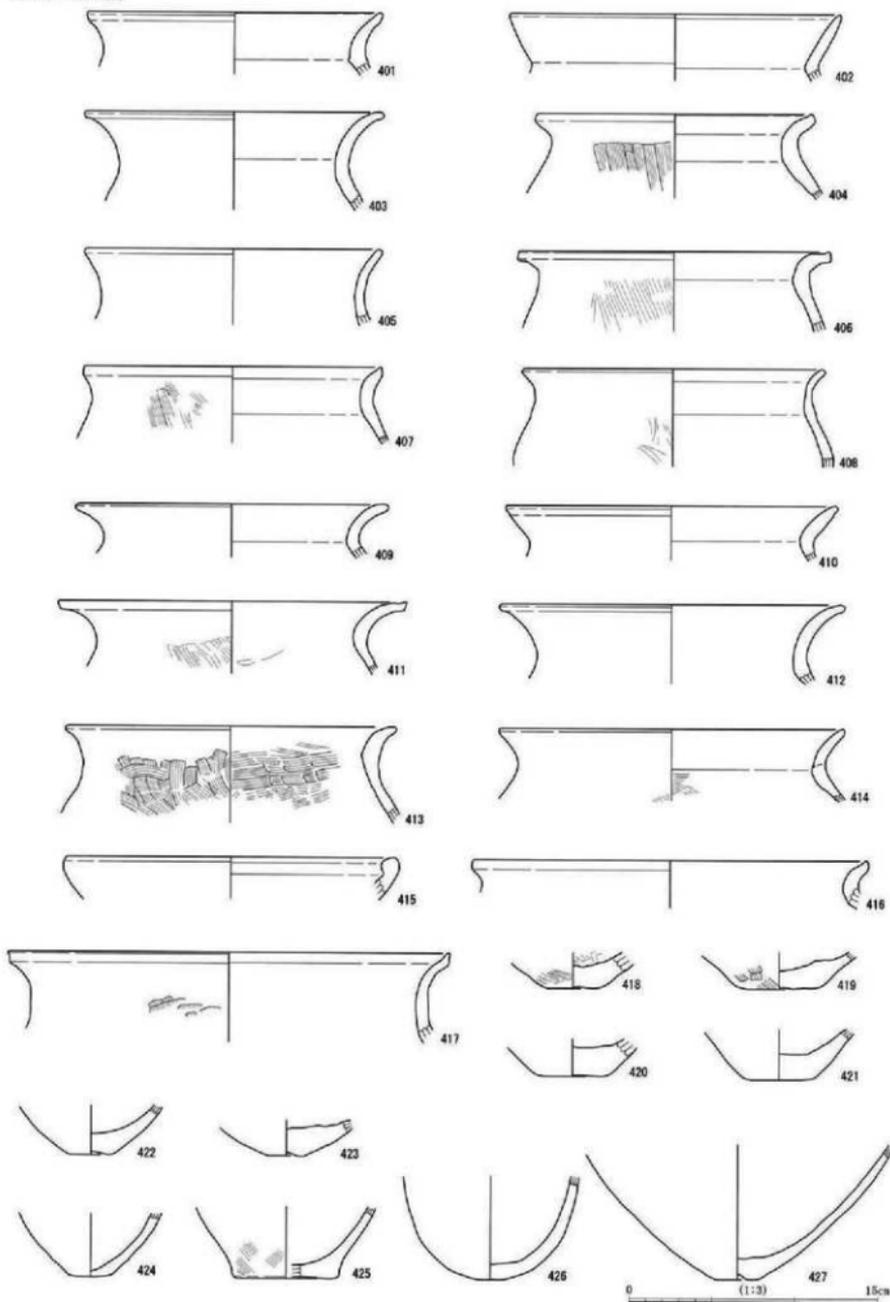
包含層 (第X層)



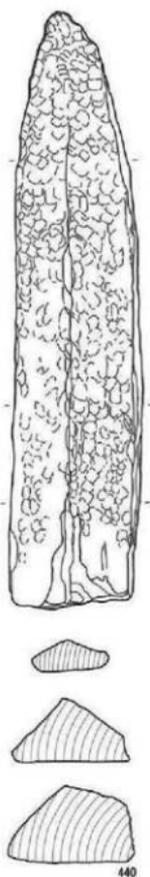
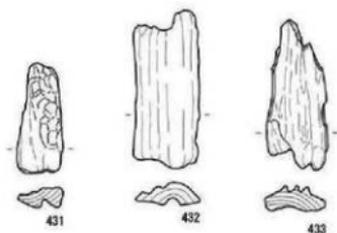
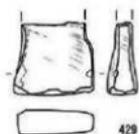
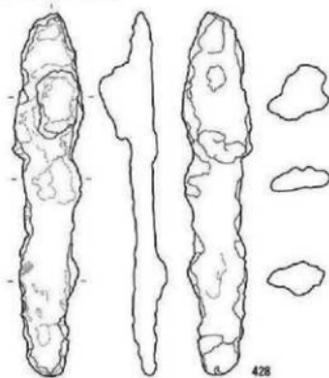
包含層 (第X層)



包含層 (第X層)



鉄製品・石製品・柱根





調査区近景

(北東から 中央左は別山川 最奥は米山)



調査区近景

(南西から 奥に別山川)



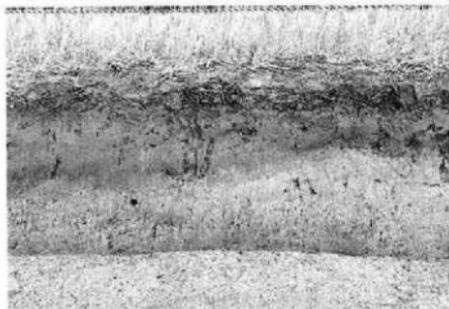
調査区近景

(南から 奥は長嶺大池)



調査区近景

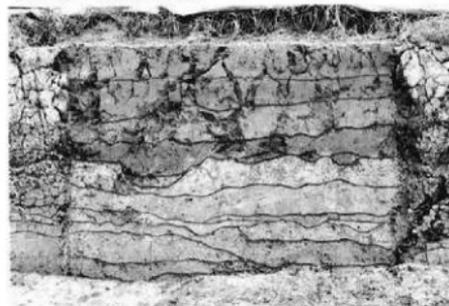
(北から 奥は雷地丘陵)



上层A地区 北東壁土层写真



上层A地区 南東壁土层写真



中层A地区 北東壁土层写真①



中层A地区 北東壁土层写真②



下层A地区 北東壁土层写真③



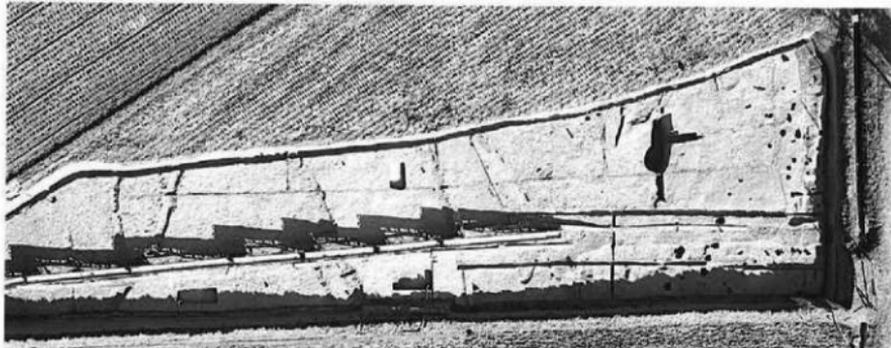
下层B地区 北壁土层写真④



下层B地区 北壁土层写真⑤

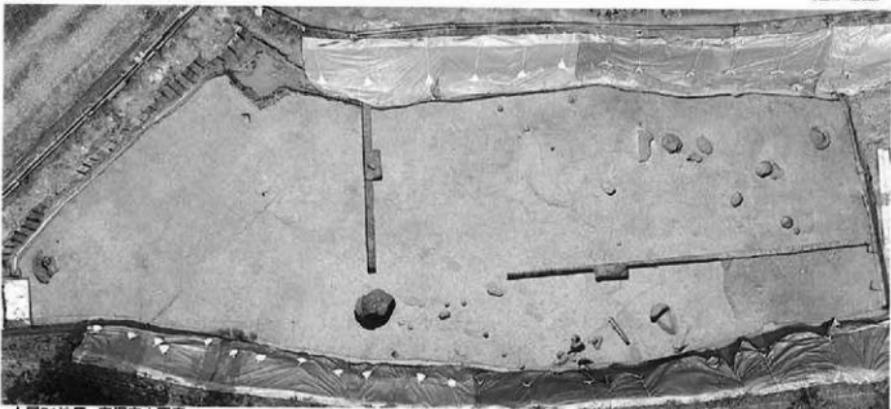


下层B地区 北壁土层写真⑥



上層A1地区 完掘空中写真

(左が北西)



上層B1地区 完掘空中写真

(左が西)



上層B2地区 完掘空中写真

(左が西)



上層A1地区 完掘空中写真

(南東から)



上層B1地区 完掘空中写真

(西から)



上層B2地区 完掘空中写真

(東から)



上層A1地区 完掘近景

(北西から)



上層A1地区 完掘全景

(北西から)



上層A2地区 完掘全景

(南東から)



上層B1地区 完掘全景

(南西から)



上層B1地区 完掘全景

(北西から)



上層B2地区 完掘全景

(南西から)

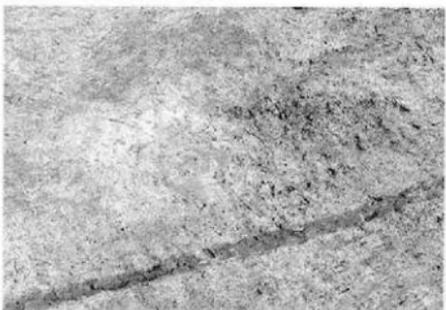


上層C地区 完掘全景

(南西から)



上層A1地区 南東壁土層堆積状況



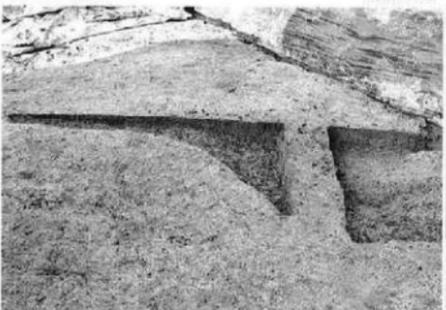
A-SK30 検出

(南東から)



A-SK30 完掘

(南東から)



A-SK35 土層断面

(南東から)



A-SK35 完掘

(南東から)



B-SK214 土層断面

(南西から)



B-SK214 発掘

(南東から)



B-SK209 土層断面

(南から)



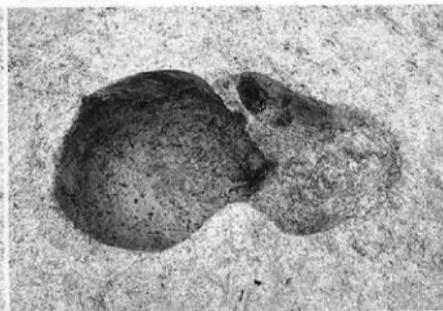
B-SK209 発掘

(南から)



B-SK51・52 土層断面

(南から)



B-SK51・52 発掘

(南から)



B-SK60・61 土層断面

(西から)



B-SK60・61 発掘

(西から)



B-SR201 完掘

(南から)



B-SR201 土層断面

(南から)



B-SE205 完掘

(南西から)



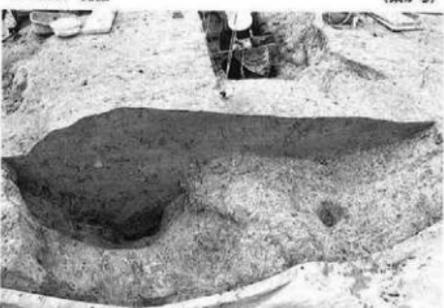
B-SE207 完掘

(東から)



B-SD213 土層断面

(東から)



B-SD213-B-SK216-217 土層断面

(東から)



B-SD202・213 完掘

(北東から)



B-SK217 完掘

(南から)



B-SK212 南北層位北部 (西から)



B-SK212 南北層位南部 (西から)



B-SK212 北側東西層位 (北西から)



B-SK212 南側東西層位 (南東から)



B-SK212 完掘南 (西から)



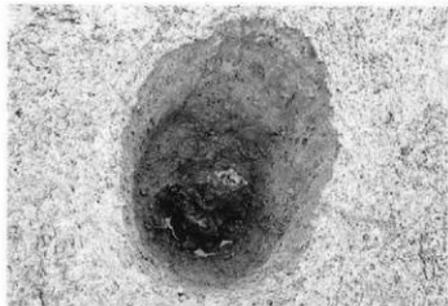
B-SK212 完掘 (北から)



A-SP121 土層断面 (南東から)



A-SP123 土層断面 (北西から)



A-SP126 柱根検出 (南東から)



A-SP127 土層断面 (南東から)



A-SP128 土層断面 (東から)



A-SP144 土層断面 (南東から)



A-SP162 土層断面 (南東から)



A-SP149 土層断面 (南東から)



A-SK3・4 完圖 (北東から)



A-SK3 土層断面 (南西から)



A-SK1 南側土層断面 (南東から)



A-SK1 北側土層断面 (南東から)



A-SK1 完掘 (西から)



A-SK1 完掘 (南東から)



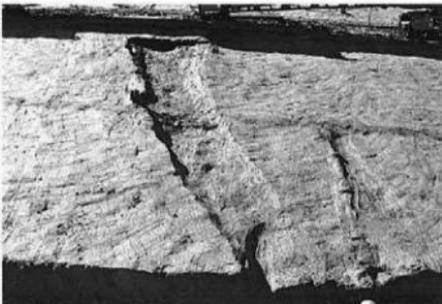
A-SK158 完掘 (北東から)



A-SD87-75 完掘 (南西から)



A-SD67 土層断面 (北東から)



A-SD87-75 完掘 (北東から)



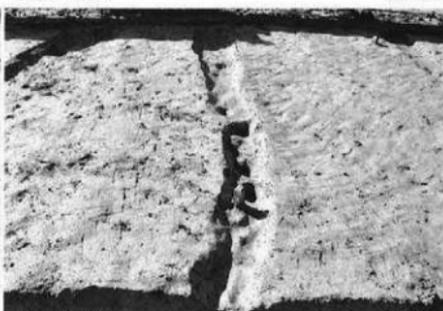
A-SD87 土層断面 (西から)



A-SD87 完掘 (東から)



A-SD101 土層断面 (北東から)



A-SD101 完掘 (北東から)



A-SD130 土層断面 (西から)



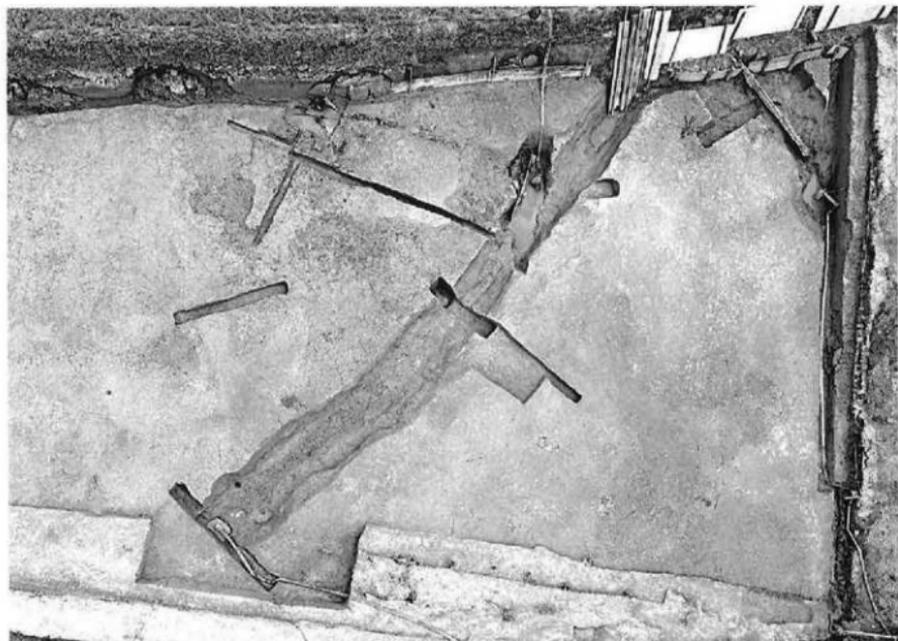
A-SD130 完掘 (南西から)



C-SP8 掘 完掘 (北東から)



B-SR20 上部土層堆積



中層A地区 完掘空中写真

(左が北西)



中層A地区 完掘近景

(西から)



中層C地区 完掘近景

(南西から)



A-SD301 完掘

(東から)



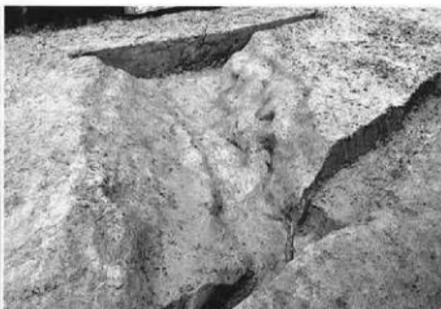
A-SD301 遺物出土状況

(東から)



A-SD302 完掘

(北東から)



C-SD302 完掘

(南から)



A-SD301 土層断面

(東から)



A-SD301・302 土層断面

(北西から)



A-SD302 土層断面

(北西から)



C-SD302 土層断面

(北西から)



A地区 中層上位遺物出土

(南から)



A地区 中層盛土状遺構土層

(南西から)



下層A地区 完掘近景

(南東から)



下層B1地区 完掘空中写真

(左が西)



下層A地区 完掘近景

(南西から)



下層A地区 完掘近景

(北東から)



下層B2地区 完掘近景

(西から)



下層B2地区 完掘近景

(東から)



下層B1地区 完掘近景

(東から)



下層B1地区 完掘近景

(南西から)



下層B1地区 完掘近景

(北西から)



下層B1地区 完掘空中写真

(西から)



A-SK401 完掘

(北東から)



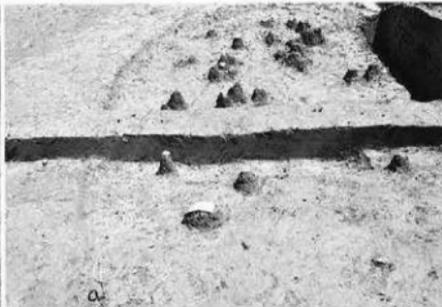
A-SK401 完掘

(南から)



A-SK401 遺物出土

(北西から)



A-SK401 土層断面

(南西から)



A-SK403 土層断面

(南から)



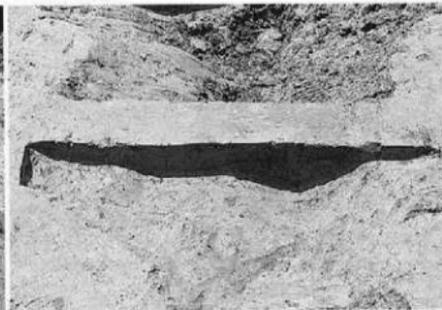
A-SK403 完掘

(南東から)



A-SD404他 完掘

(北から)



A-SD404・A-SK405 土層断面

(北から)



B-SK137 東西土層断面 (北西から)



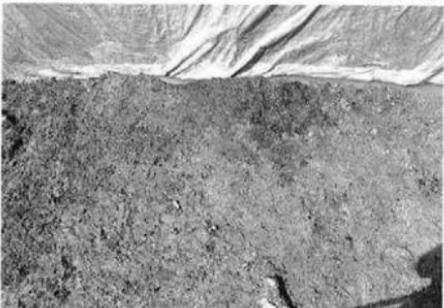
B-SK137 南北土層断面 (北東から)



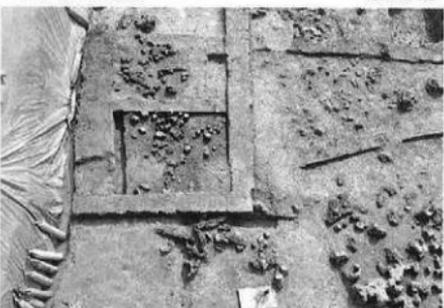
B-SK138 南壁土層断面 (北西から)



B-SK137・138 完掘 (北西から)



B-SD114他 検出 (南東から)



B-SD114他 遺物出土 (西から)



B-SD114他 遺物出土 (南東から)



B-SD114 土層断面 (西から)



B-SD114 土層断面

(東から)



B-SD114 完掘

(上が北)



B-SD114他 完掘

(北東から)



B-SD114他 完掘

(西から)



B-SD114 完掘

(南東から)



B-SD116 完掘

(南から)



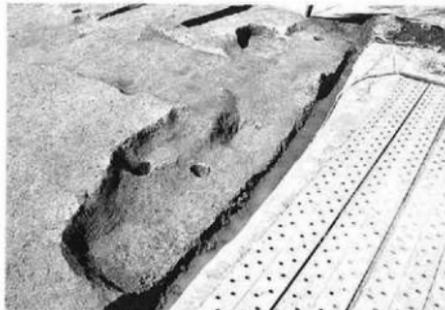
B-SD116北部上位 遺物出土

(南から)



B-SD114上位 遺物出土

(南から)



B-SK131西半 完掘 (南東から)



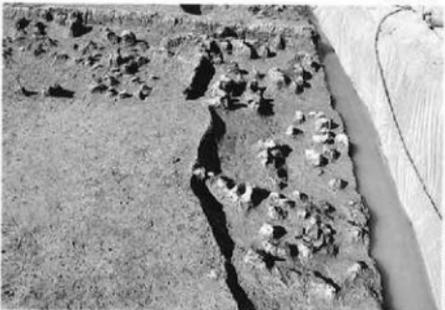
B-SK131西半 完掘 (北から)



B-SK131東半 完掘 (南から)



B-SK131東半 完掘 (南東から)



B-SK131西半 遺物出土 (南から)



B-SK131東半 遺物出土 (北西から)



B-SK131西半 土層断面 (南から)



B-SK131東半 土層断面 (西から)



B-SK171 土層断面

(東から)



B-SD178 土層断面

(東から)



B-SK231 発掘

(東から)



B-SK231 土層断面

(東から)



下層C地区 発掘

(南西から)



C-SK401 発掘

(北東から)



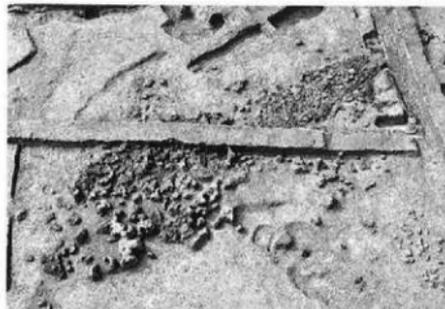
B-SD167 発掘

(北から)



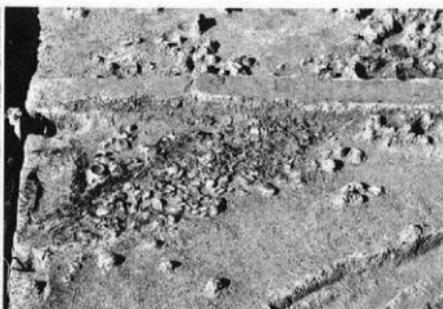
B-SD167 土層断面

(南から)



B-SX118 遺物出土

(北から)



B-SX118 遺物出土

(南から)



B-SX118 遺物出土

(東から)



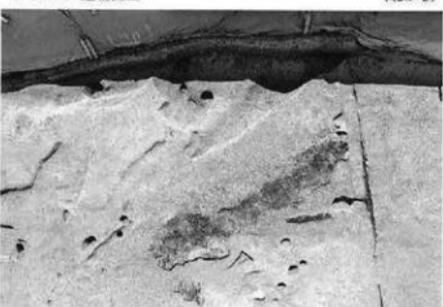
B-SX118 遺物出土

(北から)



B-SX118 遺物取上げ後

(北西から)



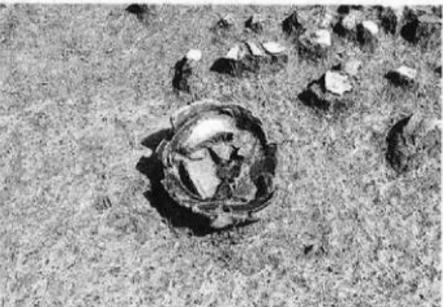
B-SX118 遺物取上げ後

(上が南)



B-SX119 遺物出土

(西から)



B-SX119 壺出土

(西から)



B-SX118 南北土層

(東から)



B-SX118 南北土層

(東から)



B-SX118 東西土層

(南東から)



B-SX118 東西土層

(南西から)



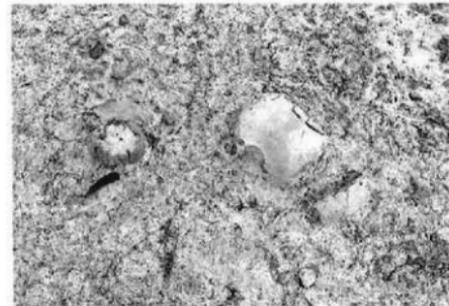
B-SK128 遺物出土状況(117)

(北から)



B-SK128 遺物出土状況(106)

(西から)



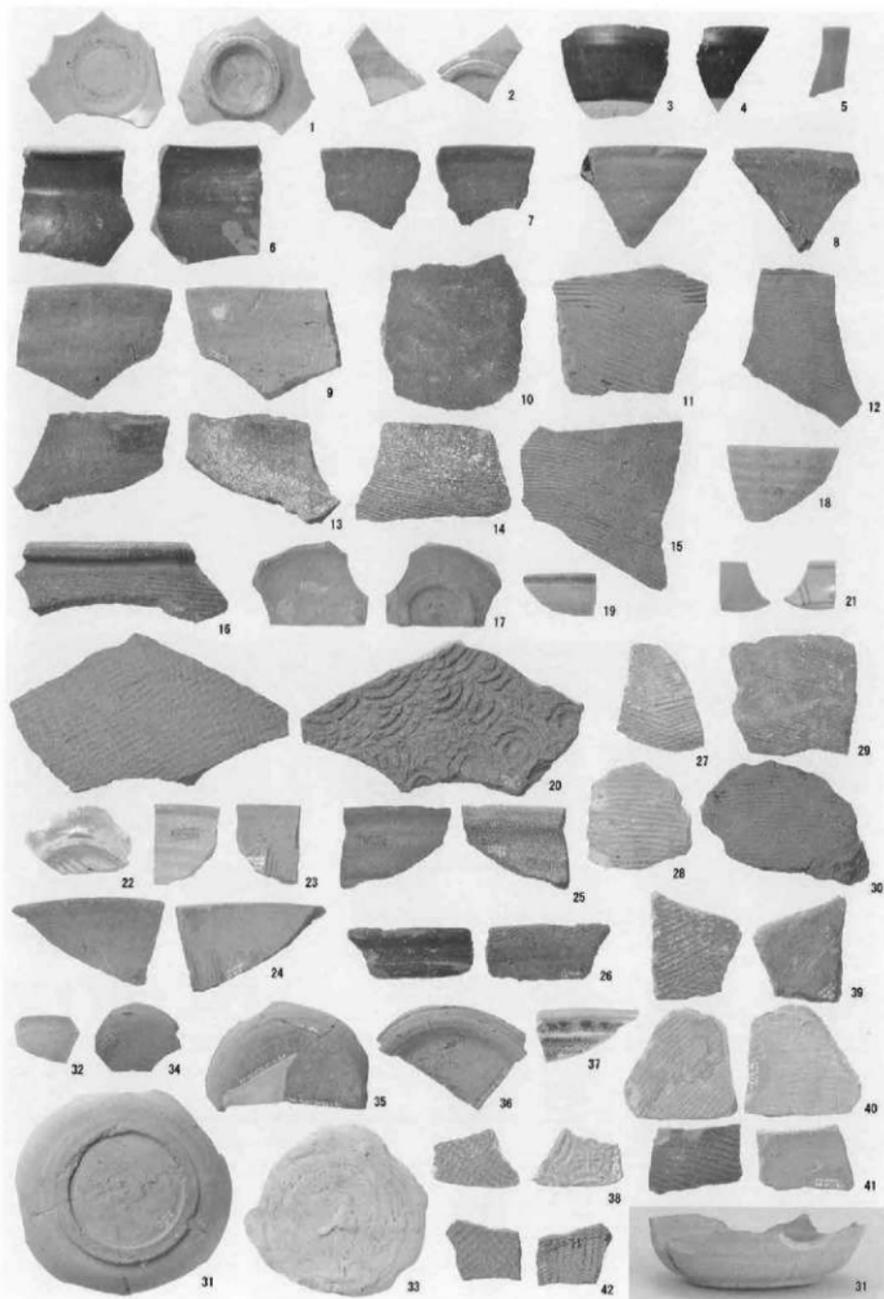
B地区下層 遺物出土状況(319)

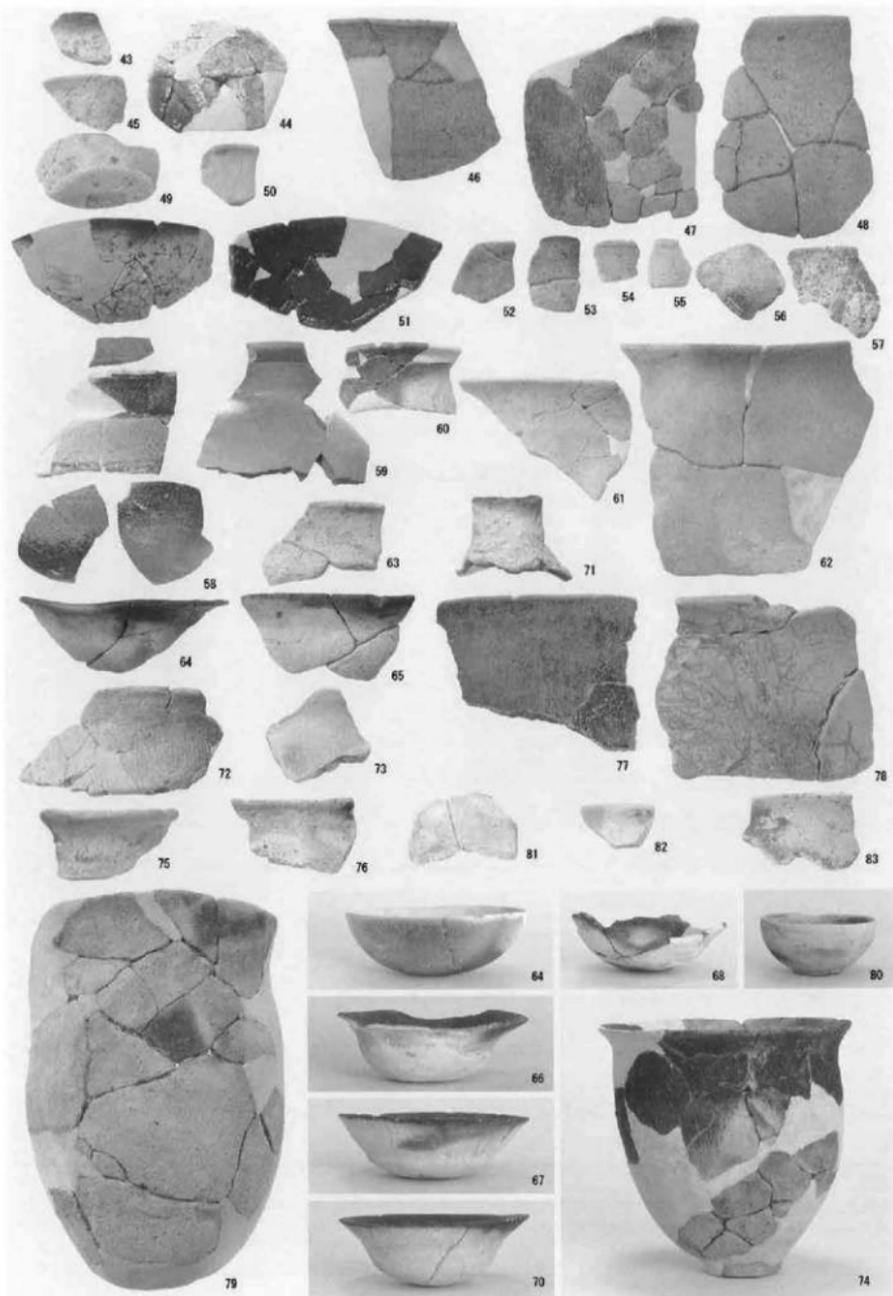
(南から)

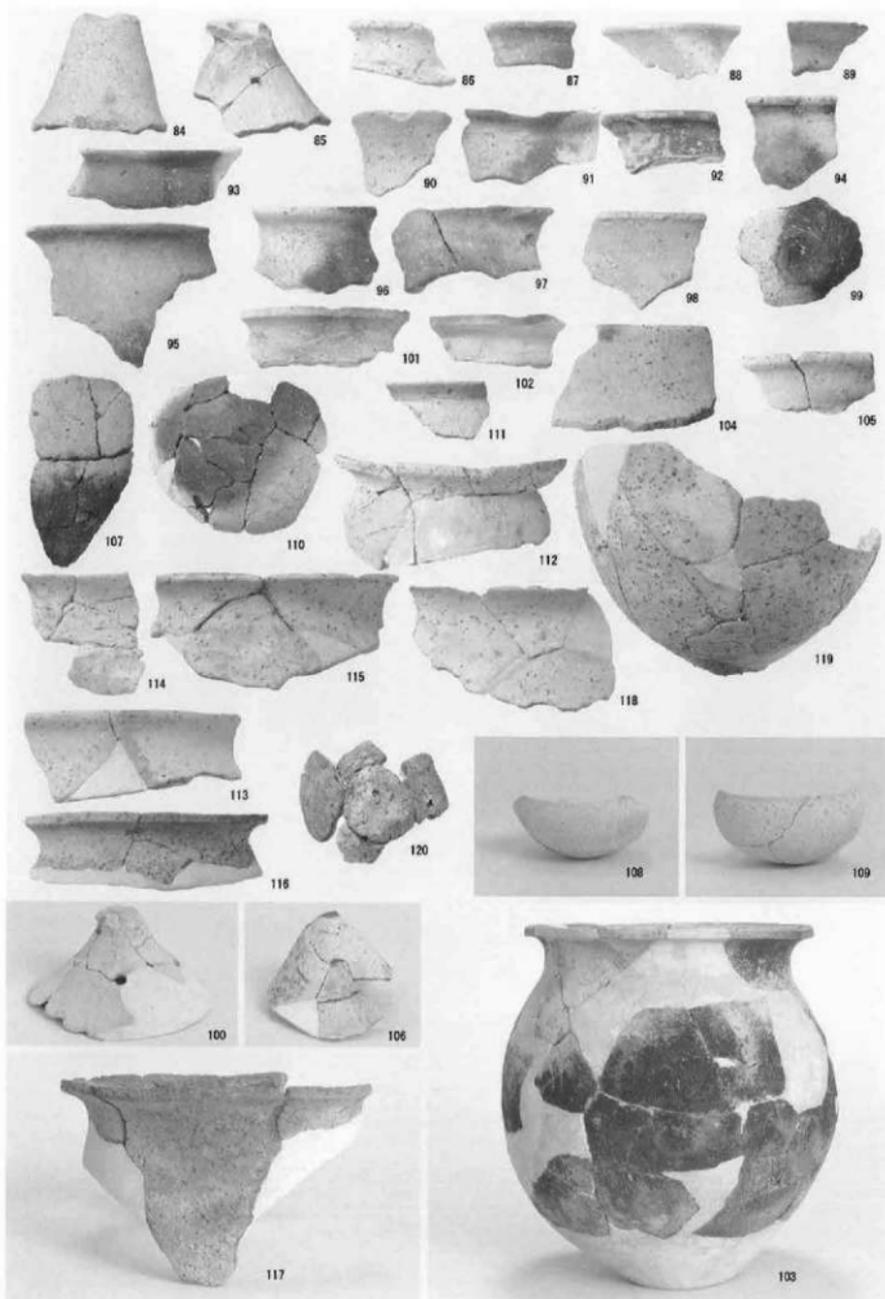


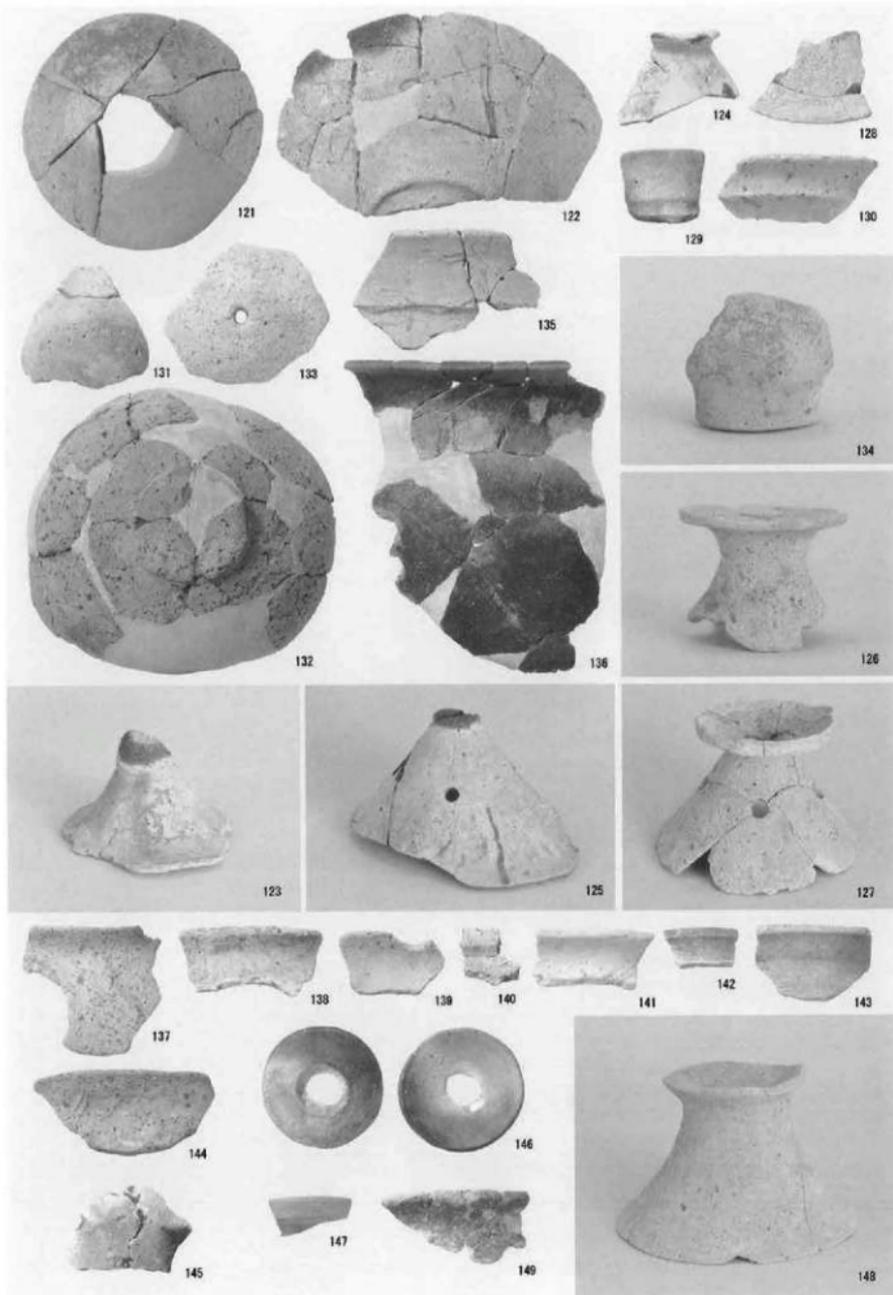
B-SD114周辺 遺物出土状況

(西から)











150



150



153



150



151



152



154

157

158

161

160

162

159

163

164



155



156



165



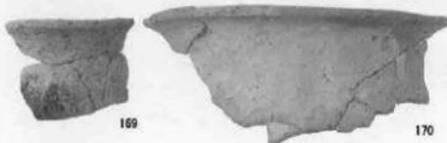
166



167



168

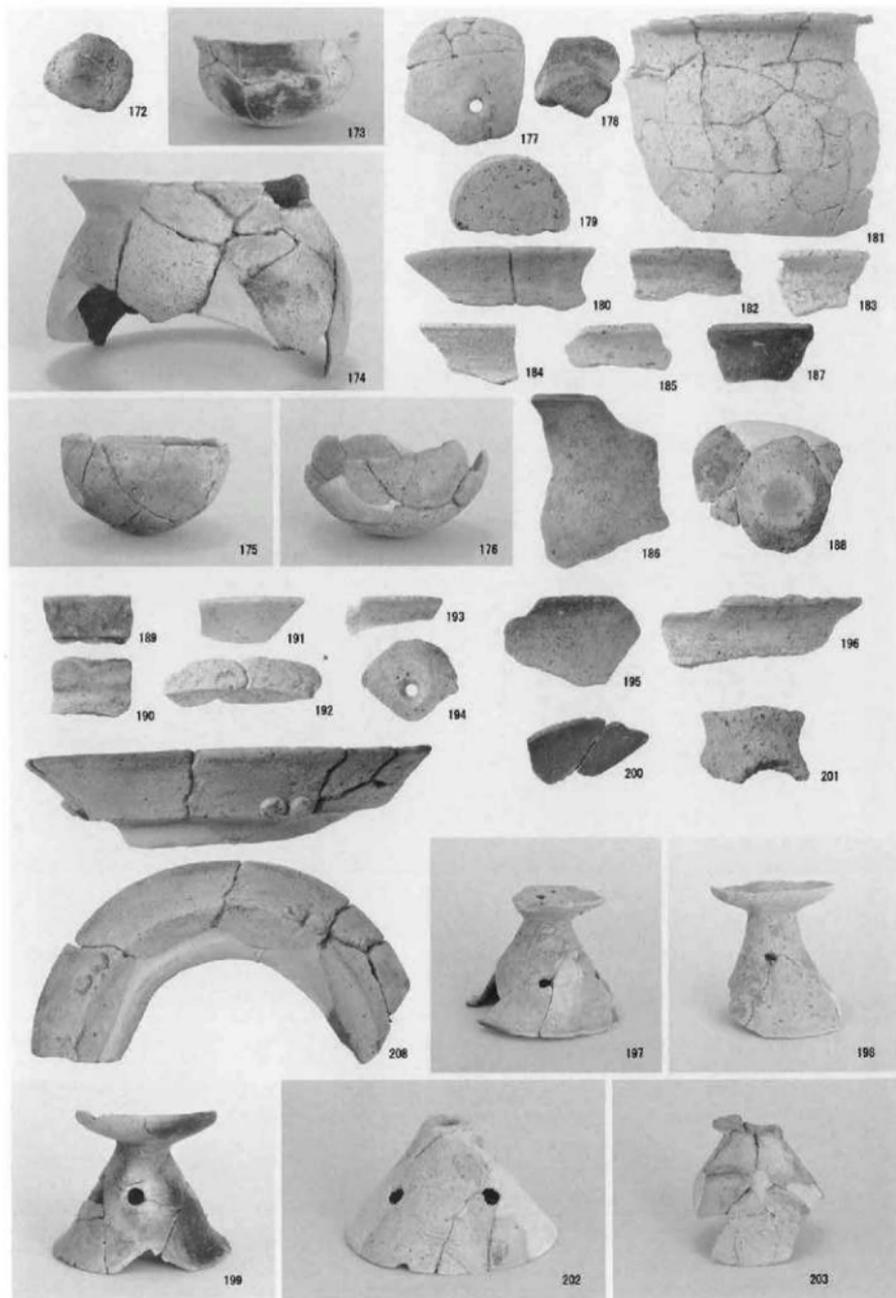


169

170



171





204



206



205



207



209



210



211



212

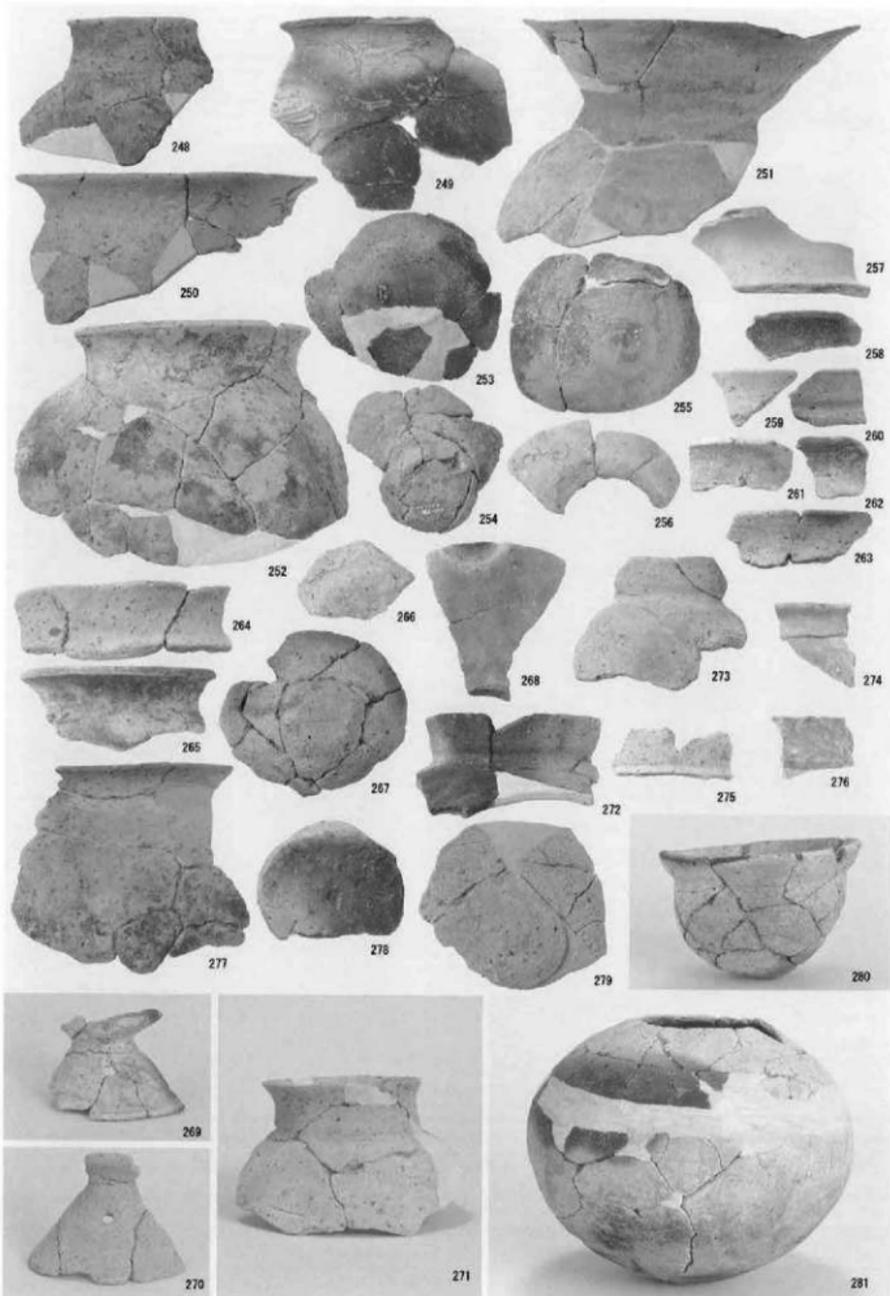


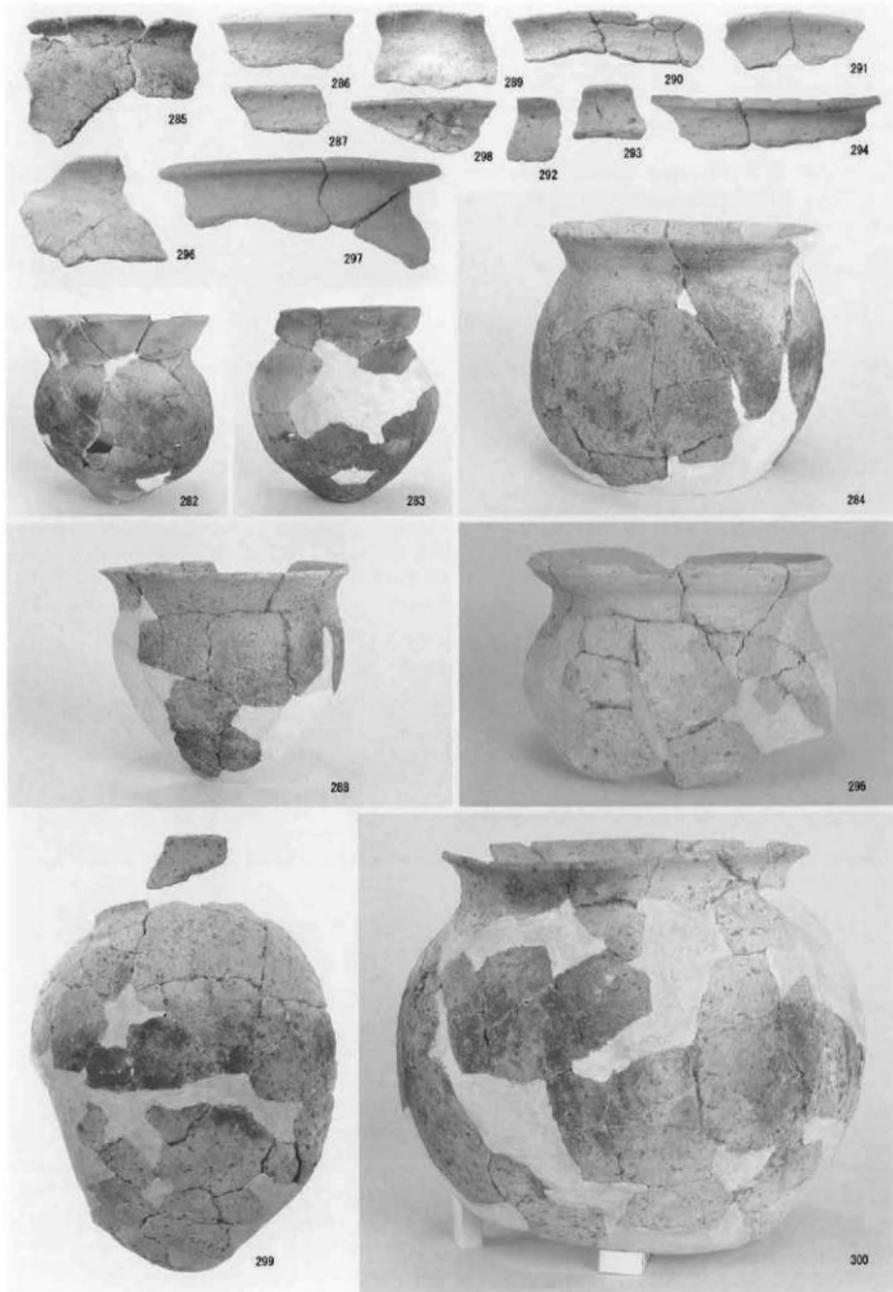
226



223









301



302



303



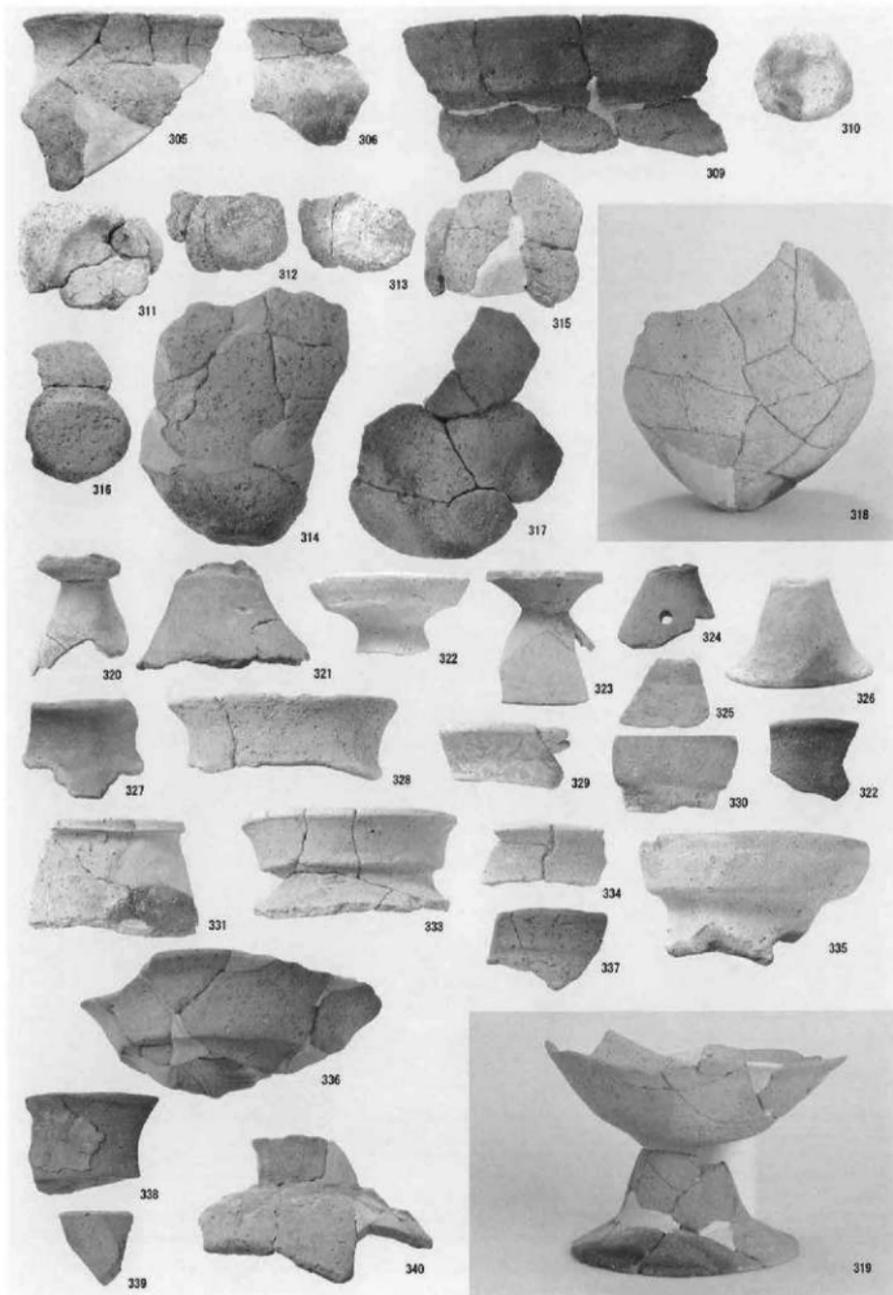
304

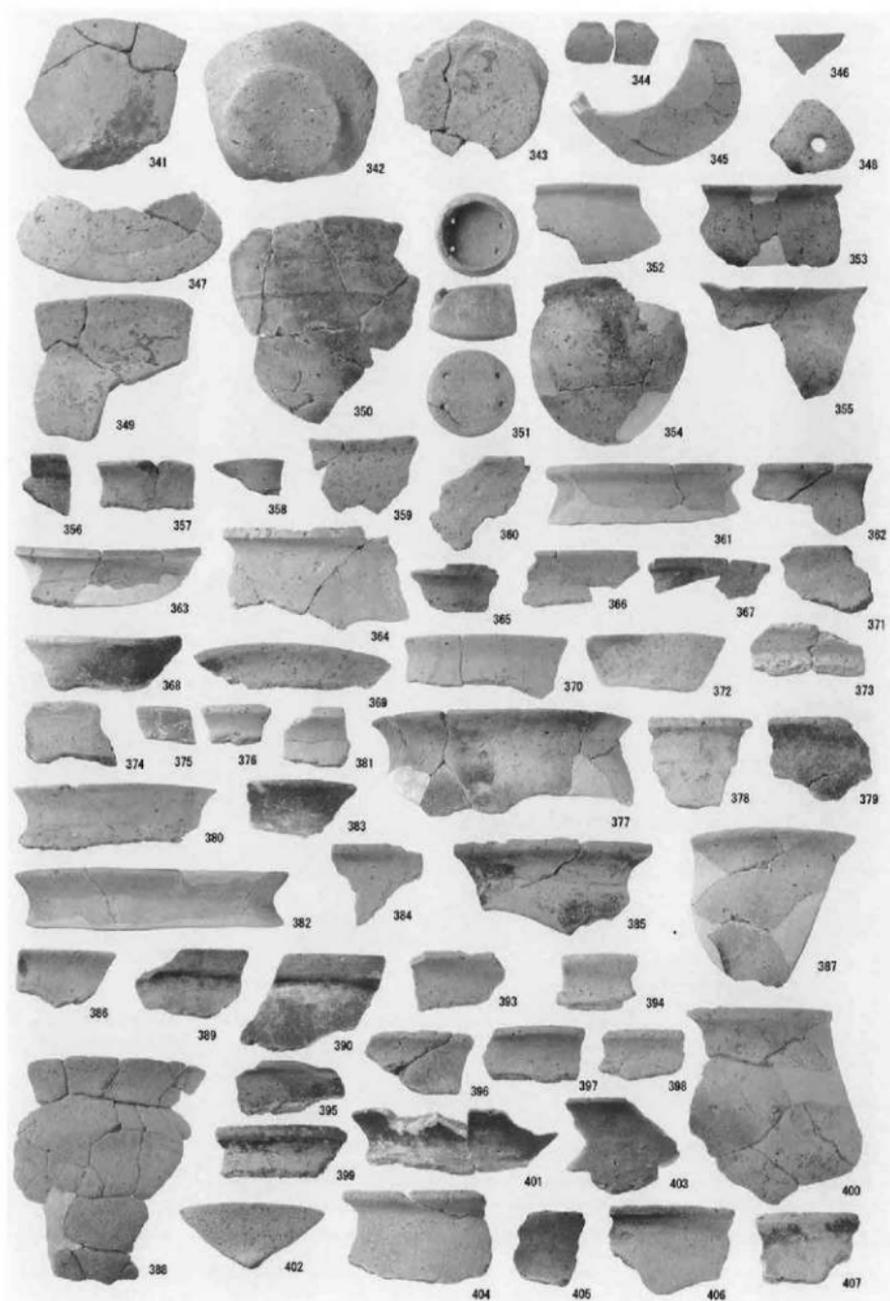


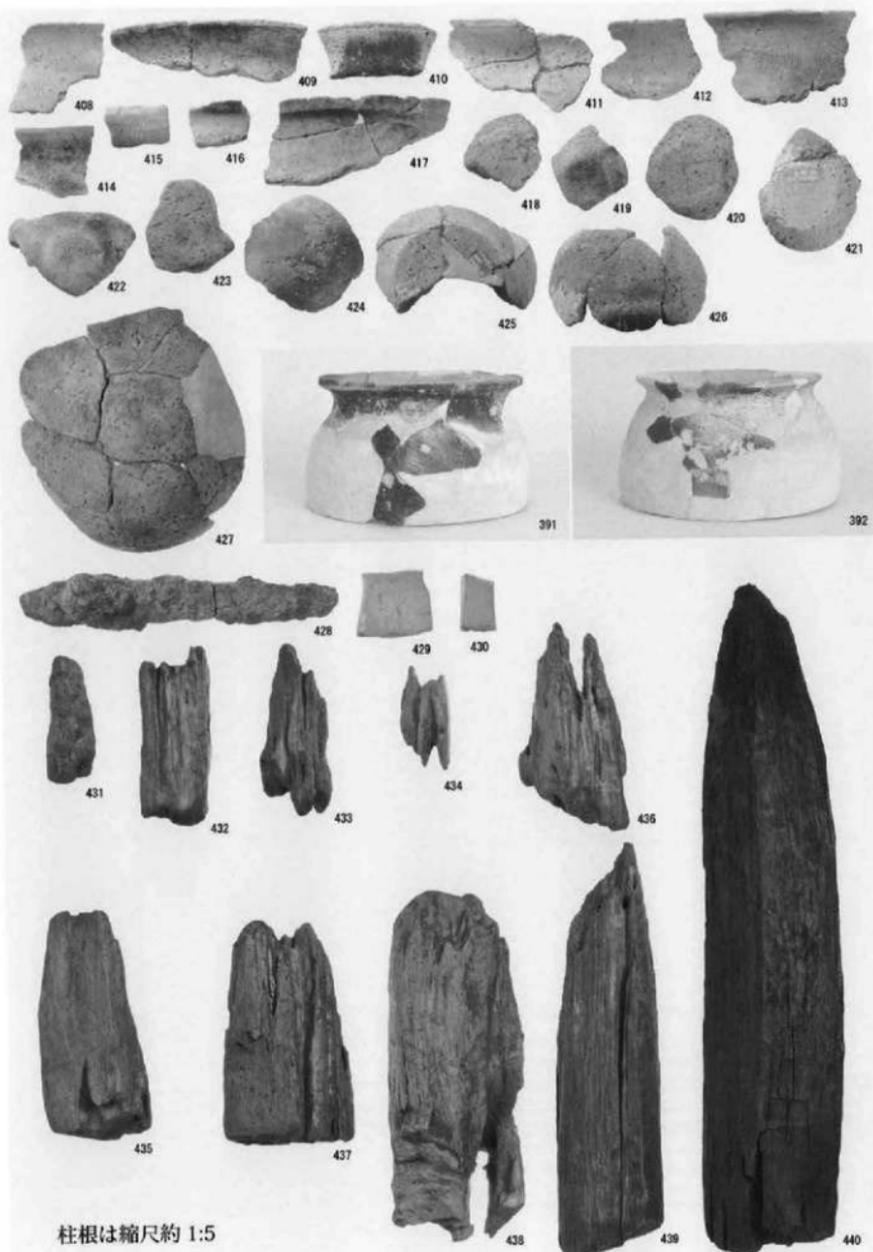
307



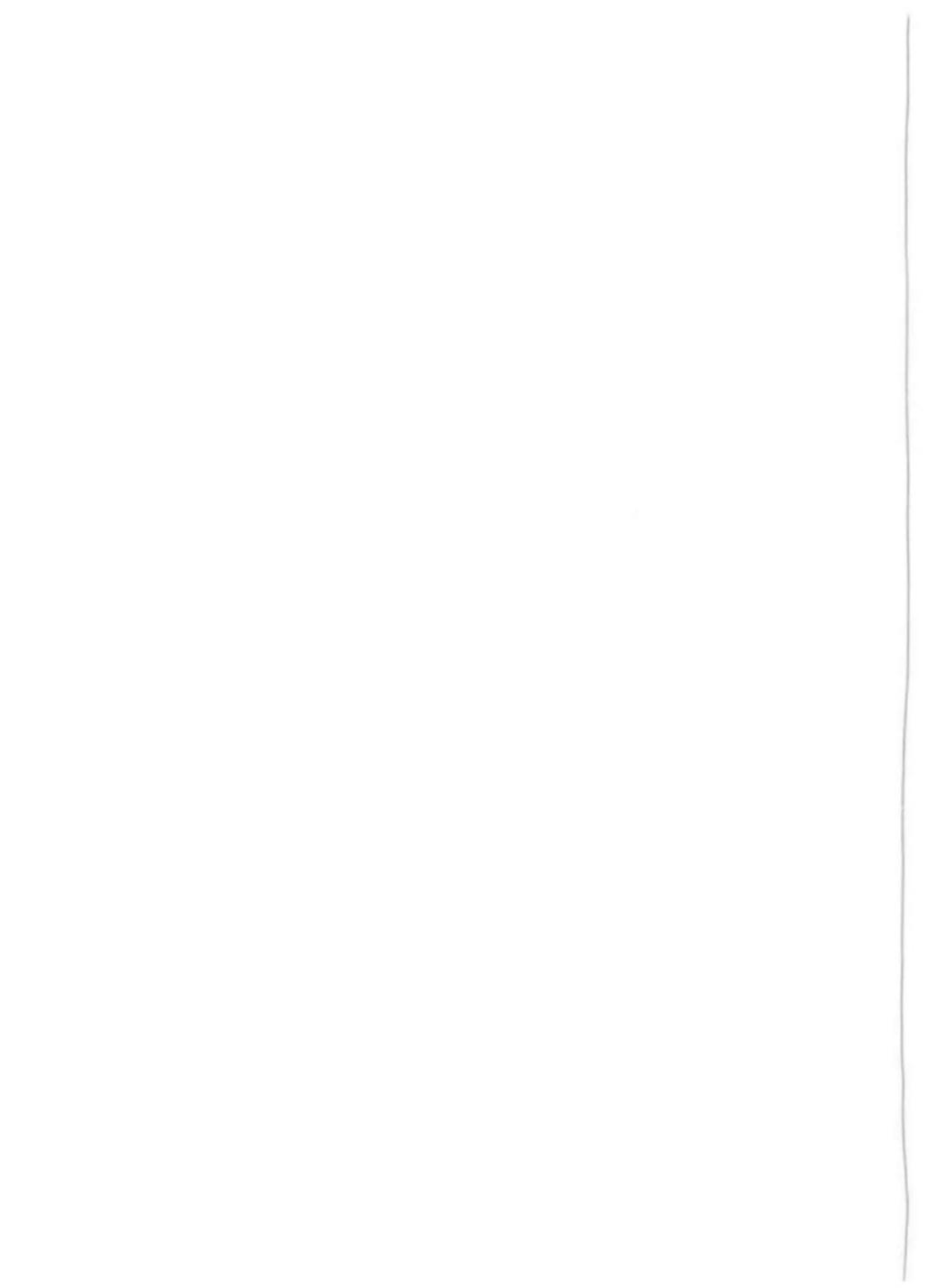
308







柱根は縮尺約 1:5



## 報告書抄録

ふりがな	ながみねまえだ							
書名	長嶺前田							
副書名	新潟県柏崎市 長嶺前田遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書第86集							
編著者名	中島義人							
編集機関	柏崎市教育委員会 博物館 埋蔵文化財係							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL. 0257-23-5111							
発行年月日	西暦 2017年2月25日							
ふりがな しゅうじゆいせき 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間 西暦年月日	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながみねまえだ 長嶺前田遺跡	新潟県柏崎市 西山町長嶺 あさみまへだ 字前田他	15205	979	37度 27分 21秒	138度 39分 11秒	20111012 ～ 20141219	2,100	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長嶺前田遺跡	集落跡	古墳(前期)	溝・土坑・ピット・土器溜まり		土器		古墳時代前期から近世までの複合遺跡である。古墳時代前期の土器溜まりで多量の土器が出土した。	
	集落跡	古墳(後期)	土坑・ピット・塹穴状土坑		土器・須恵器			
	集落跡	古代・中世	井戸・溝・土坑		須恵器・土師器・珠洲・青磁			
	集落跡	近世	井戸		陶磁器(肥前系・瀬戸美濃系)			

※ 緯度・経度は世界測地系に基づく。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第86集

## 長嶺前田

— 新潟県柏崎市 長嶺前田遺跡発掘調査報告書 —

平成29年2月15日 印刷

平成29年2月25日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 株式会社 小田

〒945-1352 新潟県柏崎市安田4153-1